

ローザンヌ運動特別報告書 67 ユダヤ人伝道

本 PDF は、現在インターネット上に公開されている文書の日本語訳であり、現在における世界各地でのユダヤ人伝道に関する情報をまとめた報告書です。これを作成した LCJE は、ユダヤ人伝道団体の世界的ネットワークです。詳しくは、巻頭の「はじめに」をご参照ください。

本書は 2004 年に作成された LOP60 の改訂版です。LOP60 は、近藤宏子氏の翻訳により 2006 年に関西ミッション・リサーチ・センターから出版されました。LOP67 はそれから 17 年の時を経て、現在の状況を反映した報告書として作成されています。

本書では、なるべくカタカナ表記や日本語表記としているため、更なる情報収集のため、英文表記が必要な場合があると思われます。各章タイトルの下に [英語本文へのリンク](#) をクリックしていただきますと、対応する英文ページにリンクされますので、ご利用ください。

また、わかりにくい専門用語があるため、巻頭に日本向けの用語解説を収録しました。
本書の利用については、以下までお問合せ下さい。

LCJE 日本支部（ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会日本支部）

〒541-0041 大阪府中央区北浜 2-3-10 VIP 関西センター 3F

電話：072-867-6721 FAX：072-867-6721 E メール：lcje1226@gmail.com

ホームページ：<https://www.lcjejapan.com/> 郵便振替：00950-4-25633

※LCJE 日本支部は、LCJE 世界ネットワークの日本支部として、1994 年に中川健一師、黒田禎一郎師らにより設立されました。現在の日本支部の国際コーディネーターはチャールズ・クリングスミス師です。日本支部では、2017 年には実会場で、2022 年にはオンラインで、「東アジア・ユダヤ人伝道カンファレンス」を開催し、また、毎月、東京・大阪・オンラインで祈り会を開催しています。

[英語本文へのリンク](#)

全体目次

用語解説

はじめに：なぜユダヤ人伝道なのか？

第1章：ユダヤ人伝道の歴史

第2章：ユダヤ人コミュニティとユダヤ人伝道

第3章：神学的考察とユダヤ人伝道

第4章：ユダヤ人伝道の10の問題と対応策

第5章：ユダヤ人伝道における戦略と実践

参考文献：さらに学びを深めるために - リッチ・ロビンソン博士

翻訳 田中身和子、石井田直二

用語解説

ユダヤ人の分類

- ・ **ディアスポラ（離散）** イスラエル以外の地に長く住むユダヤ人を指す。主に1世紀の神殿崩壊以後の時期について使われるが、現代イスラエルの建国後は、イスラエル居住のユダヤ人と対比させる場合によく用いられる。ちなみに、全世界のユダヤ人の約半数はディアスポラの状態にある。
- ・ **アリヤー（帰還）** ユダヤ人がイスラエルに帰還移民することを指す。イスラエルには「帰還法」があり、祖父母の1人がユダヤ人だと証明されれば、容易に国籍が取得できる。
- ・ **アシュケナジ** 東欧系のユダヤ人を指す。ドイツ語圏が文化の中心地だったため、ドイツ語とヘブライ語の混合語である「イディッシュ語」が発達した。移民にともない、米国やイスラエルで主導的な役割を果たしている。ホロコーストの主要な被害者となった。
- ・ **セファラディ** スペイン系のユダヤ人を指す。中世スペインでの激しいユダヤ人迫害で各地に散らばった。スペイン語とヘブライ語の混合語であるラディノ語を話す。アシュケナジとセファラディは、多くの点で異なる文化を持つ。現代のイスラエルにおいては、アシュケナジとセファラディにそれぞれチーフラビがおり、両者の間には微妙な緊張関係がある。
- ・ **ミズラヒ** アシュケナジとセファラディのどちらにも属しない中東系のユダヤ人を指す。ただし、文化的にはセファラディに近いので、セファラディに含める場合もある。
- ・ **超正統派（ハレディとも言う）、正統派、世俗派、伝統派** ユダヤ人の宗教に対する態度を説明する場合に使われる用語。超正統派は黒い独特の服を着て厳格に律法を守り独自のコミュニティを持つ。男性は働かず律法の学びに専念する人が多い。正統派も律法を守るが、普通の服装をして一般の社会で暮らす。世俗派は民族的にユダヤ人だがユダヤ教は信じない人々。イスラエルのユダヤ人は、以上の3区分で考えることが多いが、世俗派の中には「宗教ではなく伝統としてユダヤの祭りや食物規定などを守る」という人々が多いため、そのような人々を「伝統派」と呼ぶ場合もある。
- ・ **正統派、保守派、改革派、再建派** 米国など離散地におけるユダヤ教派の分類。正統派は厳格に律法を守るが、改革派は律法の細目にはこだわらず、男女が一緒に礼拝する。保守派は中間的。米国では改革派や再建派が多数派だが、イスラエルでは正統派が独占的地位を持ち保守派や改革派を締め出しているため、米国とイスラエルのユダヤ人の対立の原因となっている。

ユダヤ教／メシアニック運動用語

- ・ **メシアニック・ジュー** イエス・キリストを信じたユダヤ人のうち、特にユダヤの宗教律法やアイデンティティを守り続ける人々を指す。ただし、イスラエルにおいては、様々な事情から次項のユダヤ人ビリーバーと同じ意味で、この語を用いることが多い。
- ・ **ユダヤ人ビリーバー** ユダヤの宗教律法に関する立場にかかわらず、イエスを信じるユダヤ人を総称する場合に使う用語。メシアニック・ジューも異邦人クリスチャンも含めて、人種にかかわらずイエスを信じる人を総称して、単に「ビリーバー」と言う場合もある。
- ・ **メシアニック運動** メシアニック・ジューたちの運動のこと。本書1章に運動の歴史紹介がある。
- ・ **メシアニック運動の用語** メシアニック・ジューは、教会を**コングリゲーション**（集会・会衆とも訳される）、キリストを**メシア**、イエス（ジーザス）をヘブライ名の**イエシュア**、牧師を**メシアニック・ラビ**と呼ぶなど、独特の用語を使用する。
- ・ **シナゴーグ** ユダヤ教の会堂のこと。「シナゴグ」とも表記される。メシアニック・ジューの教会の建物を「**メシアニック・シナゴーグ**」と呼ぶ場合もある。
- ・ **シャバット** 安息日のこと。ユダヤ暦では日没から新たな日が始まるため、金曜日没から土曜日没までが安息日、シャバットとなる。安息日は労働せず、正装して、特別に豪華な食事をする人もあり、ユダヤ人にとって喜びの時間である。安息日の夕食は、人を招いて一緒に楽しむ風習があり、どの宣教団体にとっても、良い宣教の機会となっている。

- ・ **トーラー** 旧約聖書の最初の5つの書、モーセ5書を指す。ユダヤ教の会堂には、それを書き記した羊皮紙の大きな巻物が備え付けられており、礼拝では古式に則って朗読する。
- ・ **ラビ的ユダヤ教 (Rabbinical Judaism)** 現在のユダヤ教につながるユダヤ教派のこと。新約聖書時代のユダヤ教はパリサイ派、サドカイ派、エッセネ派などに分かれていたが、神殿崩壊後にはパリサイ派の一派であるラビ的ユダヤ教だけが残った。

主なユダヤ人伝道団体

- ・ **ジューズ・フォー・ジーザス (Jews For Jesus)** 1970年に米国でモイシェ・ローゼンによって「ヒネニ・ミニストリーズ」として設立され、1973年に現在の名称に改称された。最大手のユダヤ人伝道団体で、非常に積極的な宣教戦略で知られる。2017年に日本で開催された「LCJE 東アジア・ユダヤ人伝道カンファレンス」にも、オーストラリアから Bob Mendelson 師らが参加した。2023年現在、日本には支部は無い。
- ・ **国際ユダヤ人伝道団 (International Mission to the Jewish People/IMJP)** は、英国長老教会が1842年に設立した British Society for the Propagation of the Gospel Among the Jews と、Barbican Mission to the Jews (BMJ) が1976年に合併して設立された。当初は Christian Witness to Israel (CWI) だったが、2021年に現在の名前になった。2017年のカンファレンスは Joseph Steinberg らが参加。台湾、香港などでも活動しているが、2023年現在、日本には支部は無い。
- ・ **チョーズン・ピープル・ミニストリーズ (Chosen People Ministries/CPM)** 1894年に米国でレオポルド・コーンにより「ブラウズビル・ミッション」として設立され、何度かの改称を経て1984年に現在の名称になった。メシアニック運動との連携を重視する姿勢で知られる。2017年のカンファレンスの時に初来日した David Trubek 師らにより、2022年に日本支部が設立された。2023年11月にはミッチ・グレイザー博士らが来日予定。

※この項は、LCJE 日本支部運営委員の石井田直二（シオンとの架け橋代表）が作成した。

はじめに：なぜユダヤ人伝道なのか？

ーボディル・スキヨット & ダン・セレッド
ローザンヌ・ユダヤ人伝道 ケータリスト

1980 年、「未宣教の人々への宣教」に焦点を当てたローザンヌ世界宣教委員会 (LCWE／今日ではローザンヌ運動と呼ばれる) の会議がタイのパタヤ市で開催されました。この記念すべき会議の多くの成果の 1 つは、福音がまだ届けられていない民族の一つであるユダヤ人にその福音を届けようとするネットワークの誕生でした。このネットワークはローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会 (LCJE) と呼ばれるようになりました。LCJE はローザンヌ運動内の様々なネットワークの中で最も長く活動しているネットワークです。

2004 年、ローザンヌ運動は世界に福音を届ける使命に焦点を当てた別の会議を開催しました。この会議で LCJE ネットワークのメンバーは「Lausanne Occasional Paper 60, Jewish Evangelism : A Call to the Church」(LOP60) という報告書を作成しました。その後、この報告書は、ユダヤ人伝道の重要性を世界の教会に知らせるために、広く用いられました。この文書では、使徒パウロの言葉である「私は福音を恥じていません。それは、信じるすべての人、最初にユダヤ人、そしてギリシャ人にも救いをもたらす神の力だからです」(ローマ 1: 16 私訳) を受けて、救い主であるイエスの福音をユダヤ人とすべての人々に伝えるように、世界の教会に勧めています。LCJE の主張は「イエスがユダヤ人のメシアでないなら、諸国民のキリストではありえない」ということです。イエスが世界の救い主であるなら、ユダヤ人の救い主でないはずはありません。

私たちがこの報告書を執筆した 2020 年は LCJE の 40 周年を迎える年でした。過去 40 年間、このネットワークを守ってくださった神の忠実さをどのように記念し、回顧していくかについて祈った結果、私たちは LOP60 の改訂に取り組むことに決めました。2004 年以来、世界が変化する速度は急激に速くなっており、ユダヤ人伝道における変化もその例外ではありません。LCJE が世界の教会の中で適切な声を発信し続けて行くために、私たちは聖書の時代から続く不変の召しを再確認すべきです。それは「すべての国民を弟子とする (マタイ 28:19)」ことであり、それには当然、ユダヤ人も含まれるのです。

この長い報告をお読みいただけることに感謝します。あなたがこの文書を読んでいるのは偶然ではなく、むしろ、神の意志であると私たちは信じています。あなたはユダヤ人のミニストリーに精通しているかもしれませんし、ユダヤ人がイエスを必要としている、またはユダヤ人がイエスを信じているという話を聞くのは初めてかもしれませんが、神がこの報告書を用いてくださって、神の王国が進展し、神の御名に栄光がもたらされることを祈ります。

多くの人々がこの文書作成のために献身的に貢献してくださいました。このプロジェクトを始める時、可能な限り多くの人々に関わっていただきたいと願っていました。それは、LCJE のネットワークの中の意見の多様性を反映すると同時に、私たちを一つに結びつけるものを明確化するためです。それは「イスラエルの失われた羊の救いへの情熱」です。各章に編集者を割り当て、LCJE 内のさまざまな見解を収集し、それらを 1 つの文章にまとめていただくように依頼しました。簡単な作業ではありませんが、編集者の皆さんは、すばらしい仕事をして下さいました。ご苦労いただいた、アレックス・ジェイコブ牧師、トゥヴィア・ザレツキー博士、ダレル・ボック博士、リチャード・ハーベイ博士、スーザン・パールマン姉、リッチ・ロビンソン博士に感謝の意を表したいと思います。

私たちの祈りは、あなたがこの文書を読んで行動を起こされることです。どうか神がユダヤ人の救いのために祈り、執り成す心をあなたに与えてくださいますように。あなたは福音を必要としているユダヤ人をご存じかもしれません。もしそうなら、救い主イエスを通して人々に与えられた神の恵みを、その方と分

かち合うことをお勧めします。ユダヤ人伝道に従事することは教会に与えられた召しです。私たちの働きによって、教会が行動を起こすことを願っています。

主の栄光のために

2022 年 5 月 18 日（翻訳：田中身和子）

第1章：ユダヤ人伝道の歴史

—アレックス・ジェイコブ牧師

[英語本文へのリンク](#)

本章ではユダヤ人伝道の歴史的な背景を説明します。次章からは、ユダヤ人伝道に関する多元的な議論に入り、ユダヤ人コミュニティとユダヤ人伝道（第2章）、神学的考察とユダヤ人伝道（第3章）、ユダヤ人伝道の10の問題と対応策（第4章）、ユダヤ人伝道における戦略と実践（第5章）を取り上げます。

第1章はユダヤ人伝道に関する歴史的な概観です[1]。伝道は長い宣教の歴史の中に含まれており、また宣教は教会の歴史の一部となっているため、この主題は複雑です。教会史は二千年以上にも及んでおり、ミッシォ・デイ（神の使命）という大きくて重い任務を担って、それに参画した教会が、世界のあらゆる地域に影響を与えました。しかし、本章では初代教会に重点を置き、伝道の基本原則を考えつつ、ユダヤ人伝道の基本的な特徴を明らかにします。それは、さらなる祈りと共に歴史的研究と神学的考察、実践のための有用な「足がかり」を与えるためです。

イエスの伝道と初代教会の伝道実践

ユダヤ人伝道は歴史的、神学的に言って最初の伝道の領域であり、それは後に教会によって行われる、あらゆる伝道の取り組みを生み出した出発点です。イエス（ユダヤ人の信仰共同体では一般的にイエシュアと呼ばれている）が最初に弟子たちを召された時、その召しには弟子としての自覚とイエスの証人となることに明確な焦点がありました（マタイ 4: 18-19）。さらに、イエスは地上での活動を終えるにあたり、再びすべての弟子たちに宣教を呼びかけられました。（マタイ 28:18-20）

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」[2]マタイ 28:18-21（新改訳）

伝道の歴史において「大宣教命令」と呼ばれるこの教え（召命）は、何世紀にもわたって教会の使命と働きを形作り、力を与えて来ました。ここから、イエスの証人となることの重要性を知り、また「伝道命令」が、どのように聖書に根差し、教会の実践によって展開して来たかを学ぶことができます。

ユダヤ人に福音が伝えられて教会が始まり、間もなく宣教は世界に広がって行きました。教会史の初めは、「ユダヤ人のキリスト教」しかありませんでした。福音のメッセージはユダヤ人の聖書の世界に根ざしており、イエスはユダヤ人であり、使徒たち（そして生まれたばかりの初代教会の共同体も）は主にユダヤ人を対象に活動しました。彼らの働きは「素晴らしく新しい」画期的な変革であり、過去との断絶、新時代の幕開け、来るべき王国の新たな現実として宣言され、示され、確立したのです。しかし、イエスの教えと新約聖書の広範囲の教えからは、別の側面も見ることができます。それは、福音のメッセージが神の忠実を示す継続的な啓示の延長線上にあることです。イエスの働きは神の約束と預言に根ざしており[3]、神の忠実はイスラエルとの契約の歴史から、さらに天地創造の時にまで遡るものなのです。

福音書に記されたイエスの宣教活動は広範囲にわたる重層的なものですが、簡単に言うと、彼は神の国を宣べ伝え[4]、イエスの弟子となるように人々を招いたのです。弟子の道には多くの段階がありますが、新約聖書は4つの段階、つまり①悔い改め、②イエスへの信仰（信頼）、③洗礼、そして④聖霊の人格的な働きを受入れる態度を強調します。

王国はメシアが「王」であるというメッセージであり、弟子の道はその適用でした。王国や弟子の道は、第二神殿時代のユダヤ教の歴史と神学的な文脈において、最も良く理解できます。[5]教会の第一世代のイエスの弟子の大多数はユダヤ人であり、使徒 6:7 と 21:20、ヤコブ 2:2[6]が断言するように、多くはユダヤ人の宗教的構造の中に根付いた人々でした。教会はこのユダヤ人の世界の中で生まれて成長を始め、新たにイエスの弟子となった人々は信仰深いユダヤ人としての正統性を主張しました。伝道はこのユダヤ的文脈の中で行われ「神の契約に対する忠実」というユダヤ的な聖書理解の中で理解されたのです。

しかし、伝道はユダヤ人の中に長くは留まりませんでした。イエスを信じるユダヤ人たちが聖霊によって力を与えられ、非ユダヤ人（異邦人）の間で証をし、イエスが与えた大宣教命令（マタイ 28:18-20）が実現して行ったからです。伝道者たち（そのほとんどがユダヤ人）はユダヤ人の世界を超えて福音を伝えた事で、彼らの伝道活動とイスラエル民族の不変の召命が結びつきました。それは、イスラエルが諸国民の光となり、神の救いを地の果てまで届けるという役割だったのです。（イザ 49:6）[7]。

「使徒の働き」は、宣教がエルサレムから始まり異教徒と異邦人世界の中心であるローマで使徒パウロが証をするところまでの記録です。それは、ユダヤ人の世界から異邦人の世界への架け橋[8]であり、続く新約聖書の書簡の多くの箇所は、「教会」の多様性が高まる中で一致を喜びつつ保つための諸問題を扱っています。それはユダヤ人と異邦人が共にイエスを主と仰ぎ見て仕えるためなのです。教会がユダヤ教世界という枠組みを越えて拡大した時代について、歴史が明確に示しているのは、拡大の著しい速度と、その壮大な規模です。キリスト教の歴史家であり神学者である N.T. ライトは以下のように書いています。

初期キリスト教の最大の特徴は、目覚ましい速度で成長したことです。AD25 年には、キリスト教は存在せず、ユダの荒野に住む若い隠者と、夢を見たり幻を見たりする彼のいところのただけでした。ところが AD125 年には、ローマ帝国がキリスト教徒を処罰する公式な政策を定めるに至り、ポリュカルポスはすでにスミルナで半世紀もキリスト教徒でした。アリストティデスは（早い年代を受け入れるなら）ハドリアヌス帝に対し、世界には蛮族（未開人）、ギリシャ人、ユダヤ人、そしてキリスト教徒の 4 つの人種がいると告げていました。また、後に殉教者ユスティノスと呼ばれるようになる若い異教徒は、哲学的探求を始めて異教徒の偉大な思想家を巡っているところで、まだキリストに辿りついていませんでした[9]。

キリスト教とユダヤ教の「分岐点」とは？

初代教会が始まった頃、イエスを信じるユダヤ人の信仰共同体は、他のユダヤ人たちから（ローマ当局からも）ユダヤ教内の「一派」あるいは「運動」と見られていました。それは、イエスを信じるユダヤ人の多くが、ユダヤ教の重要な習慣や信仰を維持していた一方で、ユダヤ人社会の方でも多様なユダヤ人グループとアイデンティティが共存していたためでした。この多様性を表現するために、当時のユダヤ教を「第二神殿ユダヤ宗教群」などと呼んだ方が良いかもしれません[10]。

今日のようなユダヤ教（ラビ的ユダヤ教）とキリスト教が、制度的にも神学的にも別の宗教となるまでの道のりは複雑であり、「分岐点」となった瞬間や出来事があったわけではありません。使徒言行録にはすでにシナゴグで福音のメッセージが拒絶された記録があり、その後のエルサレム陥落（AD67-70）、バル・コクバの乱（AD135）に至る様々な展開の結果、イエスを信じるユダヤ人（および教会）とラビ的ユダヤ教との境界線はより明確に、広く認められるようになりました。教会の信徒たちが「より異邦人的」になるにつれてイエスを信じるユダヤ人の正当性を認めなくなった一方、ラビ的ユダヤ教の方でもユダヤ教の信仰と実践を再定義し、イエスを信じる人々の正当性を拒否し始めたことで、その分裂は拡大し、溝は深まったのです。

その結果、教会は聖書のルーツや新約聖書の実践からますます離れるようになり、福音の真理と美しさは、2世紀以降の思想と実践の型にゆっくりと流し込んだかのように微妙に変形され、キリスト教はユダヤ人の生活とは異質のものとして再定義されたのです。それは、教会とラビ的ユダヤ教との間の「アイデンティティ争い」に基づく対立の激化をもたらし、聖書の啓示の真の保持者は誰か、誰が真に「神に選ばれた民」なのかをめぐり、多くの議論と幅広い論争が（両者から）起こりました。迫害されていた教会は、迫害する側に回り（コンスタンティヌス帝後の時代）、キリスト教が得た有利な新しい地位や権力は、キリスト教徒とユダヤ人の間に存在した相互の関係を変質させるように働きました。

「分岐」が起こった理由やその解釈をめぐっては、多くの論争の歴史があります[11]。しかし、はっきりしているのは、最初はユダヤ人伝道が続けられ、ユダヤ人信徒たちも活動を続けていたのに、4世紀末になると、教会内でユダヤ人ビリーバーがアイデンティティを保ち、共同体として活動した明確な記録が無くなってしまいます。つまり、教会とラビ的ユダヤ教の分離はほぼ完了したのです。キリスト教を標榜する教会はユダヤ教とは別の宗教とみなされるようになり、イエスを信じるユダヤ人ビリーバーたちは誤解されたり、時には教会とシナゴグの両方から迫害を受け、疎外された集団となりました。

この「分岐」はユダヤ人伝道を新約聖書の原型から変質させる結果を招きました。教会がイスラエルに代わり「神の選民」となったとする置換神学の影響が強まった結果、ユダヤ人伝道の呼びかけは、まるで「宇宙人の叫び」のように、誰も聞かなくなってしまったのです。置換神学が発展した背景には多くの要因がありました。ヘブライ的世界観からギリシヤ的な思考方式への移行、反ユダヤ的な意図、そして権力の悪用などです。そして「イスラエルの希望」は捨て去られて行きました。それにもかかわらず、イエスを信じるユダヤ人ビリーバーたちは教会の歴史のどの世紀にも見られました。彼らの存在は、教会とシナゴグの双方に、神の忠実を認識させる証しとなったのです。

新たな始まりと召命の更新？

宗教改革は、教会の一部に、聖書の教えに対する愛と献身を呼び覚ましました。クリスチャンが聖書を（多くの場合に初めて母言語で）読んで、その聖書のメッセージに思いを巡らせるようになり、精神と心が様々な面で刺激を受けたのです。明白な召しを受け、新しく力強い方法で伝道と幅広い宣教に従事する人々が現れました。その中で、諸国民の間に散らされたユダヤ人に福音を伝える動きも起こって来たのです。彼らのユダヤ人への関心は、しばしば親ユダヤ主義（philosemitism：反ユダヤ主義の反対語）を伴っていました。その核心は、ユダヤ民族が生き残り、再生し、回復することが御心だとする神学的信念だったのです。

ユダヤ人に対する新たな関心とその根底にある親ユダヤ主義を、全ての宗教改革者が本質的に、あるいは共通して持っていたわけではありません。マルティン・ルター（1483-1546）がユダヤ人に対する批判論[12]を展開したのは、驚くべきことではないのです。宗教改革の歴史と神学書の多くがユダヤ人問題（およびそれに関連するキリスト教の問題）、ユダヤ人のみに焦点を当てた伝道、「イスラエル中心」の終末論などに無関心だったのです。

それでも、親ユダヤ主義と、聖書の継続的な学びは、一部のクリスチャンにユダヤ人国家の回復を祈り求める気持ちを起こさせました。ユダヤ人国家の回復というビジョンは、アンドリュー・ウィレット（1562-1621）、トーマス・ブライトマン（1562-1607）、ピエール・ジュリュ（1637-1713）といった初期の改革者たちの著作や説教にはっきりと見て取ることができます。ブライトマンの著書『彼らは再びエルサレムに帰るべきか』は、彼の死後8年目に出版されましたが、それは聖書の言葉が成就してユダヤ人が聖地に帰還すると、強く主張する内容でした。その主張は先駆的なもので、キリスト教界に広く大きな影響を与えたとされています。

ユダヤ人伝道と、イスラエル回復（主に聖書的終末論的の特定の文脈における）は「基本的な二本の柱」

として、多くのプロテスタントのクリスチャンが新しく始めた、ユダヤ人宣教の運動や組織を支えるものとなりました。先駆的な取り組みがドイツで行われましたが、敬虔なルター派とモラヴィア派のネットワークが活用されました。1656年、エストラス・エドザード（1629-1708）はハンブルクで、ユダヤ人に対するキリスト教教育、弟子訓練、実践的支援を目的とする宣教活動を開始しました。この活動はフィリップ・ヤコブ・シュペーナー（1635-1705）やアウグスト・ヘルマン・フランケ（1663-1727）など、後のルター派宣教師たちに影響を与えました。

1728年にハレ大学でユダヤ研究所（Institutum Judaicum）が設立されました。この先駆的な宣教研究所は印刷部門の設置、イエスを信じるユダヤ人への牧会的・実践的支援、巡回するユダヤ人伝道者の任命と支援という3つの主要な目標を掲げていました。この研究所は1791年に閉鎖されましたが、その後の多くのプロジェクト、たとえば、ヨーゼフ・フレイ（1771-1850）が宣教を学んだベルリンの神学校などを生み出す契機になったと評価されています。ヨーゼフ・フレイは、元の姓はレビで、ラビの息子でしたが、1798年にイエスを信じるようになった人物です。彼は1809年にロンドン・ソサイエティ（London Society for Promoting Christianity Amongst the Jews/LSPCJ）を創設した人物です[13]。

この時代のもう一つの重要なユダヤ人伝道活動は、オランダで1738年に始まったもので、それを開始し、指導したのはヨハン・ドーバー（1706-1766）でした。彼の活動は歴史的、神学的に重要なもので、『モラヴィア教会史』[14]にある以下の紹介文から、その活動内容をうかがい知ることができます。

・・・ヨハン・ドーバーはヘブライ語の達人でユダヤ人のあらゆる習慣に精通し、ケーニヒスベルクの教授就任を要請されていました。しかし、東洋学者としての栄誉を得るよりも、アムステルダムのユダヤ人街に質素に住んで、友人のユダヤ人たちに彼が深く愛していたキリストについて話す道を選びました。彼の宣教の方法は参考になるものでした。ユダヤ人の友人たちに、いきなり教理や神学を説くことはせず、キリストが預言されたメシアであることを証明しようとしなかったのです。彼はイエスが死からよみがえったこと、よみがえったイエスがこの世でどれほど多くのことを行ったのかを、親切に説明しました。そして、ユダヤ人たちがパレスチナに集められるという希望を語ったのです。彼は「改宗者」を作ったと自慢することはできませんでしたが、ユダヤ人の友人にとっても愛され、「ラビ・シュムエル」と呼ばれたのです。

「ユダヤ人のキリスト教」の再出現

新しく興った伝道団体や関連する様々な機関、組織を調べてみると、スタッフの中でイエスを信じるユダヤ人の割合が高く、重要な指導的役割を担っていたことがわかります。この数は19世紀を通じて著しく増加しました。[15] この時期の他の貢献者は、ヨーゼフ・フレイの他に、英国国教会司教マイケル・ソロモン・アレクサンダー（1799-1845）、宣教師ジョセフ・ウルフ（1795-1862）、神学者アウグスト・ネアンデル（1789-1850）、詩人アイザック・ダ・コスタ（1798-1860）、聖書学者アルフレッド・エダースハイム（1825-1889）、宣教師フェルディナンド・エヴァルト（1802-1874）、宣教師ヘンリー・アーロン・スターン（1820-1885）、宣教師ジョン・モーゼス・エップスタイン（1827-1903）、作家、雄弁家、宣教師パウルス・カッセル（1821-1892）、上海の聖公会司教サムエル・アイザック・ジョセフ・シェレシエフスキー（1831-1906）、聖公会司教アイザック・ヘルムース（1819-1901）、説教者ミルザ・ノローラ（1855-1925）、講演者デイヴィッド・バロン（1855-1926）、宣教師レオン・レヴィソン（1881-1936）、神学者アーノルド・フランク（1859-1965）などが挙げられます。[16]

宣教団体の中に、イエスを信じるユダヤ人の割合が比較的高かったことから、既存の教会機構や宣教組織の中で（あるいはその枠を超えて）、独自の「ヘブル人クリスチャン」としてのアイデンティティを確立することの可能性や、その是非に関する議論が生じました。この議論は、イエスに対する信仰と、ユダヤ人であることとは両立しないという考えを強く持っていた、当時の教会とユダヤ人共同体の双方に変化を迫るものとなったのです。ヘブル人クリスチャンのアイデンティティの胎動は、1813年にロンドンで開かれたブネイ・アブラハム（アブラハムの息子たち）の最初の会合までさかのぼることができます[17]。

新しく生まれたヘブル人クリスチャン運動の中の多くの人々は、イエスを信じるユダヤ人としてのアイデンティティを包括的に捉えて、既存の教会と融和的関係を持つておりましたが、中にはより分離的（あるいは独立的）な方向に向かう人々もいました。

完全なヘブル人クリスチャンのアイデンティティというビジョンを提唱した人々は、民族的にユダヤ人であるビリーバーが、神学的、典礼的、制度的にも一般の教会から独立して、ヘブル人クリスチャンの共同体を作ろうとしました。独立することで、ユダヤ人クリスチャンは自分たちの民族の習慣に忠実であり続け、自分たちの信仰に基づく新しい典礼的・神学的表現を創り出し、他の様々なユダヤ人グループと密接な関係を自由に築くことが可能になると、彼らは主張したのです。これは、新しいユダヤ人伝道活動の重要な手法を生み出す可能性がある動きだと考えられました。この新たなビジョンの中から、宗教的、共同体的生活のさまざまなモデルが生まれ、それが今日のメシアニック・Congregationsにつながる原形となったのです。

このビジョンを新たに確立しようとしたユダヤ人信徒たちの大多数は、伝統的なユダヤ教の宗教的家庭の出身でした。彼らは召命の中心として、2つの優先事項を認識していました。第一はユダヤ人への継続的な福音宣教、第二はイエスが復活のメシアであり、神の永遠の御子であるという信仰の宣言でした。もしイエスがユダヤ人のメシアでないなら、彼は諸国民のキリストではない、という深い洞察がその核心にありました。この新しいビジョンに勢いを与えた、複数の要因を列挙すると、ユダヤ人伝道の相対的な「成功」[18]、多くの異邦人クリスチャンたちからの継続的な支援[19]、キリスト教シオニズムの成長、エルサレムにおける近代初のユダヤ人司教区の設立などです。この時期の重要人物は、牧師リドリー・ハイム・ハーシェル（1807-1864）、翻訳者スタニスラウス・ホーガ（1791-1860）、宣教師ジョセフ・ラビノヴィッツ（1837-1899）、牧師カール・シュワルツ（1817-1870）、神学者ポール・フィリップ・レバートフ（1878-1954）など。また、ユダヤ人が伝統から解放され、世界でユダヤ人口が増加した時代であったことも要因の一つでした。

しかし、このビジョンの正当性をめぐって多くの教会で議論が交わされ[20]、反対者たちはこのビジョンの追求が非現実的で、教会の一致を損ない、ユダヤ人伝道の中心点から人々を脱線させると懸念しました。多くの教会グループは、ユダヤ人としてのアイデンティティよりも教会への忠誠を優先させるヘブル人クリスチャンと良い関係を作っていました。しかし、そのような場合、ユダヤ人のアイデンティティは、たいてい子供の世代で「失われる」[21]ことになったのです。さらに、教会内の一部には、律法の民族的な生活あるいは儀式的側面は、すべて福音の到来によって破棄されたという神学的信念を持った人々も存在しました。

ホロコーストとイスラエルの再建国

ホロコーストとイスラエルの再建国という2つの事件は、ユダヤ人のアイデンティティと自己認識の多くの側面に根本的な変化を引き起こしました。それらの事件はまた、クリスチャンの思考方式と伝道実践にも大きな変化をもたらしたのですが、それがユダヤ人伝道の分野にも影響を与えました。ユダヤ人とクリスチャンの出会い、いつもホロコーストによって、ある程度の影響を受け続けていると、多くの人々が考えています。

ホロコーストの現実を受けて、いくつかの教会のグループや宣教機関は直接的なユダヤ人伝道から対話、相互学習、支援に重点を置いた宣教へと向きを変えていきました。旧約聖書はユダヤ人に適用され、新約聖書は異邦人のためのもので、ユダヤ人の道（律法への忠誠とユダヤ人のアイデンティティの維持を通して）と異邦人の道（イエスのメッセージへの個人的忠誠と新約の賜物を通して）という二つの別々の「救い」の道があると考えた二契約神学は神学の再編によって度々支持され、それが極端な形のディスペンセーション神学と結びついた例も見られます。この変化の結果、ユダヤ人伝道の重要性和有効性は教会内で多くの人々にとって必ずしも明らかではなく、まして優先事項ではなくなっていることを覚えておくべ

きです。

イスラエルの再建国は、ユダヤ人伝道にも大きな影響を与えました。近年、ユダヤ人伝道で最も大きな成長を遂げたのはイスラエルにおける新しい宣教の取り組みであり、その結果としてイエスを信じるユダヤ人の数が増えたと言えます。具体的な数については度々議論が起こりますが、現在イスラエルには自らをメシアニック・ジューと定義する約 3 万人のビリーバーがおり[22]、ほとんどがイスラエルのメシアニック・コングリゲーションに属しています。時に、コングリゲーションが他のユダヤ人団体（反宣教団体）からの敵意と迫害に直面する場合があります。それらの団体は、コングリゲーションの法的権利を損ない、活動の重要な部分を制限しようとするのです。3 万人という数は決して多いとは言えませんが、ほんの数十年前と比べれば大きく増加しています。この成長の結果、ヘブライ語を話す最初のメシアニック・バイブル・カレッジの設立（ネタニヤを拠点とする）など、多くの重要な出来事が起こりました。

チョーズン・ピープル・ミニストリーズの最高責任者であるミッチ・グレイザーは、イスラエルとの関わりについて以下のように述べています。

イスラエルにおけるチョーズン・ピープル・ミニストリーズの成長は、この国の人口構成の変化を反映しています。私たちはまず、特に 1948 年以降にヨーロッパ系ユダヤ人、セファルディ系ユダヤ人に宣教しました。1970 年代から 1980 年代にかけては、若者の間で高まっていたアリヤー運動（ユダヤ人のイスラエルへの移住）のために宣教師を送り、その 10 年間にロシア系ユダヤ人の移民の人々に伝道、会堂建設、子供キャンプなどに重点を置いた活動を行いました。

2005 年には、ジャーマン・コロニーの建物を購入してエルサレム・メシアニック・センターを設置しましたが、それが今もイスラエルの活動本部となっています。ベス・サー・シャロームと呼ばれるイスラエルでのチョーズン・ピープル・ミニストリーズで働く人々の中には、様々な国からアリヤーした人やサブラ（イスラエルで生まれたユダヤ人）がいます。

現在 24 名のスタッフがエルサレムとテルアビブでメシアニック・センターを運営しています。センターでは、聖書研究、指導者養成、福音伝道における関係づくり、特別な宣教イベント、ホロコースト生存者である高齢者の方々を支援するための慈善事業などが行われています。また、エルサレム、テルアビブ、スデロット、アシュドッドに食料配給センターがあります。

私たちは、テルアビブのダウンタウンに隣接する地域で宣教活動の地盤を作っています。ラマット・ガンはテルアビブ中心部では家賃が高すぎて住めない家族が多く住む衛星都市です。近くの同様の都市に住むイスラエル人の総数は 30 万人以上にのぼり、こういった地域は若い子供連れの家族や多くのロシア系ユダヤ人移民たち、そしてイスラエル国内での最初の入植者を含む「古参の人々」が混じって住んでおり、宣教の必要性が非常に高いのです。

2016 年にはラマット・ガンの人通りの多い商業地区に 1,600 平方メートルのオフィスを借り、現在はそこを改装してテルアビブ広域での活動の中心地としています。私たちは、聖書研究会、講座の公開、伝道カフェ、母親のためのグループ、子どもたちのためのミニストリー、そしてさまざまな人道支援活動を行っています。

ローマ人への手紙 11 章 25-29 節の約束が成就するまで、イスラエル国内での働きを継続し、拡大していきたいと考えています。

ジューズ・フォー・ジーザスのエグゼクティブディレクターであるデビッド・ブリックナーは、イスラエルでの活動について以下のように述べています。

私がジューズ・フォー・ジーザスの事務局長になったのは 1996 年でした。イスラエルにおいて公式な活動を確立する前でしたが、イスラエルの地元で活動することが重要な優先事項であると確信してい

ました。1996 年の最初のビジョン・ステートメントで、私は次のように述べました。「かつて、ニューヨーク周辺には、世界のどこよりも多くのユダヤ人がいました。現在、イスラエルには 440 万人のユダヤ人が住んでおり、その人口は増え続けています。私たちはこの新しい開拓地に積極的かつ戦略的に進出していかなければならないのです。私たちのイスラエルの責任者トゥビヤ・ザレツキーは、最近のクリスチャニティ・トゥデイの記事でイスラエル人が他のイスラエル人に福音を伝えるのが最善だと、雄弁に語っています。私はトゥビヤが正しいと信じています。私たちはイスラエル人を訓練して自分たちの民に福音を届けさせるべきです。私たちはゆっくり、慎重に動いてきましたが、今こそイスラエルでの活動にもっとエネルギーを注ぐべき時なのです」。

この目標を達成するために、私たちは熱心に活動を開始し、テルアビブに最初の事務所を開設しました。2002 年にはイスラエルにおける正式な非営利団体（アムタ）の地位を獲得し、初めて地元生まれのイスラエル人であるダン・セレッドを責任者に任命しました。その後すぐに、イスラエルの旅行者コミュニティへの伝道活動「マッサ」を開始し、伝道活動を行うイスラエル人の訓練を始めました。また、テルアビブの南端にあるフロレンティンに購入した建物でトレーニングセンター（モイシェ・ローゼン・センター）を開設し、イスラエル人をフルタイム伝道者とすることができるように、ヘブライ語による訓練を開始しています。

2008 年にはイスラエルの全 12 地域でサチュレーション伝道（注：地域を福音で満たす伝道方式）を実施する取り組み「Behold Your God Israel」を開始し、2018 年には 70 名以上のスタッフ・ボランティアが参加した 10 本立ての多面的な伝道をエルサレムで行って、それが最高潮に達しました。このイベントは近代イスラエル国家独立 70 周年と重なり、私たちはエルサレムに 2 つ目のジューズ・フォー・ジーザスの支部を開設することができました。現在、エルサレムには 8 人のフルタイム宣教師、テルアビブには 25 人のフルタイム宣教師がおり、管理スタッフも充実していて、インターンシップ・プログラムも活発に行われています。

2020 年のイスラエルのユダヤ人口は 700 万人近くに達すると言われています。そして、私たちジューズ・フォー・ジーザスの全世界での活動のうち、イスラエルでの活動が最大規模のものとなっています。

イスラエルに焦点を当てることは非常に重要なことですが、他の多くの国々で行われている重要なユダヤ人伝道の物語から目をそらすべきではありません。例えば、世界のユダヤ人人口の大部分を占めるアメリカ[24]、イギリス、南アフリカ、オーストラリア、エチオピア[24]、旧ソビエト連邦時代の主要地域であった、特にウクライナ、モルドバ、カザフスタンなどの地域では重要かつ先駆的なユダヤ人伝道が行われてきました（今でも行われている）。ここ数十年で、これらの地域から多くのロシア語を話すユダヤ人たちがイスラエルにアリヤー（帰還移民）しているため、旧ソビエト連邦地区での伝道活動はイスラエルでの伝道活動にも影響を及ぼしています。

旧ソビエト連邦崩壊後にロシアで活動を行い、重要な役割を果たしたアビ・シュナイダーは、以下のよう

に述べています。

旧ソビエト連邦の崩壊はその地域に住むユダヤ人に福音を伝える前例のない機会となりました。私たちは、そこで福音に対して驚くほど人々の心が開かれていることを発見したのです。神は確かな恵みによって人々が福音を受け入れる準備をされましたが、人間的に見れば、その背景には次のような要因がありました。まず、政権が崩壊して基盤となっていた信念体系が崩れたので、その空白を埋める必要があったこと。旧ソビエト連邦時代には宗教の禁止によって「禁断の果実」となっていた福音に手が届くようになったこと。そして、福音宣教が禁じられていたことで、西洋世界のユダヤ人が今なお受け継いでいるイエスに対する反感を、ロシアのユダヤ人たちは持っていなかったのです。

神は恵みにより、これらすべてのことを用いられて、イエシュアが私たちの罪のために死に、よみがえられたという知らせを受け取れるように、旧ソビエト連邦崩壊後のユダヤ人たちの心を整えてくださいました。旧ソビエト連邦地域で育ったユダヤ人の心に生まれた信仰は、やがてユダヤ人たちの移住によってアメリカ、ドイツ、イスラエルへと波及しました。彼らは福音を携えて移住して行ったのです。今日でも、ロシア語を話すユダヤ人がいるところでは、旧ソビエト連邦崩壊時に蒔かれた福音の言葉が多くの実を結び続けています。

現代イスラエル国家の再建は、現在進行中のユダヤ人伝道の歴史に間違いなく大きな影響を及ぼしています。紙幅の関係で完全に分析することはできませんが、5つの重要な点は強調されるべきでしょう。

第一に、イスラエル国家の再建はユダヤ人伝道とユダヤ人国家の再興という2つの基礎的な支柱を持ち続けてきたクリスチャンの希望を深めるものです。聖書の言葉の成就として主がイスラエルの民を彼らの地に回復されたのなら、なおさら、主がメシアを通してご自分の民を霊的に回復されることも私たちは信じる事が出来るでしょう。

第二に、イスラエル国家の再建は、預言的聖句の読み方を変えます。例えば、イザヤ書19章は、預言当時の文脈だけでなく、終末論的文脈も含んでいます。イザヤ書19章に明記されたエジプトやアッシリアだけでなく、その他の国々でユダヤ人とイスラム教徒のために働く伝道者たちにも、この預言の言葉は励ましになるでしょう。イザヤ書19章で期待される宣教の成果の一つは、多くの「イシュマエルの息子（と娘）」がイエスを信じ、彼らの助けで多くの「イサクの息子（と娘）」がイエスの救いの信仰を発見することであり、また逆に多くの「イサクの息子（と娘）」も「イシュマエルの息子（と娘）」を助けるでしょう。

第三に、イスラエル国家の再建はユダヤ人伝道の焦点を変えます。イスラエルの地に住むユダヤ人の数がそれ以外の地に住むユダヤ人の総数を超えるのは二千年以上も無かったことなのです。以前は主にヨーロッパ（あるいは他の地域）のユダヤ人共同体への伝道に重点を置いていたユダヤ人伝道団体は、イスラエルの地で活動する新たな機会や課題に忠実に対応し、人材や資金を再配置することが求められているのです。この再配置には、もう一つの潜在的な側面があります。それは、福音をイスラエルに「持ち帰る」のではなく、福音がイスラエルから発信される働きを支援することです。福音がイスラエルから「出て行く」ことは多くの点で新約聖書のパターンを再現しており、双方向に宣教が行われることは、重要な霊的・神学的意義を持っています。

第四に、イスラエル国家の再建は派遣される宣教師（およびその支援団体）と、それを受ける共同体の関係を変えます。（これは変わるべきです）。受ける共同体で、地元の人々の独立したメシアニック会衆が機能している場合は特にそうなり得ます。以前、宣教師は自分たちの「母国の教団、機関、支援者」から派遣され、後援を受けたプロジェクトのために派遣されるのが普通でした。しかし現在は、多くの地元のメシアニック団体が機能しており、独自の宣教の取り組みを行っています。そこで、宣教師の募集、説明責任、資金調達などの実際的な問題と共に、もっと「霊的」な側面、すなわち宣教活動の価値観と期待する「成果」などについて、避けられない変化が起こっているのです。

第五に、イスラエル国家の再建という現実には、多くのユダヤ人に自分自身のアイデンティティに対する新たな自信を与えています。かつては閉鎖的で疎外されたユダヤ人共同体の中で、ユダヤ人たちに忌み嫌われていた福音のメッセージが、民主的な世俗国家の中でイスラエル国民として暮らす人々にとって、探求に値するものとなる可能性があるのです。彼らは今や、陽光あふれるテルアビブの海岸や、福音書によればイエスの教えと伝道の中心地だった、現代の活気あふれるエルサレムに暮らしているのです。このような個人的な姿勢の変化と共に、ユダヤ人の神学・歴史学の分野からも「ユダヤ人によるイエスの再評価」と呼ばれる開放性が見られるようになっていきます。しかしながら、この「開放性」を強調しすぎたり、福音に対する根強い反感を軽視したりすべきではありません。現代のユダヤ

人の多くの環境、特に閉鎖的で信仰熱心な超正統派のコミュニティの中では、福音に対する反感は根強く残っているのです[25]。

ユダヤ人伝道の歴史は変えることができませんが、過去の成功や失敗から学ぶべきことは多くあります。今日、ユダヤ人伝道に携わる人々が反省し、場合によっては赦しを請うべきことが歴史の中には多くありました。誠実な反省の精神は、近年、様々な教会や宣教のネットワークによってユダヤ人伝道のテーマ（そして、ユダヤ人とキリスト教の関係という幅広い問題）に対してなされた数多くの文書や声明に示されています。

以下は、そのような文書の例です。

（参考資料）

第二バチカン公会議（1965 年）の「ノストラ・アエターテ」（Nostra Aetate）。

教会とユダヤ人、世界教会協議会信仰と秩序委員会（1964-68 年）より。

イスラエル、人、土地、国家、オランダ改革派教会シノドス（1970 年）。

教会とユダヤ人、ドイツ・ノイエンドッテルサウで開催されたルーテル世界連盟協議会（1973 年）より。

神の唯一性とキリストの唯一性、ルーテル世界連盟、ノルウェーのオスロでの会合から（1975 年）。

ウィローバンク宣言、キリスト教の福音とユダヤ人について、ユダヤ人伝道に関するローザンヌ協議会（1989 年）より。

ユダヤ人福音主義。2004 年にタイのパタヤで開催されたローザンヌ世界伝道協議会から、教会への呼びかけ。

ケープタウンの約束、信仰告白と行動への呼びかけ、第 3 回ローザンヌ協議会（2010 年）より。

神のゆるぎない言葉-クリスチャンとユダヤ人の関係に関する神学的・実践的視点、英国国教会信仰と秩序委員会（2019 年）より[26]。

結論

ユダヤ人伝道の歴史は、教会史の中で複雑に、そして時には激動しながら紡がれてきました。この歴史に関連する神学の立場から、ユダヤ人の人口統計、グループのアイデンティティ、伝道戦略、ユダヤ人の信仰における様々な違いなど、研究すべきことが多くあります。すべての伝道は、福音に出会った一人の個人から始まることを思い出すのは良いことです。そのような出会いには、歴史的な洞察、学ぶべき教訓、そして感謝すべき理由があります。この第 1 章は、ユダヤ人の福音との出会いで締めくくられるのがふさわしいと思います。この結びに登場する伝道者は 20 世紀のユダヤ人伝道界ではよく知られた人物でした。

エリックは、正統派ユダヤ人の家庭に生まれました。父親はハマスミス（西ロンドン）のシナゴーグの聖職者で、第一次世界大戦中はユダヤ人部隊のチャプレンを務めていました。エリック自身もユダヤ人の大学に入り、1930 年代には東ロンドンで居留地を管理していました。その後、シェフィールドで再定住の担当官として働き、第二次世界大戦後にはロンドンに戻ってきました。

その後、私生活が乱れて不幸な時期が続いたエリックは彼自身がそれまで信じていた土台や根拠に疑問を持ちました。そして、真実と救済、その答えを探し始めたのです。40 代後半のある日曜日の午後、エリックはハムステッド・ヒースに散歩に出かけて友人のキーツの家を訪ねることにしましたが、家には誰もおらず、ドアは閉まっていました。そこで丘の上にあるセント・ジョーンズ・ダウンシャー・ヒル教会に引き寄せられるように歩いて行きました。その時、たまたまそこにいた教会の牧師が話しかけてきて「あなたも来て、私たちの仲間とお話ししませんか？」とエリックに言いました。「私はふさわしくありません、私はユダヤ人です。」とエリック。するとジェイコブ・ジョクス牧師は「私もユダヤ人です。」と答えました。

こうして友情が生まれ、それはジェイコブ・ジョクス牧師が亡くなるまで続きました。ある日、エリックは「他者が私をどう傷つけたのかは問題ではないのです。私がどこを間違ったのかが問題です。」と言いました。「そうだね」とジェイコブ牧師はうなずき「君はバールテシュバ（悔い改めの達人）にならなければならない。」と答えました。

そうです！ユダヤ人エリックはユダヤ人であるジェイコブ牧師の働きによって、自分の人生をユダヤ人イエスに委ねました。やがてエリックはイギリスで国際ヘブル人クリスチャン同盟の会長となり、他のユダヤ人にたゆまず福音を伝えました。彼はユダヤ人のことがよくわかっていたので、ユダヤ人から信頼されたのです[27]。

私たちはユダヤ人伝道の過去の歴史を研究し、今という現実を生き、聖書の保証に基づいて未来の希望を準備しなければなりません。聖書は全イスラエルの救い（ローマ 11：26）と、諸国民の救いが満ちること（ローマ 11：26）、そして、イスラエルの部族から救われた者とあらゆる国民、部族、民族、言語から救われた「大群衆」が永遠に「多様性を持った一致」をすると証ししているからです。（黙示録 7）

これらの言葉において、聖書は深い謎と崇高な実体、すなわち、神の救済計画におけるユダヤ人と異邦人、イスラエルと教会の相互依存と相互関係を示しています。その救済という神の目的を、アブラハム、イサク、ヤコブの神である神の栄光のために証ししようとする営みが、過去のユダヤ人伝道でした。それは今もこれからも変わることはありません。

2022 年 12 月 7 日 （日本語訳：田中身子和子）

第2章 ユダヤ人共同体とユダヤ人伝道

・トゥビヤ・ザレツキー博士

[英語本文へのリンク](#)

この章は、現代の多文化でグローバルなユダヤ人共同体について知っていただくことを目的としています。ユダヤ人に有意義で適切な形で福音を伝えたい場合、この章に書かれた情報が役立つでしょう。以下は、現在ユダヤ人宣教に携わっているローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会（LCJE）ネットワークのメンバーによって提供された、世界のユダヤ人に関する現実的な状況報告です。

本章では、まず現代のユダヤ人社会の世代的な違い、宗教的な違い、居住地域による違いについて紹介します。その後、現代のユダヤ人の中の変化しつつある4つのサブグループを取り上げ、それがユダヤ人伝道に与える影響について述べます。最後の部分では、5つの地域で活動する LCJE のメンバーからの、各地域におけるユダヤ人伝道の機会について報告を掲載します。

世界のユダヤ人社会の現状

21世紀が始まって数十年の時が経過した今、ユダヤ人の文化の中には大きな多様性があります。クリスチャンが、全世界のユダヤ人と福音の接点を理解するためには、その多様性を知らなければなりません。私たちが行う全てのコミュニケーションは異文化間で行うことになるので、私たちは現代のユダヤ人共同体の中に存在する新しく複雑な文化を学ぶ用意が必要なのです。

ですから、特定のユダヤ人と有意義な関係を築きたいのであれば、その人の特徴を見極めることが必要です。例えば、あなたと知り合いのユダヤ人は英語圏の出身ですか、それとも多言語でヨーロッパ、アフリカ、アジア諸国の言語（トルコ語、ペルシャ語、アラビア語など）、あるいはイスラエルのヘブライ語でコミュニケーションができますか。他民族と結婚した親から生れて、自分も多民族と結婚しているのでしょうか。それともユダヤ人同士で結婚しているのでしょうか。異邦人と結婚を前提に交際中でしょうか。ベビーブーマー、ジェネレーション X（1965-1980 年生まれ）、またはミレニアル世代の、どれに最も近いのでしょうか。また、そのユダヤ人はどのような霊的傾向を持っているのでしょうか。特定の宗派に所属しているのでしょうか。

世代別のユダヤ人の違い

現代のユダヤ人を理解する上で、世代、地理、人口、歴史などの背景を知ることが必要です。簡単な例として、1945 年から 1965 年に生まれたホロコースト以後の世代を取り上げてみましょう。この世代はアメリカでは「ベビーブーマー」と呼ばれています。彼らのユダヤ人としてのアイデンティティは宗教的、あるいは人種的なもので、早くから社会的アウトサイダーとして扱われてきました。彼らは 1948 年のユダヤ人の祖国建国と、1967 年の父祖の都エルサレムの軍事的奪還の際には、数に勝るアラブ軍と戦ったイスラエルが国際的に非難されるという状況の中で育ちました。そして、ベビーブーマー世代のユダヤ人たちは、彼らの民族性がユニークでパワフルなものだと考え、誇りを持ったのです。反ユダヤ主義やソ連のユダヤ人の抑圧に反対する彼らの活動は、1960 年代から 1970 年代にかけて起こったアフリカ系アメリカ人（黒人）の公民権闘争への共感にもつながりました。こうして、ユダヤ性は宗教的、文化的な要因を超えて、より広範囲のものだと考えられたのです。

一方、1965 年から 1980 年に生まれたユダヤ人は「ジェネレーション X」、1981 年から 1996 年に生まれたユダヤ人は「ユダヤ・ミレニアルズ」や「ジェネレーション Y」と表現されます。この世代のディアス

ポラ・ユダヤ人は、戦後のベビーブーマーとその孫世代であるミレニアルズまでの間に文化的アイデンティティの激しい変化を経験しました。それは、世俗化やユダヤ教からの離反、少子化などの変化です。1990年に米国で行われたユダヤ人の人口調査によると、米国のユダヤ人の63%がどのユダヤ教団体にも所属していません。ディアスポラ・ユダヤ人の出生率は、非正統派家庭で一組の夫婦につき1.8人程度となっています[28]。1985年から1990年にかけて北米とヨーロッパではユダヤ人の52%以上が他民族と結婚したという、驚愕の数字もあります[29]。その後に行われた2013年の調査でも、多民族との結婚率は上昇し続けています。旧ソ連全体では、1990年代初頭までにユダヤ人の他民族との結婚率は70%から80%と推定されていました[30]。2018年のイスラエルの統計によれば、ユダヤ人と異邦人の夫婦の非ユダヤ人家族としてアリヤー（帰還移民）した人々が、40万200人に達したとしています[31]。

1981年から1996年にかけて生まれたユダヤ人のミレニアル世代である「ジェネレーション Y」は、1980年代後半に始まった民族同化と異人種結婚の増加の影響を受けて生まれた世代の人々です。1985年以降、米国、欧州、特に東欧のユダヤ人の間では非ユダヤ人との結婚が主流となり、ユダヤ系ミレニアル世代は親世代と同じかそれ以上の割合で異邦人と結婚して家庭を作りました。そして、私たちが大学で見かけるユダヤ人大学生は、彼らの子供であり、半数以上がユダヤ人と異邦人の結婚した家庭の出身で、混合したアイデンティティを持っています。米国のシンクタンクであるピュー研究所の調査では、ミレニアル世代の68%は神の存在を疑ったことがないと言いますが、メシアニック・ラビであるジョエル・リーベルマンは、メシアニック・ジューの家庭で育ったZ世代の子どもたちに、「...もし、あなたが信仰について苦しんだことがないなら、あなたの信仰は“借り物”になるだろう」[32]と助言しています。

ミレニアル世代にとってのホロコーストは、彼らの両親や祖父母のように人生を変えた歴史的イベントではありません。「二度と許さない」という言葉を使っても、米国で1960年代から1970年代にかけて起こった反ユダヤ主義や民族的不正に耐え、アフリカ系アメリカ人と共に公民権をめぐって戦ったユダヤ人世代のような強い感情は無いのです。両親や祖父母の世代にとってユダヤ人の生存に関わる重要イベントだった1948年のユダヤ人祖国の建国と1967年の六日間戦争も、ミレニアル世代にとって同じ意味を持ってはいません。彼らの両親や祖父母が当時の歴史的、文化的な圧力によって人格を形成されたのに対し、Y世代のユダヤ人成人たちは、更に複雑な文化的影響を受け、全く異なるユダヤ人のアイデンティティの要素を持っているからです。スティーブン・コーエンとアリ・ケルマンはこう述べています。

米国のユダヤ人の最も古い世代の人々は、ホロコーストやイスラエル建国を記憶しています...しかし、若いユダヤ人、特に今日の若い成人のユダヤ人には同じことは言えません。ユダヤ人のアイデンティティの位置づけは、公的なものから私的なものへと移り変わっています...多くの米国のユダヤ人は、誇り高いディアスポラのユダヤ人として、平等のアイデンティティを主張しています... [33]。

ユダヤ系ミレニアル世代とその子どもたちのアイデンティティ形成は、伝統的な制度による社会的権威よりも外部とのつながりや個人の選択によって決定されるようになりました。この世代は自分のユダヤ人としてのアイデンティティについて多くの選択肢を持ち、テクノロジー、メディア文化、グローバリゼーションなどの影響を受けています。ホロコースト直後の米国におけるユダヤ人は、おそらく80%以上がアシュケナジあるいは東欧出身者でした[34]。東欧のユダヤ文化、いわゆる「イディッシュケイト」がユダヤ文化と見られていました。しかし、今日のユダヤ系であるミレニアル世代やその子供たちは、ジェンダー、性的指向、民族性などは外から規定されるものではなく、自分で選ぶものであるというポストモダンの考え方が浸透しているのです。

2013年のピュー研究所の調査報告「A Portrait of Jewish Americans」によると、現在結婚している米国のユダヤ人のうち、実に44%が非ユダヤ人の配偶者と結婚していることが分かりました。ユダヤ人が異邦人と結婚する率は58%ですが、ある社会学者は「米国のユダヤ人から正統派の宗教的ユダヤ人の小さなコミュニティを取り除いてサンプルを抽出すれば、異邦人との結婚率は73%にも達するだろう」と述べています[35]。

ユダヤ人の他民族との混血は特にミレニアル世代とその子供たち、つまりジェネレーション Z にとっては日常的なことです。ユダヤ人共同体で異邦人との結婚は 20 年前まではタブー視されていました。しかし、ユダヤ民族は聖書と聖書以後の歴史を通して他民族との結婚を乗り越えて生き延びて来ました。イスラエル国内でもディアスポラのユダヤ人の間でも、ユダヤ人と異邦人の結婚と混血について、様々な研究が行われています[36]。

グローバル化、混血、異邦人との結婚は、世界中のユダヤ人に影響を与え、ユダヤ人のアイデンティティをも変化させています。クリスチャンが様々な国のユダヤ人と出会うと、ユダヤ人というアイデンティティの意味を見出すのに苦労するでしょう。ユダヤ文化の特性に関する古い思い込みを捨て、偏見を持たないで会話をする必要があるかもしれません。そうすれば、ベビーブーマー、ジェネレーション X、ミレニアル世代、そして 1995 年から 2010 年の間に生まれた子どもたちの間で、今日のユダヤ人が考えるユダヤ性がまったく異なることに気付くでしょう。例えば、ある本は「シナゴグではなく、ユダヤ人の郷愁の想いを通じて宗教的な意味を発見し体験するのが今の風潮なのか？」と問いかけています[37]。

反ユダヤ主義は、かつてのアメリカでユダヤ人移民に対する偏見や社会的不正として記憶されていましたが、今ではピッツバーグ、ノースリッジ、サンディエゴのシナゴグでユダヤ人に対するテロがあり、パリのユダヤ人が普通に街を歩いてコーシャ市場で買い物をするだけでも同様の襲撃事件が起こっています[38]。大学キャンパスでは、イスラエルを非難するという形の反ユダヤ的な行動がますます見られるようになっており、そこには明らかに世界のユダヤ人を標的にした主張が見られます。それは、イスラエル国家に反対すると称する BDS 運動（ボイコット、投資中止、制裁）のデモを見れば明らかです[39]。中東和平を推進すると称する団体は、実はユダヤ人国家の抹殺を目指して活動する反ユダヤ主義団体だとして、ジャスティン・クロン氏はクリスチャンたち、特に学生たちに警告を与える活動を行っています[40]。

宗教的立場による違い

米国とイスラエルに住むユダヤ人が、世界のユダヤ人口の 84% を占めますが、その 72% から 75% が世俗派であると考えられています。2013 年にピュー研究所が行った米国のユダヤ人に対する調査によれば、自分は「宗教的」と回答した人の所属教派は、35% が改革派、18% が保守派、1% が再建派、10% が正統派でした。また 30% は、これらのどの教派にも属していないと回答しました。宗教的だと回答したのに、どの教派にも所属していない人が 30% もいたのです。一方、ヨーロッパにおいては、ユダヤ教の最大教派は正統派で、それに続くのが米国の改革派に相当する自由派または進歩派です[41]。

イスラエルでは 1971 年にはアメリカの改革派が「進歩的ユダヤ教イスラエル運動」として一定の地位を得ましたが、結婚式に関して政府の認可を受けているのは正統派だけです。（訳注：イスラエルでは正統派が政権と結びついて権力を独占しており、改革派や保守派は権威を認められていない。）

ディアスポラのユダヤ人は「世俗派」と「宗教派」に二分できますが、イスラエルではこの二つのカテゴリーの間に大きな人口層が存在します。それは「伝統派」あるいはマソルティと呼ばれる人々で、厳格な正統派の律法順守と世俗的なライフスタイルの中間に位置します。マソルティのユダヤ人たちは自分たちの生活が、現代的な生活に適応しながら、宗教的な規定を順守できる最善の方法だと考えています。例えば、安息日の労働は拒否しても、安息日にタバコに火をつける（火を起こす）ことには問題がないと考えるわけです。

前述のピュー研究所の調査によれば、米国のユダヤ人で「宗教的」と回答した人のうち、30% は伝統的なユダヤ教の信者ではありませんでした。そのカテゴリーに入る可能性があるのは、イエシュアを信じるユダヤ人、メシアニック・ジューです。ディアスポラやイスラエルに存在するメシアニック・ジューの共

同体は拡大して活気に満ちていますが、彼らに関する公式な人口統計データは存在しません。米国では 10 万人程度と推定され、約 300 から 350 のメシアニック・コングリゲーションがあります。イスラエルでは建国以来からのメシアニック・ジューの割合は人口の 0.1 パーセント以下と推定されています。1998 年、イスラエルにあるメシアニック・コングリゲーションと小規模な「家の教会」を調査した結果、約 5000 人のメシアニック・ジューがいました[42]。現在、イスラエルにおけるコングリゲーションの数は 300 程度で「現在、3 万人以上の信徒がいる」と見られています[43]。(訳注；カスパリセンターが 2019 年に発表した調査は 25000 人としている。)

イエスを愛するユダヤ人がディアスポラの全域におり、イスラエルで顕著であることについては、後ほど詳しく説明します。

地域別に見たユダヤ人

2018 年初めの世界のユダヤ人口は 1460 万 6 千人と推定されています。これは、イスラエル国内と世界のその他の地域に住むディアスポラのユダヤ人の両方を含む数字です。1945 年のホロコースト直後、世界の主要なユダヤ人口は 1100 万人と推定されていました[44]。それ以来、イスラエル国内とディアスポラという 2 つのグループの人口は、以下のように大きく異なる変化を見せていますが、ユダヤ人の総人口は増加基調です。

イスラエル建国直前の 1945 年、そこに住むユダヤ人の人口は 50 万人を超えた程度でしたが、2018 年のイスラエル国内のユダヤ人の数は 650 万人です。一方、1945 年のディアスポラのユダヤ人は 1050 万人でしたが 2018 年には 810 万人まで減少しました[45]。イスラエルにおける急速な人口増加は、離散地からイスラエルへのアリヤー（帰還移民）の結果です。世界のユダヤ人人口は両者の合計で 1460 万人です。

この 1460 万人という数は、第二次世界大戦後から見れば大きな増加ではあるものの、大戦前夜の世界のユダヤ人口、1650 万人までは回復していません。人口統計学者は、大戦前夜の水準まで回復するには、さらに数十年かかるだろうと考えています[46]。

2018 年現在、イスラエルと米国で 2 カ国は全ユダヤ人口の 84% を占めています。そのほかに、1 万 8000 人以上のユダヤ人口を抱える国は 17 カ国あり、それらの合計が世界のユダヤ人の 14.7% を占めています。イスラエルのユダヤ人口は 655 万 8000 人で、世界のユダヤ人の 44.9% です。一方、アメリカのユダヤ人口は 570 万人で、世界のユダヤ人の 39% を占めています。これは、2013 年にピュー研究所が発表した「アメリカのユダヤ人に関する調査」とほぼ同じ数字です。米国のユダヤ人口が増えないのは、イスラエルへのアリヤー（帰還移民）だけではなく、ディアスポラのユダヤ人の少子化・同化を反映しており、1990 年の全米ユダヤ人口調査で早くもその傾向が報告されていました。

一方、欧州のユダヤ人口は過去千年間で最低の水準に落ち込んでいます。イギリス、トルコ、ロシアを含むヨーロッパのユダヤ人は、わずか 130 万人です。これは、1170 年にユダヤ人の旅行家で学者のトゥデラのベンジャミンが推定した数字と同じです[47]。

現代ユダヤ人の 4 つの特別な集団とユダヤ人伝道

1. スピリチュアルだが宗教的ではない人々（SBNR）

米国ユダヤ人のミレニアル世代とその両親はユダヤ教の伝統や組織よりも個人的な経験を重視するようになっています。それは、1990 年の全米ユダヤ人口調査で、宗教離れが増加傾向にあると報告されていることから明らかです。ユダヤ人の成人たちの間で「私たちはスピリチュアルだが宗教的ではない」（SBNR）という言い回しが増加していることを耳にします[48]。それでも、ピュー研究所の調査によれ

ば、アメリカのユダヤ人ミレニアル世代の 90%は「ユダヤ人であることを誇りに思っている」のです[49]。

これらの調査結果を総合すると、米国の多くのユダヤ人たちは、伝統的にユダヤ人の特徴であった「神との契約の義務」に参加したいと考えているようです。スピリチュアルな神との関係を求める傾向は、SBNR のユダヤ人たちへの的確な宣教を可能にします。ジューズ・フォー・ジーザス の機関誌編集者であり宣教師であるルース・ローゼンは、『神は、神に対する義務を理解したい人々を探している。驚くべきことに、神はご自分を信頼する人々に対して義務を負っておられる』[50]と述べています。

神は土のちりから人を造り、アダムと全人類に「命の息」を吹き込まれた創造主であり、すべての生き物を造られました（創世記 2：7）。また、神は救い主であるイエスを通して、彼を知ろうとするすべての人に永遠の命を与え（ヨハネ 17：3）、イエスを信じる者は神の聖霊の賜物を受ける（ヨハネ 7：37-39）のです。福音が宗教としてではなく、希望と聖書的なスピリチュアル（霊的）なメッセージとして示される時に、ユダヤ人の抵抗感は少なくなるのです。

2. 伝統的な権威構造よりも個人の経験

ユダヤ人伝道で考慮しなければならないのは、ユダヤ人の文化的経験である罪悪感、恥、恐れ、ユダヤ人同士の強い関係、生存本能です。世界のユダヤ人は、これらの要素を様々な形で持っていますが、イスラエルのような共同体志向の強いユダヤ人社会と北米のディアスポラのような個人主義が強いユダヤ人社会では、それらが異なった形で現れるのです。

現代のユダヤ人はたいてい、実際のクリスチャンの信仰を理解しないままに、「キリスト教」による歴史的なユダヤ人迫害や民族主義的な反ユダヤ的攻撃という情報をもとに誤った認識を持っています。ユダヤ人の文化においては、クリスチャンという言葉と異邦人という言葉が混同されます。しかし、福音主義のクリスチャンと個人的に知り合うことで、昔ながらの恐怖の固定観念を取除き、メシア・イエスとの関係の中で生きる信仰の美德を示せる可能性があります。

クリスチャンがユダヤ人に福音を伝えるための取り組みは、個人的な人間関係を築くことから始めるのが最善です。宣教のコミュニケーションは異文化交流であることを認識し、文化間の「橋を渡る」取り組みが必要でしょう。ユダヤ人が「キリスト教の世界観」をどう考えているかを、よく知るべきです。福音の宣教とユダヤ人の求道の障害となっている恐れ、罪悪感、恥という諸問題は、率直で心を開いた会話により克服することができます。このギャップを埋めるために、ユダヤ的な異文化コミュニケーションに関する実践的な論文である、ゲイラン・ピーターソンの著書「Shifting Cultural Trends and the Impact on Communicating the Gospel」[51]は、一読の価値があります。

3. ミレニアル世代：ユダヤ人としてのアイデンティティの変化

最近の調査で、アメリカのユダヤ系ミレニアル世代（1981～1996 年生まれ）のアイデンティティが、前の世代と大きく変化していることが明らかになりました。米キリスト教調査機関のバーナ・グループは、2017 年にアメリカのユダヤ系ミレニアル世代を対象に調査を実施しました。ピュー研究所の世代間調査からわずか 4 年後に行われたこの調査結果は、現在の若いユダヤ人成人たちのユダヤ人アイデンティティが顕著に変化している状況を明らかにしました。

その中で、伝統的なものからの乖離が大きい、驚きの調査結果がいくつかありました。米国のユダヤ系ミレニアル世代は、3 分の 1 以上の 38%が「無宗教」とであると答えたにもかかわらず、82%が「スピリチュアリティ」に「多少」または「非常に」興味があり、意外なことに 73%がキリスト教などユダヤ教以外の宗教のスピリチュアリティを学ぶことに関心を示していたのです。

スタンフォード大学のユダヤ教研究教授であるアリ・ケルマンのような米国のユダヤ教指導者たちは、バーナ・グループのミレニアル世代の調査報告について、「私が知っているユダヤ人とは違う...たぶん彼らは私たちがこれまで見たことのないユダヤ人だ」と発言し[52]、米国のユダヤ人ミレニアル世代の劇的な変化に驚きを隠しませんでした。イスラエルの主要紙であるエルサレム・ポストも、米国のミレニアル世代のユダヤ人の 5 分の 1 が、イエスについて伝統からかけ離れた見解を持っているという、バーナ・グループの調査結果を驚きと衝撃を持って伝えました。そして「ユダヤ人のミレニアル世代の 21%が、イエスは『1 世紀に人々の間に住んでいた人間の形をした神』だと信じている」とするオンラインの調査報告を紹介しました[53]。

ウェブ雑誌『ニューボイス』の編集者であるサラ・ワイズマンは疑問を呈しながらも、この常識に反する調査結果が事実であることを認めました。彼女は、ミレニアル世代のユダヤ人を知っており、その人物は「仏教徒とデートして、シナゴグに行かないのに毎日テフィリンを付け、金曜日の夜にクラブで遊ぶのに、携帯電話とコンピューターの電源を切ることにはこだわる」[54]と言ったのです。

イエスについて学ぶことに対するユダヤ人の抵抗感は、ユダヤ人の異文化間結婚率の上昇とユダヤ人としてのアイデンティティの形成要因の変化によって徐々に薄れています。米国のユダヤ人の半数近くは自分たちがユダヤ人であることを「非常に重要である」と答えており、バーナ・グループの調査ではユダヤ人ミレニウム世代の 80%が「宗教的ユダヤ人」を自認しています。ワイズマンは「つまり、ミレニアル世代が伝統的なユダヤ教の制度や運動から離れた結果、..... 私たちのユダヤ教が彼らには違って見えるのです」と語っています[55]。

アメリカのユダヤ系ミレニアル世代は、伝統的な宗教への関心は低いものの、スピリチュアル（霊的）な事柄に関心は高いという事実があるため、彼らの個人的で霊的な好みについては、時間をかけて聞き出す必要があります。若いユダヤ人はどのような霊的要素を見出したいのでしょうか？彼らは聖書的な霊性に抵抗はないのでしょうか？彼らは神に何を望んでいるのでしょうか？主の願いに応じて、彼らはどのような霊的な義務を守る用意があるのでしょうか？イエスはそれについて、旧約聖書を用いて次のように語っています。

『先生、律法の中の大いなる戒めはどれですか』。すると彼は言った、『あなたは心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛さなければならない。これが偉大な第一の戒めである。そして、第二の戒めもこれに似ている。あなたは自分のようにあなたの隣人を愛さなければならない。この二つの戒めの上に、すべての律法と預言者が成り立っているのである。（マタイ 22:36-40）

過越の祭りや秋の一連の例祭のような聖書に基づいた行事に、彼らはどのような意味を見出すのでしょうか？そして、ユダヤ人の一員としての彼らの運命に、聖書の観点をどのように関わらせるのでしょうか？互いに聞く関係から始まる異文化理解は、彼らにとって新しい真理である福音を適切に伝えるための最初のステップとなります[56]。

4. 他民族との結婚がユダヤ人伝道に与える影響

ディアスポラのユダヤ人の中で異邦人との結婚が増えていることは、すでに述べたとおりです。社会調査によると、異なる民族や宗教を持った人々との結婚は、幻滅や不満の割合が非常に高く、75%とも言われています[57]。家族や結婚生活の安定が脅かされるだけでなく、イスラエルにおいては、ユダヤ民族の存続が危うくなると懸念する人もいます[57]。

ディアスポラのユダヤ人の研究は、地理的、社会的、文化的環境の変化の中にある人々に焦点をあてるものです。異邦人との結婚は、その指標となるものですが、文化の変化に対する開放性や脆弱性を生み出すという点が軽視されがちです。ユダヤ人は、非ユダヤ人とのデート、交際、結婚という社会的統合を通じ

て、新しい文化や精神性に触れることになります。ユダヤ人と異邦人のカップルが抱える課題について独自の社会調査を行った結果、彼らの関係を最も脅かす要因の一つが、互いに受け入れ可能な霊的調和を見出すことが難しいという点にあることが判明しました。繊細にお互いを尊重するアプローチを取れば、異邦人とユダヤ人のカップルは、異文化交流を通じた宣教に適合することを、私たちは発見しました。

世界各地におけるユダヤ人伝道

以上は主にアメリカのユダヤ人コミュニティの状況でした。世界のユダヤ人に関する調査の最後に、イスラエルと、そしてアメリカに次いで大きな離散地（ディアスポラ）のコミュニティ4個所の状況について概観しましょう。この20年間で、これらの地域のユダヤ人伝道にどのような変化があったのでしょうか？

イスラエル

2000年年初頭、イスラエルのユダヤ人たちは平和への展望について懸念し、政治的な平和に注目していました。しかし、過去15年間、ミレニアル世代のイスラエル人たちは、技術的、生物医学的な科学の進歩による好景気と、「安全保障の柵の中」での比較的平和な暮らしと、繁栄を享受してきました。そして彼らは、非常に活動的です。

ユダヤ人伝道活動はドイツやイギリスなどの国外に住むイスラエル人や、兵役終了後に東南アジア、ラテンアメリカ、インド、ヨーロッパを旅行するイスラエル人に接触する方向に力点が移っています。イスラエルから離れた地での宣教は、しばしば異文化交流となるため現地のクリスチャンたちと、イスラエルから派遣されたユダヤ人伝道者が協力して行うことになります。この7年間、イスラエルのメシアニック・ジュー、特に兵役終了後の若い大人たちが、同胞たちへの働きかけをリードしてきました。

イスラエル国内では、前述のようにメシアニック・コングリゲーションの活動の一環として宣教が行われています。その多くは複数のコングリゲーションの共同事業であり、ヘブライ語、ロシア語、アムハラ語、アラビア語、スペイン語、英語など、複数の言語が使われます。またイスラエル固有のメシアニック音楽と礼拝形式が新世代に受け継がれており、若いイスラエル人にうまくアピールすることに成功しています。

イスラエル兵士への宣教も日常的になっています。複数のコングリゲーションの協力により、イスラエルのいくつかの主要都市で宣教活動が行われるようになりました。週末に休暇をとる兵士たちは、食事、住居、洗濯、霊的なケアなどを定期的に受けています。イスラエル国防軍に所属する若いメシアニック・ジューは、所属する軍隊の友人を連れて、霊的内容を含む週末のリトリートに参加できます。それが可能になったのは、イスラエル軍が隊員の多様性に対して、よりオープンで受容的な態度をとるようになったからです。また、ホームレス問題や中絶問題、イスラエルのLGBTQ+の人々のニーズに応えるために、メシアニック独自の伝道活動も行われています。これは、今日イスラエルで起きている事柄の氷山の一角に過ぎません。

フランス

ジュール・フォー・ジーザスのパリ支部長、ジョシュア・ターニル氏の報告です。

フランスは長い間、ヨーロッパ最大のユダヤ人居住地として知られてきました。しかし、ここ20年間は数が激減しています。1980年代以前、フランスのユダヤ人の数はおよそ80万人でしたが、現在ではその半数程度に減少しています。反ユダヤ主義、特にイスラム系移民の影響でイスラエルや、他の離散地へ向かうユダヤ人の流出が進んでいます。

ユダヤ人への反ユダヤ的な落書きや暴力行為の増加は、フランスのキリスト教界に反ユダヤ主義に立ち向かうことを促しました。2004年にフランスのクリスチャンに呼びかけが行われたものの、2019年にフランス福音派全国協議会（CNEF）が反ユダヤ主義に関する会議を開催するまで、対応は行われませんでした[58]。その会議には、ユダヤ人コミュニティの指導者が招待され、キリスト教指導者と会談しました。約150人以上が参加しましたが、その60%がキリスト教福音派の人々、40%がユダヤ人の人々でした。彼らは話し合いと連帯のために会い、フランスの福音派とユダヤ人コミュニティの指導者たちの間で、宗教間の接触を続けることになりました。そこでは相互の異文化理解を深めるために、聖書と福音にまつわるオープンで正直かつ友好的な話し合いが行われました。メシアニック・ジューのメンバーを含むCNEFは、ユダヤ人コミュニティに影響を与えるユダヤ教のイベントやデモに定期的に参加し続けています。2020年、ジューズ・フォー・ジーザスのスタッフは、パリで行われた秋の例祭のシナゴグ主催の礼拝に招待を受けて参加しました。

イギリス

International Mission to the Jewish People（旧CWI、世界的な宣教団体）宣教部長のリチャード・ギブソン氏による英国に住む29万人のユダヤ人についての報告です。

他のユダヤ人共同体と同様に、イギリスのユダヤ人口の中で最も急速に増加しているのが正統派の中でも厳格な超正統派（ハレディ）です。2015年、ロンドンのユダヤ人政策研究所は、イギリスの正統派コミュニティは年間約5%ずつ増加しているのに対し、その他のユダヤ人が年間0.3%ずつ減少していると指摘しました。この状況が続くと、イギリスの正統派人口は18年で倍に増加します。そこで、イギリスではイディッシュ語が話せるなど、正統派の人々に対応できる宣教スタッフを育成することが急務となっています。

また、イギリスに移住し、定住しているイスラエル人の人口も増えており、彼らへの宣教にも関心が高まっています。彼らは世俗的な傾向があり、東洋的なスピリチュアリティを好むか、全くの無宗教です。イスラエル人のメシアニック・ジューのコミュニティの中で、この分野の宣教に参加するためにイギリスに移住する人が増えています。

旧ソビエト連邦の地域、ロシアとウクライナ

過去30年間の世界のユダヤ人口の移動の中で、旧ソビエト連邦地域からの人口流出は最大規模のものだと思われるかもしれません。1990年から2015年の間に、特にロシア、ウクライナ、その他の旧ソビエト連邦の地域では、200万人以上いたユダヤ人人口が28万5000人にまで減少しました[59]。彼らの移動先はイスラエルと米国で、現在はそれがヨーロッパにも及んでいます。

ロシアのユダヤ人共同体は、環境の激変の結果、メシア・イエスの新しい霊的真理である福音を最も伝えやすいユダヤ人集団の一つとなりました。1990年代から旧ソビエト連邦地域には、ロシア語を話すメシアニック・ジューのコングリゲーションが数多く誕生しました。これらのコングリゲーションの多くは、世界の他の地域に人口が流出し続けているにもかかわらず、今日もなお地域の人々の霊的活動の場となり続けています。そして、彼らが移り住んだイスラエル、アメリカ、そして最近ではドイツでも、ロシア語で礼拝するメシアニック・コングリゲーションが次々に設立されています。

ロシア語圏とウクライナ語圏のユダヤ人コミュニティに影響を与えている第二の大きな要因は、異邦人との結婚の割合が高いことです。人口統計学者によると、2015年にロシアとウクライナでユダヤ人が異邦人と結婚する率は80%、旧ソビエト連邦の他の地域では65%から75%でした[60]。このような状況があるため、イスラエルや他の地域に暮らすロシア系ユダヤ人コミュニティに対する宣教では、異文化間宣

教が有効な手法なのです。

ドイツ

ジューズ・フォー・ジーザスのドイツ支部長、アロン・レウイン氏がベルリンからレポートします。

ドイツのユダヤ人社会は、この 15 年間で劇的に変化しました。ホロコーストで多くの人々が逃げたり殺されたりして以来、1990 年代までドイツのユダヤ人口は微々たるものでした。しかし、旧ソビエト連邦が門戸を開くと、特にウクライナを中心にロシア語を話すユダヤ人が大量にドイツにやって来ました。この共同体の多くはライン・ルール地方に定住したので、ドイツ社会への適応が遅れていましたが、現在ではこのロシア語を話すユダヤ人はドイツ人と結婚する傾向が続き、約 75% の割合でドイツ人と結婚しています[61]。

2010 年になると、さらに第三のグループが加わりました。それはイスラエルからドイツに移民して来た人々です。リベラルで世俗的、時には LGBTQ+ といった多くのイスラエル系ユダヤ人たちが、より開かれた社会での受け入れを求めてベルリンに定住し、繁栄しました。現在、ドイツのユダヤ人口 11 万 7000 人のうち、ベルリンに住むイスラエル人は 2 万人になると推定されています。また、この世俗的なイスラエル系ユダヤ人たちは、ロシア語を話すユダヤ人社会との社会的つながりや、より伝統的な文化には特に興味を示さないことが分かっています。

ドイツでは、反ユダヤ主義を禁止する厳しい法律があるにもかかわらず、反ユダヤ的事件は増加しています。反ユダヤ的事件の集計が 20 年前に始まって以来、2019 年にはその数が、過去最高を記録しました。報告された事件の数は 2,032 件ですが、それ以外にも報告されていない事案があることに注意しなければなりません。その結果、イスラエル人は街頭でヘブライ語を話すことを警戒するようになりました。そして、ドイツは中東イスラム諸国からの難民を受け入れているため、ドイツのユダヤ人たちは自分たちが攻撃を受けやすい立場にあると感じています。

レウイン氏はイスラエルのユダヤ人とドイツでロシア語を話すユダヤ人への働きかけには、それぞれ異なる文化的な配慮が必要であると報告しています。イギリスでは正統派ユダヤ人の人口が増えていますがおそらくドイツやフランスの世俗的な風土では同じような現象は起こらないでしょう。異邦人と結婚した人々に合わせた宣教活動は有効だと思われますが、ドイツではまだ初期段階です。

結論

以上のことは、ユダヤ人伝道にどう役立つのでしょうか？

この章を読んだクリスチャンの皆様は、現代のユダヤ人と関わる時に、ユダヤ人の持つ異文化的な視点をより深く理解することから始めるのが最善だと理解されたと思います。すべてのコミュニケーションが異文化の中で行われるため、ユダヤ人の世代、宗教的コミュニティ、地理的環境などの複雑な違いに気づく必要があるのです。メシアニック伝道団体やコングリゲーションは、福音を語る人々とユダヤ人の間の異文化理解の橋渡しを助けています。また、メシアニック・ジューは、ディアスポラのユダヤ人集団や外国旅行中のイスラエル人と文化的に密接なつながりを持っているのです。

私たちは、グローバル化、混血、異邦人との結婚が、ディアスポラやイスラエルのユダヤ人にどのような影響を及ぼしているかを見てきました。また、これらの人々が物の見方を変え、アイデンティティと再び向き合う時期にあることを示しました。そのため、彼らはイエスの福音やそれに対する悔い改めと信仰のような新しい考えに対して、よりオープンになりやすいのです。

また、靈的に心が開かれたディアスポラのユダヤ人の共同体、ユダヤ人と異邦人のカップル、超正統派ユダヤ人、イスラエル人旅行者、アメリカのユダヤ人の若者や大学生、ロシア語を話すユダヤ人移民などに対する最近の伝道活動を紹介してきました。さらに、伝統的なユダヤ教組織に愛着を持たない若いユダヤ人たちの中に「スピリチュアルだが宗教的でない」人々がいることも心に留めておくべきでしょう。

本章は、今日の多文化でグローバルなユダヤ人社会について知るための民族誌的な「スクリーンショット」です。この情報は、ユダヤ人の間で、思慮深く、適切で、異文化に配慮した福音を伝える機会をより多く見出すために役立つでしょう。

2023 年 2 月 22 日（田中身子和子翻訳）

第3章：神学的考察とユダヤ人伝道

ー編集責任：ダレル・ボック博士、協力者：エリヤ・コーエン、グレッグ・ハッグ、ライアン・カープ、シャーロット・マチャド、ジェニファー・マイルズ、ロバート・ウォルター

[英語本文へのリンク](#)

第一、第二章ではユダヤ人伝道の歴史を概観し、ユダヤ人コミュニティの現在の構成を検討しました。次に検討すべきことは、私たちの持つ聖書のおよび神学的な枠組みが、ユダヤ人コミュニティ内の人々に福音を伝えることにどのように役立つかを検討することです。神が世界との和解という主題を、選民に与えた霊的な歴史と契約・約束と、どのように結びつけておられるかを、私たちは正確に理解する必要があります。ユダヤ人たちは、世界を祝福する神の約束の中で、なおも特別な役割を持っています。私たちがユダヤ人に証言する場合に、それを強調することで、啓発的な洞察と視点が与えられるのです。

ケープタウン決意表明は、世界の人々と文化を愛することについて述べた章で、以下のように述べています。

「この愛はまた、至るところですべての民族と文化に、何とか福音を告げ知らせよう、私たちに迫る。ユダヤ人であろうと異邦人であろうと、いかなる民族も大宣教命令の範囲からはずれてはいない。伝道とは、まだ神を知らない人々に対する神の愛に満たされた人々の心から流れ出るものである。私たちは恥を抱きつつ告白する。イエス・キリストのうちにある神の愛のメッセージをまだ一度も聞いたことのない民族が、世界には依然として多数存在する。福音をたずさえてすべての民族に到達するために、あらゆる可能な手段を用いるという、ローザンヌ運動を当初から動機づけてきた決意を私たちは再び新たにする。」（ケープタウン決意表明 7. 私たちは神の世界を愛する／日本ローザンヌ委員会公式訳）

伝道についての聖書的な召命は、全ての人が神と再びつながるようという、神からの呼びかけに対する応答ですが、その対象からイスラエルとユダヤ人が除外されることはありません。旧約聖書の物語におけるイスラエルの中心的な位置、およびイスラエルに交わされた神聖な契約の中で約束されたメシアとしてイエスが来られたことを考えれば、イスラエルが今なお神の召命および計画の一部であることを支持する神学的観点からイスラエルを見る必然性は明らかです。

そこで本章は5つの節に分けて考えていきます。1) 重要な用語、2) イスラエルが神にとって重要な理由、3) 現在の議論、4) 神の和解のご計画とイスラエル、5) イスラエル国家の土地と将来に関する疑問、です。イスラエル国家に関する議論は伝道に無関係だと思われるかもしれませんが、しかし、神が民族集団をどのように見ておられるかは、救いと回復の働きの重要な部分です。神の全体的なご計画におけるイスラエルの位置を見れば、ユダヤ人伝道が教会にとって重要な召しである理由が見えて来るのです。

1 節) 重要な用語

ユダヤ人伝道

ユダヤ人伝道は、一連の重要な聖書の勧め（命令）に根ざしています。マタイ 28:16-20 の大宣教命令は、弟子を作るために全世界に出て行き、メシアが人々に与えたすべての戒めに従うように人々に教えよと命じるものです。さらに、ルカ 24 章 44~47 節にある大宣教命令は、福音を証言するプログラムが、イスラエル、特にエルサレムから始まるとしており、それは使徒 1 章 8 節の記述でも確認できます。この文には、ユダヤ人がアブラハムに与えられた約束に関係があるゆえに、福音の宣教対象から除外されること

は全く想定されていません。実際、マタイ 3:9 や、それに対応するルカ 3:8 は、そのような見方を否定しています。これらすべての記述は、ローマ人への手紙 1:16 の「福音はまずユダヤ人に、次にギリシャ人にも」という順序を支持しています。ユダヤ人伝道は、すべての伝道の出発点なのです。救いは、墮落した被造物全体の回復と見なされますが、その中には、神の働きと恵みの模範となるはずだった人々（ユダヤ人）も含まれるのです（使徒 1:6；3:19-22）。神の主要な契約、すなわちアブラハム契約（創世記 12:1-3）、ダビデ契約（サム下 7:8-17）、および新しい契約（エレ 31:31-37）は、すべてイスラエルとの間で結ばれたものであり、祝福が世に出た後で、イスラエル民族が除外されるなどという計画はありませんでした。神はご自分の約束、特に最初の核となる約束を交わした人々に忠実（ローマ 9-11）なのです。

イスラエル

聖書でイスラエルについて考えるとき、私たちはイスラエルを民として、国家として考えます。一方で、それはしばしば異邦人と対比されるグループであり、イスラエルは民族集団です。これは遺伝や人種だけの問題ではありません。彼らは、近隣にいた多神教の世界とは対照的に、一神教の信仰を長年にわたり持ち続けたのでした。彼らの独特の習慣、慣習、および明確な暦は、イスラエルの「神の民」としてのアイデンティティの形成を助けました。これらの要素は、今日の多くのユダヤ人が持っている、ユダヤ人のアイデンティティの重要な部分を形成しています。ユダヤ人伝道をする際には、それらの要素を積極的に評価することが重要です。

イスラエルという言葉は、土地と場所を持つ国家をも指します。聖書の最初の部分は彼らの物語です。創世記では、アブラハム契約で民と土地の約束が与えられ、出エジプト記から申命記は、民族の形成と約束の地への旅です。そしてヨシュア記は、神が備えてくださった「乳と蜜の流れる」地に入る様子を描きます。そして、イスラエルはエジプト、アッシリア、バビロンなどの他の国々と対抗することになります。そしてバビロン捕囚とディアスポラにおける民族の苦難は、故郷に帰って住みたいという彼らの切望を生み出しました。

民族または国家としてのユダヤ人

ユダヤ人の歴史は、神と関わる中で、他民族に苦しめられる歴史でした。その一方的な関係の歴史は、聖書に詳しく記録されています。唯一の神に焦点を当てる彼らの関心は、エジプトに始まり、アッシリア、バビロン、ローマに及ぶ、他の国々からの攻撃をもたらしました。近年も、ヨーロッパのユダヤ人たちは挑戦と攻撃を経験しており、教会もその加害者の一部となっています。このような圧力により、多くのユダヤ人は再び故郷に帰ることを切望するようになりました。また、ホロコーストという恐怖の事件は、イスラエルの民族自決権への幅広い共感と支持を生み出しました。非常に多くのユダヤ人が移住してイスラエルという国が作られ、イスラエルは人々に認められる国家または民族となりました。救いは個人と集団の両面を持つため、ユダヤ人伝道について考える時は、個人と民族の両面を考えなければなりません。ユダヤ人伝道を考える時、彼らに対する神の約束の本質を、個人と民族という2つの面から考える必要があるのです。

2 節) イスラエルが神にとって重要な理由

イスラエルとの契約における神の約束の言葉

（アブラハム契約、モーセ契約、ダビデ契約、新しい契約）

エペソ人への手紙第2章12節で、パウロは「単一の約束、複数の契約」という表現により、イスラエルと神との歴史的な関係を定義した複数の契約を説明しています。興味深いことに、このフレーズは、それぞれ独自の用語と文脈を持つこれらの複数の契約に、共通な単一の約束が含まれていることを示唆しています。最終的に、その約束はメシア・イエスと、彼を通してもたらされる贖いと回復の祝福を指します。

イスラエルの人々と国家にとって、これには「国の存続、土地、王、そして霊的祝福」が含まれます[62]。以下は、アブラハム契約、モーセ契約、ダビデ契約、および新しい契約のそれぞれの簡単な分析と、それぞれに含まれるイスラエルの人々と民族に対する約束が、メシア・イエスにおいてどのように成就したか、または最終的に成就するかを示したものです。

アブラハム契約。イスラエルと神との関係の土台となる契約は、アブラハムとの契約です。ここで、主はアブラハムを召され、家族、部族、そして最終的にメシアを生み出す民族の奇跡的な父祖とされました。創世記 12:1-3 で、神は彼を祝福し、彼の名を大きくし、彼を通じて神の正義と保護を実行し、特別な土地に彼を連れて行くと約束されました。その地は、後に神からアブラハムと彼の子孫に与えられるものでした(創世記 15:18-21、17:8)。おそらく、これらの約束の中で最も重要なものは、アブラハムが他の人に祝福をもたらすということです。神は「あなたによって地上のすべての家族が祝福される」と宣言されました(創世記 12:3) が、それはメシアに基づくものでした。この契約が、世代を超えて永遠に続く性質を持つことは、創世記 15 章と 17 章で明らかにされます。それは、アブラハムに対してなされたのと同じ約束が、息子のイサク(創世記 26:3-5)と孫のヤコブ(創世記 26:3-5)の両方に繰り返されていることから明らかです。(同 28:13-15)。

モーセ契約。モーセ契約に特にメシア的な希望や約束を見出すのは、見たところ困難で、これをメシア的なものとするべきでないと考える人もいます。しかしそれは無理なことではありません。申命記 27～29 章の後半の部分は、古代の近東における宗主国と従属国の間の契約の書式に従っており、イスラエルの土地の所有権を維持するために、イスラエルの人々と国家が従うべき一連の契約条項と、それに伴う祝福と呪いが書かれています。しかし、第 30 章はその規範から少し外れ、祝福と呪いが国家に降りかかった後で、神が一連の約束を導入することが言及されているのです(申命記 30:1)。それらの祝福には、人々が土地に現実的に集まること(申命記 30:3-5)と、国民の心が一斉に割礼を受けて、霊的刷新と回復(申命記 30:2、6-10)が起ることが含まれますが、それはメシアを通してのみ実現可能です。また、モーセの歌の終わり(申命記 32:43)には、イスラエルと諸国民が、一致してイスラエルの神を礼拝することが示唆されています。トーラー自体が、律法の条項が定められる前にアブラハム契約による希望の約束を内包しているのです(ガラテヤ 3)。

ダビデ契約。ダビデ契約が示すメシアの特性は、神と父子関係を持ち、不義のために苦しみ、永遠の王となり、永遠の王座に座り、永遠の王国を支配するというもので、非常に具体的です。(サムエル上 7:12-16; 歴代誌上 17:11-14)。歴代誌上 17 章の箇所は、この約束がイスラエルの人々と国に及ぼす影響に関する追加情報を提供しています。イスラエルは脅威のない安全で永続的な住居を与えられ(歴代上 17:9-10)ます。ダビデはさらに、神の約束と忠実さの結果、イスラエルが諸国の中で祝福を受ける様子をも述べました(歴代誌上 17:21-22、24)。さらに、このダビデ的なメシアは、イスラエルの国家の現実的および霊的な回復に関する後代の預言で、重要な役割を果たすことになります(エゼ 37:24-28)。

新しい契約。新しい契約(エレミヤ 31:31-36)に伴う最も明白な祝福は、十字架につけられ復活したメシア・イエスを通して私たちが経験する個人的な救いです。しかし新しい契約もまた、イスラエルの人々とおよび民族と関係しているため、以上で議論した各契約で言及された事柄を反映する追加要素もあります。それらには、神がユダヤ人を保護されること(エレミヤ 31:35-37)、彼らの罪を赦し、国民の心を変えするという約束(エレミヤ 31:33-34、エゼキエル 36:25-27、ロマ 11:25-27)、そして終末または千年王国において、イスラエルが約束の地に住むという神の約束(エゼキエル 36:24、37:25-26、マタイ 23:37-39、ルカ 13:34-35)があります。新しい契約の約束の成就におけるイスラエルの立場について、パウロは的確に述べています。「神の賜物と召しとは変えられることがない」(ロマ 11:29)。

ユダヤ人として、またイスラエルのメシアとしてのイエス

キリストの心を正しく理解するために、最初に知るべき重要なことは、キリストがユダヤ人として生ま

れ、ユダヤ人として生き、ユダヤ人として死に、三日目に王の王、主の主であるイスラエルのメシアとして復活されたことです。

誕生について。イエスはユダヤ人の処女マリア（またはヘブライ語でミリアム）から生まれました。彼の誕生は「女の子孫が蛇の頭を砕く」という創世記 3 章 15 節の預言の成就であり、その方はダビデの子としてダビデの町で生まれた（ルカ 2:4、11）のです。イザヤ 9 章 6 節には、「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる子供が生まれると書かれています。マタイは彼のことをインマヌエルと呼んでいます、これは「神が私たちとともにおられる」という意味です（イザヤ 7:14、マタイ 1:23）。申命記 18 章 15 節でモーセは人々に、「あなたの神、主は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない」と言っています。ペテロはこのトーラーの約束にもとづいて説教し、この約束された人物こそイエスだと教えています。（使徒 3:1-26）.[63]

私生涯と宣教のはじめについて。イエスの子供時代についてはあまり知られていませんが、12 歳のときに宮でラビと討論し、偉大な知恵と権威をもって語ったことはわかっています。彼がイザヤ書 53 章 2 節のとおり「新芽のように育ち」、民と共に生きたことは確かです。福音書は、イエスの両親が律法に従っていたことを示しています（ルカ 2:21-24）。彼自身の宣教活動において、彼はシナゴグで話し（ルカ 4:16-30）、重い皮膚病の患者を癒したあと、律法に従ってその土地の祭司に治癒を報告するようと言われました（マルコ 1:40-45）。彼は神殿の中で教えました（マタ 26:55）。また、20 世紀にはイエスの活動について多くの学者が研究を行い、彼が「ユダヤ人」であったことを指摘しました。

第二神殿時代は分裂の時代であり、神殿の行事はパリサイ派とサンヘドリン（ユダヤ最高法院）に分かれていました。他のラビに信者がいたのと同様、イエスは弟子を持ったラビと見られていました。イエスは神殿と非常に密接な関係を持ち、神殿について預言し、神殿の中で神殿について教えました。そして、ゼカリヤ 9:9 の成就としてロバに乗ってエルサレムに入城された後、神殿で両替商たちの机をひっくり返して神殿を清められたのです。イエスと神殿との密接な関係は、神殿と祭司職および他の役職に対するイエスの究極の権威を物語っています。神殿は至高の神の住居と考えられていました。イエスは十字架上で「ユダヤ人の王」という罪状書きと共に死にましたが、それは彼がメシアであることを示しました（マタイ 27:37）。また、彼の復活は死に勝つメシアの力の究極の印であると共に、人類の罪の代価でした。神が彼を死からよみがえらせたことは、彼がメシアであることの神からの認定であり、それは彼を神の右に座らせ、神の救いの祝福の仲介者とするものでした。そして、イエスが与える罪の赦しを受け入れる人々には、神の霊が内住するのです（ルカ 23:47、使徒行伝 2:16-38、10:34-48、11:1-18 参照。ここで、ユダヤ人信徒が受けるのと同じ恩恵が異邦人にも与えられる）。

イスラエルとその回復の希望に関するイエスと使徒たちの教えについて。イエスは、「神の訪れの時」を知らなかった民について語っています（ルカ 19:41-44）。しかしイエスは、救いの約束を成就する方であり、民がついにメシアを受入れる希望をも示されました。それは、3つの「～まで」という言葉に示されています。その2つはイエスの言葉で、1つはペテロの言葉です。ルカ 13:34-35 と、その並行箇所であるマタイ 23:37-39 で、イエスは民が裁かれ諸国に離散し彼らの家が荒れ果てることを宣言する時、彼らが『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』と言う「まで」とも言われたのです。

この「荒れ果てた家」はエレミヤの預言（エレミヤ 12:7、22:5）に関係しており、また祝福の言葉は詩篇 122:26 の引用です。イスラエルに対する裁きは、彼らが民として神に応答するまでの、一時的なものでイエスは語られたのです。それはイスラエル民族に希望を与える言葉でした。ルカ 21:20-24 は「異邦人の時が満ちるまで」エルサレムが国々に侵略される様子を描いています。これは、聖都に対する異邦人の支配の時がいつか終わり、その後には、ユダヤ人が戻って来て聖書のイスラエルに関する預言が成就する時代が来ることを示唆しています。

一方、ペテロは使徒行伝 3:18-22 の説教で、イエスが「万物の改まる時まで、天にとどまっていなければなりません」と語りました。彼は、その「改まる時」つまり回復の 때가、昔の預言者の書に記されていると指摘しましたが、預言者たちが将来の救い完成を語った時、彼らはいつも、そこにイスラエル民族の役割を描き出しました。イザヤ 2:1-4 および 19:18-25 のような言葉は、神を礼拝するために世界の民族が平和にイスラエルに集う様子を描いています。復活後、イエスが弟子たちと一緒にいた 40 日の間、イエスが彼らに教えたことの中に、イスラエルが神の王国で役割を果たすことを否定する言葉はありませんでした。それは、使徒行伝 1:6 の彼らの質問（とイエスの答え）にも示されています。

これらの御言葉は、イエスが神の計画の中心にいる、約束の成就者であり、イスラエルの人々と民全体にいつも希望と約束を教えていたことを示しています。約束の成就に関するどんな主張も、イエスによる救い抜きには成り立たず、彼の言葉を見捨てることはできません。だからパウロがいつもシナゴグから伝道活動を始めたのは偶然ではありません。彼がそうしているという事実は、救いに関して「二契約神学」的なアプローチが、ありえないことを示しています。以上のことは、ユダヤ人伝道の必要性を示す重要な神学的論拠です。

ユダヤ人に対するパウロの希望（ローマ 9-11）について。この箇所の前、ローマ 1-8 章で、使徒パウロは創造の神学から始めて、生、死、救い、弟子となること、そしてキリストにある新しい命に関する包括的な教義の基礎を述べています。そして第 9 章から第 11 章では、神の贖いの計画におけるユダヤ人の役割、つまり、ユダヤ人にはまだ役割があり、創世記で彼らと結ばれた永遠の契約のゆえに神は彼らをお見捨てにならないことが、具体的に述べられています。これらの章は、福音に関する当時の出来事の文脈の中で組み立てられており、「神の訪れの時を知らなかった」（ルカ 19:41-44）、つまり民族としてメシアを認めず受け入れなかったユダヤ人について論じられています。パウロは自分の苦悩（第 9 章）、伝道に向けた祈りの励まし（第 10 章）、神の主権的な計画に対する永遠の希望（第 11 章）について語っています。これらの章は、ユダヤ人に対する神の御心を理解する上で極めて重要であり、使徒パウロはそれを熱く語っているのです。

ローマ人への手紙 9 章は、パウロが自分の民イスラエルに関する苦悩と悲しみを語る言葉から始まります。「私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています。私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです。彼らはイスラエル人です。」（ローマ 9:1-4）。パウロは、自分の民が救われるのであれば、自分自身の救いを喜んで犠牲にするほど、ユダヤ人の救いを切望していました。自分の民が永遠に破滅するという思いが、彼に大きな感情的、精神的、霊的な苦悩をもたらしたのです。イエスの初降臨のとき、ユダヤ民族は全体として、イエスを彼らのメシアと認めませんでした。

この章は、一般的に選びと予定説の観点から論じられることが多いのですが、それを書いたパウロの悲しみを理解することは重要です。イスラエルの民は選ばれ、神のトローラーの啓示（ローマ 9:4-5）を受けたのに、イエスによる救済をもたらす信仰に、（パウロの時代においては）至ることができなかったのです。だから、もしも許されるなら、パウロは自分の兄弟姉妹の救いのために、実際に自分の救いを失うことさえ望んだのでした。しかし、この苦悩の中でも、パウロは神の正義と憐れみの中に希望を持っていることがわかります。それは、「イスラエルの子孫がすべてイスラエルであるわけではない」ためです。これは、子孫が血統ではなく、信仰によって決まることを意味するからです（ローマ 9:8-9）。この章の残りの部分を通して、パウロは選びについて、また神の主権による憐れみと正義について説明し続けています（ローマ 9:21-22）。その段落は、イスラエルの現在の状態に関する修辭的疑問文で終わります。パウロの悩みは、異邦人がどうしてキリストに加えられるかという問題ではなく、イスラエルの人々の中の不信仰から来ているのです。

パウロは、彼の「心の望み」と「神に願い求めること」はイスラエルの救いだと繰り返し述べます（ロー

マ 10:1)。そして、ユダヤ人が「神に対して熱心」だが、「その熱心は知識に基づくものではない」(2 節)と説明します。これは、ダマスコ途上でイエスに出会う前の彼自身の神への熱意と似ています。ローマ人への手紙 10 章は「信仰のみによる義」、つまりユダヤ人も異邦人も同様に、救いの福音を聞き、心で信じて受け入れる必要性について、最も明確に語る箇所でしょう(ローマ 10:9)。しかし、福音を聞くためには、宣教によって御言葉が伝えられなければなりません。パウロの言葉は、ユダヤ教とモーセ契約だけでユダヤ人は救われるという主張(二契約神学)に対する反証です。この主張は、第二バチカン公会議の後で一般化しましたが、それはホロコーストで煽られた人種的な反ユダヤ主義に結びついたキリスト教の反ユダヤ教的な傾向を沈静化するための主張でした。ホロコーストの惨劇の再発を防ぐため、ユダヤ人たちに「強制改宗」の恐れを感じさせないため、という理屈から、ユダヤ人伝道の意義を軽視するこの主張は神学的に支持されました。この動機は理解可能ですが、仮にそれが善意から来ていたとしても、この主張は神学的に健全なものにはなりえません。ユダヤ人が御父に義と認められ、救いと永遠の命を受ける唯一の方法は、メシアであるイエスを通してなのです。実際、メシアとして来られたイエスは、特に最初にユダヤ人を対象に活動されたのでした(ローマ 1:1-17)。

ローマ人への手紙 11 章は、この苦悩、祈りによる希望、そして宣教の勧めを締めくくる最高傑作の説教で締めくくられています。11 章の冒頭の言葉は希望を表現しています。「すると、神はご自分の民を退けてしまわれたのですか。絶対にそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫に属し、ベニヤミン族の出身です。神は、あらかじめ知っておられたご自分の民を退けてしまわれたのではありません。」(ローマ 11:1-2)。パウロは、神がユダヤ人全体を拒絶しなかったことの証拠として、彼自身の証を示しました。神はエリヤの時代に「バアルにひざをかがめなかった七千人」を自分のために用意されたのと同じように、ユダヤ人の「残された者」を救い続けておられた(ローマ 11:4、列王記上 19:18)のです。パウロは、この「残された者」であるユダヤ人信徒が「神の恵みの選び」によることを論証します(ローマ 11:5)。当時のレムナントは、パウロにとって物語の終わりではありません。ローマ人への手紙第 11 章 15 節でパウロはこう続けています。「もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう」。

ここで読者が理解すべき鍵は、パウロが台木の元の枝が、再び接がれる期待を語っているということです。パウロは明らかに、未来のある時点で大多数のユダヤ人がついにイエスを受け入れる可能性に関心を持っているのです[64]。これにより、イスラエルは「みな」救われます。この箇所の「イスラエルはみな」をどう解釈したとしても、ユダヤ民族はそれに含まれます。枝の比喻は、パウロがユダヤ人の大多数が信仰を新たにされる時を予見しています。使徒パウロは、その時点で存在したよりもさらに多くの忠実なイスラエルの「残された者」が起こされる、希望に満ちた姿を描いています。彼らは、神の永遠の約束と契約に従って、再臨の時に信仰を持つのです(ローマ 11:28-29)。パウロはまたローマ人への手紙 11 章で、異邦人の信者に対して高慢になることを戒め、ユダヤ人の「一部がかたくなになった」のは、「異邦人の完成のなる時」までのことだと理解するよう勧めます。再臨までの間、ユダヤ人が福音を聞いてそれを受け入れることは、必ずしも一般的ではないかもしれませんが。だから、忍耐、愛、不屈の精神を持ち、苦悩をもちとわず宣教を続ける必要があるのです。

「イスラエルはみな」を霊的にユダヤ人と異邦人の両方の信徒を指すと解釈する人もいますが、パウロはこの部分全体でユダヤ人と異邦人を別々の民族グループとして区別して論じているため、文脈がそのような解釈を許していないと私たちは信じています。さらに、すでに述べたように、イエス自身も同様に、「異邦人の時が満ちるまで」エルサレムが踏みにじられることについて語り(ルカ 21:24)、彼の帰還をユダヤ人の民族的悔い改めと結び付けました(ルカ 13:35)。同様に、預言者ゼカリヤは、イエスの再臨に関連したユダヤ人の将来の救いについて次のように書いています。「その日、わたしは、エルサレムに攻めて来るすべての国々を捜して滅ぼそう。わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く」(ゼカリヤ 12:9-10)。突き刺された者も、再び来て民を裁かれるのもイエスです(マタ 24:29-31、マルコ 13:24-27、ルカ 21:25-

28、使徒 3:18-22)。パウロは大きな希望を持ってイスラエルが民族的に救われる日を待ち望み、その希望に動かされて、ユダヤ人に福音を宣べ伝え、他の信徒にも同じことをするように勧めたのです。

これらの章は全体として、ユダヤ人に対する希望を決して失わず、心を柔軟に保つよう勧めています。ユダヤ人伝道は簡単な仕事ではありません。私たちは「残された人々」に説教しているのですが、彼らの心は、他の多くの人と同様にメッセージに対して「かたくなに」なっているのです、多くの困難があり、落胆もあるでしょう。それでも、使徒パウロが教えるように、あきらめてはなりません。救いの希望が無いユダヤ人は一人もいません。これらの章でパウロが使う「イスラエル」に、メシア・イエスをまだ知らない私たちのユダヤ人の家族や友人たちの名前や顔を思い浮かべると、その言葉が生きてきます。パウロが私たちに求めているのは、私たちが情熱に満ちて祈り、福音を分かち合う勇気を持つことです。御父への道はただ一つであり、天の下には他の道も名前もありません(使徒 4:12)。これらの章を完全に理解すれば、私たちが前進し、まずユダヤ人に、そしてギリシャ人にも「良い知らせ」を伝え続ける力が与えられます(ローマ 1:16)。

イスラエルは、神の永遠の恵みを示しています。イスラエルに関するすべてが、神の恵みを思い起こさせます。アブラハムは、神の恵みによって民の父として選ばれました。国家の成立と、民族の形成に対する神の揺るぎない支援が、モーセ五書の物語です。国家の歴史は歴史書に書かれています。神が継続的にイスラエルを支えることと、神の前における民の責任とは、預言書に記されています。最も重要な、神の恵みによる支えという主題はホセア書にあります。神の民イスラエルが不信仰を繰り返す中でも、神はいつも忠実なのです。ホセアとゴメル結婚は、神と民の関係の隠喩です。民の不貞に直面しても、神は民に忠実です。ホセア 14 章は、浮気なエフライムにさえも希望を示します。神がイスラエルに希望をお与えになることは、神の忠実の恵みを示し、失われた者を探し求める熱心を示しているのです。ホセアの預言は、私たちが神の恵みに値しない時でも、神が私たち全てに、手を差し伸べて下さること描いています。

3 節) 現在の議論

本節ではまず、各教派がイスラエルに関して議論があった際に出した声明の例を紹介します。次にケーブタウン決意表明(CTC)を取り上げ、グローバルな視点から考えた後、イスラエル民族を取り巻く現在の問題を検討します。世界の多くの地域では、ユダヤ人伝道について直接的に議論がなされていないため、ユダヤ人伝道についてのグローバルな視点が必要です[65]。その視点を示すことが、この文書(LOP67)が作成された理由のひとつでした。

イスラエル国家に関する各教派の福音的見解と、それがユダヤ人伝道に及ぼす影響

南部バプテスト。南部バプテスト連盟(SBC、または単にバプテスト)は、米国でずば抜けて大きいプロテスタント教派です。100 年以上もの間、バプテストはユダヤ人への伝道を支持してきました。イスラエル国家が樹立される前に、バプテスト派はユダヤ人の扱いと、イエス・キリストによる彼らの救いの必要性について懸念を表明しました。これは、ホロコースト前、およびホロコースト中に地方の州大会の声明と決議で、特に顕著に見られます。たとえば 1938 年のノースカロライナ州大会での声明は、次のように述べています。

「現時点での人種的反感の最も明白な表現は、ユダヤ人に対して多くの人が持つ偏見と、現在ドイツ、ポーランド、およびその他の国々でユダヤ人に加えられている恐ろしい迫害に見られます。私たちは、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの福音が人種的憎悪からの十分な救いを提供していることを喜んでいます。この福音が宣べ伝えられ、すべての民族に受け入れられて初めて、人種的憎悪が消え、すべての人種が共に生きることができると信じ、それを待ち望んでいます。」[66]

この声明の時点で、世界のユダヤ人人口の大半はヨーロッパに住んでいました。南部バプテスト連盟のノースカロライナ州大会の声明は、人種差別の最も明らかな形態はユダヤ人迫害だと指摘しました。州大会

はさらに、人種差別のあらゆる原因に対する治療法はキリストの福音であると付け加えました。これは、バプテスト教会の二重の懸念を示しています。彼らは、歴史的にキリストとつながっていたユダヤ人の現実的な安全と同時に、彼らの永遠の安全（救い）についても考えていたのです。

ユダヤ人に対する現実的、また霊的な懸念は、南部バプテスト連盟の一貫した姿勢です。2016 年の南部バプテスト大会の年次総会で、イスラエルとユダヤ人に関する決議が作成されました。彼らは、イスラエルとそこでビジネスを行う企業との取引や投資を排除しようとする BDS と呼ばれるボイコット運動に警戒を表明しました。また、イスラエル国家の生存権を認め、彼らが国を守るための防衛力を持つことも支持しました。決議の最後の複数の個所には、「イスラエルの救い」と「エルサレムの平和」のために祈ることが宣言されています。（ローマ 1:16）.[67]

南部バプテスト連盟は、イスラエル建国以来、一貫してユダヤ人を支持しています。イスラエル国家の生存権、中東の政治的問題に関係なく、ユダヤ人が福音を受け取る必要性も認めました。

アングリカン・コミュニオン（聖公会の国際組織）。聖公会は、英国国教会、聖公会、または場所によっては他の多くの名前でも知られており、数千万人の信徒を持ち、世界中でカトリックと正教会に次いで 3 番目に大きなキリスト教派です[68]。ユダヤ人伝道最初期の、世界的に最も注目すべき宣教組織の一つは、1809 年に英国国教会によって設立されました。それはロンドン・ソサイエティ（London Society for Promoting Christianity Amongst the Jews）として知られる団体です。ユダヤ人にキリストを伝える彼らの活動は 20 世紀の初めまで続き、中東から英国に至る広い地域に広がりました[69]。

しかし、彼らのユダヤ人伝道に対する態度には変化がありました。1990 年代には、以下のような出来事もありました。

1991 年から 2002 年までカンタベリーの大主教を務めたジョージ・キャリー博士は、カンタベリー大主教としては 150 年ぶりに、英国国教会のユダヤ人伝道部門の後援者になることを辞退しました。当時の報道によると、英国国教会の最高位である大司教は、ユダヤ人伝道団体の宣教活動を支持することが、宗教間の関係に害を与えると感じたようです [70]。

彼の後継者であるローワン・ウィリアムズ博士は、イスラエル軍によって使用されているブルドーザーの製造会社への投資を中止するという教会会議の決定を支持しました[71]。それが、イスラエル国家の行動を批判する流れを作りました。このような傾向について、（北米聖公会の）ジュリアン・ドブス主教は「聖公会総会と運営委員会は共に、イスラエルの行為を理想国家の水準で判断し、その敵勢力の行為は全て容認する顕著な傾向を示した」[72]と批判しています。

キャリー大主教に関する批判は事実かもしれませんが、2002 年に彼が行った宣言では、教会が「イスラエル国家の平和と安全への願いを尊重し、イスラエルの存在に対する敵意をやめるべきだ」と述べています。

最近の歴史において、英国国教会は、イスラエルとパレスチナに関する議論の両方に関わり、双方の願いを理解するよう努めつつ、平和への願いを表明してきました。

2019 年に英国国教会から出版された『神の不滅の言葉』という書は、ユダヤ人に福音を届ける決意を示しながらも、ユダヤ人独特の歴史とイスラエル国家との関係にも配慮しており、次のように述べています。

クリスチャンは、イスラエル国家に関する多くの現代の問題に対して異なるアプローチを取るが、次の事柄は認めるべきである。a) ほとんどのユダヤ人がシオニズムをユダヤ人のアイデンティティの重要かつ正当な側面と見なしていること、b) イスラエル国家は国際法の共通原則に従って認められた国境内で、安全に生存する権利を有する。…[74]

また、次のようにも述べられています。

イエス・キリストにある神の救いの愛は全人類に、異邦人にもユダヤ人にも及ぶもので、それをあかしすることは教会の召命である。教会は、キリストにあって私たちに近づいてくださったイスラエルの神とユダヤ民族が特別な関係にあることを感謝とともに思い起こす。ユダヤ民族を脅かし、神との独特な関係に無知であると見られるような態度を取らないよう……注意しつつ行動する特別な責任が我々にはある。[75]。

今日、ロンドン・ソサイエティの活動は、CMJ (Church's Ministry Among Jewish People) という名前で知られており、今も英国国教会聖公会の 10 の主要な宣教分野の一つとなっています。[76]。

教派を超えて：米国における福音派クリスチャンの調査

米国において、福音派は統一された教派ではありませんが、福音主義のクリスチャンは、米国のキリスト教徒全体の中でかなりの数を占めています。福音主義のクリスチャンは多様な教会に所属し、多くの人種から構成されています。たとえば、南部バプテスト教会に通う人もいれば、超教派の教会に通う人もいます。その数は、米国では 9 千万人から 1 億人程度とされます。[77]。

2017 年の Lifeway Research によると、福音派クリスチャンの 73% は、テロリストや外国の敵からイスラエルが自衛することをクリスチャンが支持すべきだとの意見に同意し、ほぼ同数がパレスチナ支配地域のクリスチャンにも関心を持っています。調査対象者の 76% が、クリスチャンは主権国家であるイスラエルに住むユダヤ人の権利を擁護すべきだと考えています。[78]。

この世論調査は「福音派クリスチャン」を対象にしていますが、それは「聖書が人の生き方を定める権威を持つ」、「救いの唯一の道であるイエス・キリストを信じるよう、非キリスト教徒に証言する必要を認める」など福音主義の中心的な信条に同意しているという意味です。

調査の第 2 部では、福音とユダヤ人に対する福音派の態度について質問しました。71% が、ユダヤ人に福音を伝えることが重要であるという考えに「強く同意」しました。[79]

福音派におけるユダヤ人国家への支持と、ユダヤ人の伝道の必要性に対する態度は密接に関連していました。しかし、回答者のうちでユダヤ人の友人を持っていたのは 30% だけでした。

ケープタウン決意表明 (CTC)

2010 年にケープタウンで開催された第 3 回世界宣教会議には、世界中の 198 か国から 4,000 人を超える福音派の指導者が集まり、他に数千人がオンライン参加しました[80]。大筋で言えば、この会議の焦点は、一致、伝道、正義、および聖書の真理の擁護に専念するよう教会に呼びかけることでした[81]。会議の終わりに、福音派教会が協力して取り組む目標として、一連の決意表明が採択されました。この文書は広範なものですが、イスラエルとユダヤ人についても言及しています。

(日本語訳は <https://lausanne.org/ja/content-library-jp/%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%97%E3%82%BF%E3%82%A6%E3%83%B3%E6%B1%BA%E6%84%8F%E8%A1%A8%E6%98%8E>)

決意表明の文書はまず、聖書イスラエルがどのように描かれているかを述べています(CTC I-2-A)。イスラエルは、他宗教との混交と罪に陥り、悔い改めを必要としているという文脈で、今日の教会とも似ています。イスラエルはまた、アブラハムの子孫を通して神が諸国民に救いをもたらすというアブラハム契約に関して言及されます(CTC I-4-A)。ユダヤ人と異邦人の関係も論じられており、両者が違いを持ったま

まで一致する必要性が強調されています(CTC IIB-1-A)。そして文書は、異邦人クリスチャンがメシアニック・ジューたちを愛し、支援する必要性を明記しています。

決意表明の文書は、信仰を持たないユダヤ人と教会との関係も論じています。クリスチャンは、大宣教命令の対象に含まれるユダヤ人への伝道を求められています。そして、ユダヤ人に対する歴史上の残虐行為と、それを助長したユダヤ人に関する誤った神学が非難されています(CTC IIB-2-A)。しかし、文書の同じ部分で、パレスチナ人の苦しみはクリスチャンの不作为のために続いているとも言及されており、クリスチャン・シオニズムとパレスチナ人の苦難の関係を暗示している可能性があります。中東における難題は、イスラエルの安全と治安や民族の権利を尊重すると同時に、地域の他のすべての民族の正義をも尊重する必要性で、両面のバランスを取る必要があります。

ケープタウン決意表明は、神のご計画においてイスラエル民族が特別な地位を今なお持ち続けているかどうかについて、見解を示していません。世界の未来や千年王国についての議論は、イエスが再臨される時、彼が統治を確立し、世界を回復されることを確認するという、必要最低限の内容です(CTC I-4-A)。ですから、LOP67のユダヤ人伝道とその神学的根拠に関する本章の議論は、その欠如を補うものとなっています。

現代の政治状況への、様々な対応

イスラエル国家と、そこに集められた人々に対する見方が、ユダヤ人伝道に対する見方に影響を与えることがよくあります。中東やイスラエルで働いている人は誰でも、この地域について多様な見解があることを知っているでしょう。親アラブ／パレスチナから、親イスラエルまで様々な見解があります。土地、平和、安全、正義、和解、賠償が議論されます。少なくとも6つの異なる立場があります。パレスチナ人にとっての正義、パレスチナ解放の神学、イスラエル・パレスチナの和解(ウブントゥ)の観点、平和運動家や監視団体、クリスチャン・シオニズムなど親イスラエルの政治団体、そしてメシアニック・ジューの立場です[82]。

議論されている問題は、東エルサレムとヨルダン川西岸地区のイスラエル人入植地、パレスチナ人の帰還権と難民の地位、近隣諸国のイスラエル国家承認(国交)、エルサレムの扱い、パレスチナ自治区の人々の生活、ハマスや自爆テロと暴力の脅威、イスラエルの治安問題、そしてこれらの複雑な状況への対応策をめぐるイスラエル社会の分断などです。中東の長い争いの歴史は、この地域の様々な勢力によって非常に異なる視点から見られているため、その見方の違いで諸問題はさらに複雑化します。地域の問題解決が難しいのは、地域内の多様な視点の整理が難しいからなのです。

この多様性の側面はローザンヌ運動内にも存在しますが、そのような中でLCJEが結成されたのは、イスラエルへの宣教に、運動全体の注目を集めるためです。これは、この文書(LOP67)全体が作成されたもう1つの理由であり、そのためケープタウン決意表明の中の様々な観点からの議論を取り上げています。以下の段落は、LCJE内における私たちの決意を要約するものであり、本章の残りの部分は、LCJE内での決意表明を行った理由を説明しています[83]。

「個人レベル、あるいは民族レベルのユダヤ人の救いの希望に動かされて、パウロは福音を人々に伝えた。それと同様、我々は緊急課題としてユダヤ人に福音を伝えるべきだと主張する。それは、神と私たちの関係によりユダヤ人に「妬み」を起こさせることによってである(ローマ 11:11, 14) [84]。今日、ユダヤ人が救われるためには、メシア・イエスを信じなければならないと、パウロは明言した。イエスを信じるためには、福音を聞く必要がある。福音を聞くために、クリスチャンはそれを彼らに宣べ伝える必要がある(ローマ 11:14-17)。ゆえに我々は、ユダヤ人に対する神の将来の計画、神の救いがもたらすべき完全な和解の大きな働きの一環として、ユダヤ人伝道の必要性を主張する。」

4 節) 神の和解のプログラム

イスラエルの救いの重要性：教会と神の民の宣教学的・神学的意義について考えます。

ユダヤ人と呼ばれ、イスラエル民族というアイデンティティを持つ人々、イスラエルの重要性は、ローマ人への手紙 9-11 章以外にも、エペソ人への手紙 2 章 11-22 節に述べられています。その前の 8-9 節では「恵みによる」救いと「信仰による」救いについての中心的な教義が語られ、さらに 10 節では、私たちがキリストにある神の作品であり「良い行い」をするように創造されたと説かれます。次に、11-12 節では異邦人という集団的な視点が語られます。13 節によれば、異邦人はそれまで祝福の対象外であり、「イスラエルの国籍がなく」「以前は遠く離れていた」のです。しかし今は、キリスト・イエスにあって新しいことが起こりました。遠く離れていた人々（異邦人）と「近くにいた」人々（ユダヤ人）は、敵意という障壁が取り除かれて 1 つのグループ、一人の新しい人になったのです（14-18）。集団的レベルでの救済の核心は、以前は疎遠だった 2 つのグループ間の和解です。その結果、両者はキリストの働きを通して、一つの聖霊により御父に近づくことができるのです（17-18）。

この和解の働きは、私たちが救いの結果として歩むべく準備された最初の具体的な「良い行い」です。その結果として実現する平和は、個人と神の間だけでなく、グループと神の間、つまり諸民族とイスラエル、異邦人とユダヤ人との間にも及びます。一人の新しい人は、神が新たな集団的実体として創造されつつあるもので、それは被造物全体の中で疎外から平和への動きを示すものであり、異邦人とユダヤ人がその典型的な例となっているのです。イスラエルがいなければ、この歴史的で完全な和解の神学的な意義の一部が失われてしまいます。福音を受入れるすべての人は、神の豊かな祝福にあずかる者となるのであり、その和解の姿は、神がそこに働いておられることを世界に示す証となるのです。これは、ユダヤ人伝道が重要であって、神学的な根とも言える神の計画の一部であり、世界における神の働きの証であることを意味します（エペソ 3:7-10）。異邦人は今やキリストにある祝福の新たな受取人となっていますが、一人の新しい人は「近くにいた」人々がいなければ不完全なのです（ルカ 2:30-32）。それは、すべての被造物を回復される神の忠実性の現れであり、それゆえに、イスラエルを含む全民族に対する宣教は不可欠です。

5 節) イスラエル国家の土地と将来に関する疑問

神の計画における土地とイスラエルの役割が、最近クリスチャンの間で重要な論争となっているのはなぜでしょうか。この論争には、3 つの議論が関わっています。第一は、契約の意味に関する議論、第二は神の約束に対する忠実性に関する議論、第三は聖書本文の解釈に関する議論です。それらは、将来におけるイスラエル国家の役割と、それがユダヤ人伝道に及ぼす潜在的な影響をどう見るかという問題の枠組みを理解するのに役立ちます。この項で取り上げた問題はクリスチャンの間で議論されていますが、その議論は伝道に対する議論に終末論的な軸を加えます。イスラエル民族と国家を擁護する議論は必要であり評価すべきものですが、それは救いに伴う回復の範囲を理解すること、ひいてはユダヤ人伝道の重要性をどう理解するかにも影響を与えるものです。

第一の議論は神の約束または契約の性質です。契約は、この議論において重要な要素です。まさにその概念自体が、2 つの当事者が契約条件を規定する「パートナーシップ」を形成する合意について語っています。結婚式の誓いを例にすると、両者の合意関係を説明するのに役立つかもしれません。

花婿だけが誓いを立て、花嫁に何の条件も課さない場合、それは無条件の誓約となります。確かに、どちらかのパートナーが不誠実である場合、婚姻関係の利点は損なわれてしまいます。忠実な愛が失われると、結婚の喜びと祝福も失われてしまいます。しかし、パートナーの一方は、交わした誓約に忠実であり続け、相手の選択に関係なく忠実であり続けるとしましょう。これはアブラハム契約を表しています。パウロは、ガラテヤ 3:17 で 2 つの契約を区別しています。1 つは約束の契約であり、もう 1 つは律法に

関係した規定としての契約です。

神がアブラハムと契約を結ばれたとき、それは一方的なものであり（創世記 15 章）、神の示した契約条件は無条件でした。それは彼の愛によって始められたものであり、イスラエルの属性や彼女の従順にさえも依存しないものでした（申命記 7:7-8）。神はイスラエル側の愛ある従順を期待されました。イスラエルが不誠実であること、公然と反抗的であること、さらに他の神々を愛することによって、神の愛に応答する愛を持たなかったときも、契約は依然として損なわれませんでした。あらゆる場面で、イスラエルの民は不誠実であることが証明されました。これは、民族のために自ら犠牲を払うことにより、彼らの罪の贖いをされたメシアを拒絶した時に、最高潮に達しました。結局のところ、この計画は罪を取り除き、赦しを与えるためのものでした。そして、契約によるイスラエルの召しは残ったのです。その、取り消されない召しは、ローマ人への手紙 11 章 29 節に明記されており、パウロが書いた時代から現在に至るまで続いていることは明白です。

この個所に「シオン」という、イスラエル内にある特定の現実的な場所が言及されていることは、特筆すべきことです。また、この旧約聖書の約束には、約束の地への帰還の目的、ヤコブから不敬虔を取り除き、罪を取り除くことが明記されています。この契約は、全イスラエルに対する神の契約と呼ばれています。そしてパウロは主張します。イエシュアを拒否する当時や現在のユダヤ人は、イエシュアを受け入れたユダヤ人とは全く違うものとして対比されますが、神の長期的な「選び」という観点から見れば、どちらも最愛の「選びの民」なのです。それはすべて、神が明示的に彼らと交わした古代の無条件の契約の約束があるからなのです。

第二の議論は、神のユダヤ人への約束に対する忠実性についてです。神は御言葉を守られます。約束することと、それを守ることは別です。神がもし契約した約束の一部でも果たさなかったなら、神が将来他の人に与えた神の言葉に忠実であると信じる理由はありません。この観点は、元の契約の約束に含まれる国家と土地の神学的議論には不可欠です。イスラエルに対するこれらの約束が守られないのなら、信じる者に永遠の命を与えるという、現代の信徒に対する神の約束もまた、守られない可能性があるのです。

約束と契約は同じではありません。合意文が契約の実体ですが、それには一方的または条件付きで履行される約束が含まれています。アブラハムとの契約は、服従に対して祝福を与えるものですが、民が不従順でも土地を含む約束を神が取り消されることはありません（一方的な約束）。一方、モーセとの契約では、民が祝福を受け、呪いを避けるためには、従順である必要があります（条件付き約束）。一部の人々は、アブラハム契約はすべてイエスにおいて成就したと示唆し、契約は役目を終えたと考えます。その通りではありますが、イエスにおける成就と教会への祝福によって、イスラエルの希望が無くなったわけではありません。パウロは、メシア・イエスを信じるすべての人はアブラハムの霊的な子供であると言いました。ゆえに、アブラハムの子孫と全信徒の両方が、信仰によって義と認められるのです（創世記 12 : 3、ガラテヤ 3 : 6-7）。そしてパウロは「契約と約束」を結びつけ、救いが「神は御言葉を全て実行される」という確信に基づいていると指摘します。アブラハムにとっての契約は、単に彼がすべての民族に祝福をもたらすということだけでなく、神が彼を通して作られる新たな民族が、境界を持つ特定の土地を受け継ぐことも含んでいました（創世記 12:1、7；13:15；15 :18；17:8）。しかし、その境界線は、ユダヤ人の歴史において一度も実現されたことはありません。

その約束は繰り返されているのでしょうか。旧約聖書を通じ、土地の約束は何度も繰り返され、アブラハム以外の人にも語られています。神はイサクとヤコブに同じ約束をされました（創世記 28:38；35:12）。歴代誌上下の著者は、その約束がイスラエルに対する永遠の契約であったと、繰り返し述べています（歴代誌上 16:16-18、歴代誌下 20:6-7）。

ここで重要な注意事項があります。現代のイスラエル国家を、その存在が生み出した熱気の中で見ると、議論の中でユダヤ人だけを支持して、イスラエルの非ユダヤ人住民を過小評価したり、議論から除外した

りする誘惑に駆られます。しかし、すべてのクリスチャンは、アブラハムに約束された土地の現在の住民が、ユダヤ人、パレスチナ人、アラブ人、その他の民族グループで構成されていることに注意する必要があります。イスラエルの将来について私たちがどのような見解を持っているかにかかわらず、すべてのクリスチャンは、その土地の現在の住民を尊重し、愛と正義を広め、福音を分かち合うよう努めなければなりません。すべての人は神のかたちに造られたものであり、それゆえすべての人が神にとって貴重なのです。メシアの愛は、民族的背景や人種的背景を超えたものです。十字架につけられ復活されたキリストは、すべての人のために来られたのです。

それでも、ユダヤ人が今、不信仰の状態で帰還し（エゼキエル 36 章）、国家が再生していることは、メシアの帰還と神の救いの計画の完成に向けた熱い期待感を高めています。もし、これらの出来事が終末の予兆であるなら、伝道は緊急の課題です。神が最初に御言葉を受けた人々に、その御言葉を守られることの重要性は、いくら強調してもしすぎることはありません。福音が真実かどうかは、まさに神が約束を守られるかどうかにかかっているからです。

ありがたいことに、神の忠実な信徒は、信徒の完全な服従に依存しているわけではありません。イスラエルが反逆し、神に罪を犯したように、今日の信徒もまた神に背を向けています。それでもイスラエルは最終的にその土地を所有して住むのであり、メシアを信じる人々も最終的に平和に住み、神や他の人々と和解します。もし、神がイスラエル民族に対する約束を忠実に守られないなら、信徒に対する約束を守られる保証はありません。これは、ローマ 8 章から 9-11 章へとつながるパウロの論調の核心部分です。彼は、神が約束を守られることを論証し、集团的・民族的レベルで神のご計画を説いているのです。

第三は、聖書本文の解釈に関する議論です。考慮すべき聖書箇所があります。イスラエル民族の将来的な役割についての議論で、土地の重要性を軽視する人々は、契約の特性、特にアブラハム契約の一方的な性質を誤って適用し、神の救いの範囲を矮小化する危険を冒しています。

ローマ人への手紙 4:13 のパウロの言葉をもとに、アブラハムが神の約束により相続するのは、イスラエルだけでなく全世界だと強調する人々がいます。イスラエルの境界をはるかに越え、全世界に福音が広められたことで、土地の約束は過去のものになった、というわけです。だから将来のイスラエルに関して、領土を強調してはいけません。イスラエルの将来の領土だけを焦点とする解釈は、すべての民族に対する福音の証しを阻害する可能性がある、彼らは主張します。

また、イエスはイスラエルに土地を与える約束に言及していないとの主張も時々、耳にします。しかし、イスラエルに対する彼の霊的使命は、イスラエル国家の政治体制とは何の関係もありません。王国を確立し、政治的支配権を握るよう求められても、イエスは拒否しました（ヨハネ 6:15）。彼はピラトに、自分の王国はこの世のものではないと言いました（ヨハネ 18:36）。復活後、イスラエルに王国を復興する時期について使徒たちから質問された時、時や場合は父が『定めている』とイエスは言いました。まだその時ではなかったのです。キリストの地上での宣教に関して、創世記 15 章の明確に定義された境界を持つイスラエルの土地を強調することに対しては、多くの反対論が可能です。それらは、多くの忠実なクリスチャンが持つ見解で、置換神学、あるいは成就論（キリストが約束を成就されたとする見解）などと呼ばれています。しかし、それらを論拠にして、民族あるいは国家としてのイスラエルの希望は無くなったとする見解について、私たちは疑問を持っています。

真のぶどうの木であるイエスと、ぶどう畑であるイスラエルが対照的に描かれるのは、ある特別な時代についてであることに注意する必要があります。イエスである神殿は高められ、ヘロデの神殿以上のものとなりました。メシアの体は、今日における神の住まいです。イエシュアはレビ族の人間的な祭司ではない、真の大祭司です。そして、人種的なユダヤ人だけでなく、すべての人が神を深く知ることができるようになりました。これらのことはすべて確かに真実ですが、それによって、将来の土地の約束は無くなってしまわないのでしょうか。これら 2 つの命題は、二者択一なのか、それとも両立するのでしょうか。新約聖

書の言葉は、これらの預言者たちが言ったことは計画の一部に過ぎないと(使徒 3:18-22)述べており、約束の成就者であり執行者であるイエスも、民族の希望を示しておられる(ルカ 13:34-35)のですから、私たちはそれを考慮に入れるべきではないでしょうか。また、これらの書の著者たちが示した美しいたとえ話が、それぞれに全体の一部であることを喜ぶべきではないでしょうか。

さらに重要なのは、約束の成就者イエスが使徒たちに次のように宣言された言葉です。「世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。」(マタイ 19:28 新改訳)。イエスの言葉を普通に読むなら、ここで語られているのは識別可能な人々と十二部族から構成される民族のことです。王の支配は、彼(および使徒)がその権威を行使する世界の国々を含む支配地域を想定しています。聖書の言葉は、ユダヤ人とイスラエルという国の未来を強調しているのです。

結論：宣教の召しは続いている

イスラエルに関する聖書の議論は複雑ですが、大宣教命令がすべての国のすべての民族を対象にしていることは明かです。ですから、ユダヤ人伝道は教会の召しの一部です。ユダヤ人がキリスト教の信仰と歴史的、神学的に深く結びついている特別な民族であるにもかかわらず、教会に起こってくる多くの問題の影響で、ユダヤ人伝道が置き去りにされることを、LCJEは懸念しています。イエスはメシアとしてイスラエルに来られましたが、それは彼の民に福音を伝えるためでもありました。それは、ユダヤ人たちがいくら福音を拒否する姿勢を取ったとしても、変わることはないのです。

神は常にイスラエルの中に「残りの者」を起こしておられました。だいたい、全ての民族は最初は神に逆らっていたのに、神は手を差し伸べてくださったのです。メシアへの信仰の神学的根拠を理解すれば、教会の召命の、この側面に対する熱意が失われることはありません。教会の召命についての神学的根拠と私たちの信仰の歴史的背景を考えれば、私たちはユダヤ人を導くことに関心を持つべきです。彼らの神との和解は、救いと回復の包括的な神の計画の基本になるからです。次の4章では、人々がユダヤ人伝道に対して提起する多くの実際的な反対論を取り上げます。また、最後の5章では、大宣教命令のこの側面を実行するために、現在における宣教の機会と、進行中の宣教戦略を取り上げます。

2023年3月1日 (石井田直二翻訳)

第4章：ユダヤ人伝道の10の問題と対応策

・リチャード・ハーヴェイ博士

[英語本文へのリンク](#)

これまでの章は、ユダヤ人とイエスの福音を分かち合うために、私たちの過去と現在の使命に焦点を当て、いくつかの実用的な事例や神学的な問題に取り組みながら、今日のユダヤ人共同体について紹介しました。しかし、私たちが実際に関わらない限り、このような考察は理論的なものにとどまります。このセクションでは、ユダヤ人伝道にこれから関わろうと考えている人が直面する課題と、その障害をどのように克服できるのかを、個人的な視点と典型的な事例紹介の形で述べています。私たちの経験と、アンケートの回答から、10の問題を取り上げました。各項目に加えたシナリオは、事実と経験に基づいて創作されたもので、ユダヤ人伝道全般における困難に、広く適用できるように作られています。

1. 難しすぎる！

問題：なぜ、わざわざユダヤ人伝道をするのでしょうか？難しすぎるし、優先順位も高くないし、何から始めたらいいのかわかりません。すべての人に福音を届けることはできないし、すでに人間関係がある地域の知人に福音を伝える方が簡単です。ユダヤ人には会ったことがないので、彼らに伝道の召しがあるとは思いません。

応答：多くのクリスチャンは、ユダヤ人と信仰を分かち合うことに限界を感じ、何から始めればいいのかわかりません。無知、訓練不足、過去の経験などが私たちの無関心や興味のなさを作り出しています。この「大いなる使命の欠落」を正すために、私たちは何をすればよいのでしょうか。福音は昔も今も「まずユダヤ人に」（ローマ1:16）です。ユダヤ人と信仰を分かち合うことは、どんな背景を持つ人とも信仰を分かち合う方法を学ぶのに最適な方法です。それは考えるほど複雑なことではありません。必要なのは、神への愛、ユダヤ人（他のすべての人）への愛、そしてこの二つを結びつける願いだけです。また、参加する方法はたくさんあり、教会での研修、個人的な研修、オンライン研修などは簡単に利用できます。ユダヤ人がメシアを見つけたという感動的な話や、ユダヤ人の生活、習慣、イエス観に関する資料も、聖書をはじめ豊富にあるのです[85]。「千里の道も一歩から」、あるいはユダヤの伝統にあるように「何事も始まりは難しい」のです。

シナリオ：マーリーンはアメリカのとある大きなキャンパスで弟子訓練グループを指導していました。キャンパス内にかなりの数のユダヤ人学生がいることに驚いた彼女は、彼らをミーティングに招きました。すると、彼らはユダヤ人学生センターで開かれている金曜日の夜の安息日の食事（シャバット・ミール）に招待しました。マーリーンは不安に思いながら参加しましたが、とても温かく迎えてもらい、楽しい時間を過ごして多くの新しい友人と出会うことができました。普段でも来るように誘われたマーリーンは、そこでユダヤ教の信仰とアイデンティティについて多くのことを学びました。すでにクラスで知っていたサラもそこに来ていたのですが、その時まで彼女がユダヤ人であることを知りませんでした。

後日、マーリーンがサラと会ってコーヒーを飲んでいたら、サラが本物のクリスチャンに会いたいと思い、密かに新約聖書を読んでいたことを知りました。サラはマーリーンに個人的に教えてもらえないかと頼んだので、2人は1年間、一緒にヨハネの福音書を学ぶことになりました。それが終わる頃、サラはマーリーンの地区の教会に通うようになっていました。マーリーンは地元のユダヤ人ミニストリー「メシアの民」のトレーニングコースを受講し、多くの有益な助言を貰いました。そんな時、サラはクリスチャンになりたいとマーリーンに打ち明けました。ユダヤ人学生グループの反応を考慮したマーリーンはメシアの民に助言を求めました。メシアの民は、ユダヤ人ビリーバーに会いたいと願っていたサラに多くの良

いアドバイスと実践的な知恵を与えました。そして、サラが洗礼指導を受けていると、サラのユダヤ人の友人とご両親が礼拝に参加されました。牧師は彼らに特別に配慮し、彼らは皆、感動してサラの友人の二人も今、マーリーンと会って聖書の学びをしています。

2. ユダヤ人の友達がいません

問題: 私の住んでいるところにはユダヤ人がいないし、聞いたところによると、ユダヤ人は閉鎖的で私が歓迎されるとは思えません。私は偏見を持っていませんが、ユダヤ人は非ユダヤ人を見下しているのではないのでしょうか？

応答: もし私たちがイエスを愛しているなら、イエスは私たちの誰もが持つことのできる最高のユダヤ人の友達です！ですから、私たちには少なくとも一人のユダヤ人の友達がいて、しかもイエスは私たちが彼をみんなに紹介することを望んでいるのです。使徒パウロは、自分の同胞であるユダヤ人がメシアを知ることが心から願い、絶え間ない苦悩を語っています（ローマ 10：1）。もし私たちがパウロの憐れみと信仰をすべての人に伝えたいという願いを共有するなら、彼の心の悩みが私たちをユダヤ人のための祈りに向かわせ、可能なら福音を伝えるための動機付けとなることでしょう。

そのような思いを持てば、ユダヤ人伝道について情報を得るようになり、ユダヤ人伝道に直接的に関わる人たちと知り合う人もいるはずです。ユダヤ人伝道に関する祈りのネットワークは多くあり、助けになります。そこでは様々な資料の提供、ユダヤ人やその文化に関する情報提供、そしてユダヤ人と直接関わる機会も提供しています。また、イスラエルへの旅行は、イエスが生きた場所を見て、現地で今、必要とされるものを知る機会となり、人生を変える体験となるでしょう。

ユダヤ人と信仰を分かち合うことは、他の人々と信仰を分かち合うのと同じです。それは、神の物語、私たちの物語、そして隣人の物語という 3 つの物語をひとつにすることです。私たちは神の物語をどのように伝えるのかを学ぶ必要があります。それは、神の創造、アダムとエバの罪、メシアの到来を準備するためのアブラハムとイスラエルの召命、そして神の民に新たに接ぎ木された教会としての私たち自身の物語を示すことです。私たちの友であるユダヤ人たちは「神の民としてイエスの弟子となる」という召しによって、神の物語の中で特別な役割があることを知る必要があるのです。私たちの物語を分かち合うことによって、私たちは神の物語と隣人の物語を一つに結びつけるのです。

シナリオ: スティーブは、グラフィックデザインを勉強している内気な若者でした。アイダホ州の田舎に住んでいた彼は、まだ一度もユダヤ人に会ったことがありませんでした。彼はいつも夏休みを使って伝道旅行に行っていましたが、ずっとイスラエルに行ってみたいと思っていたので、テルアビブにあるクリスチャンのグラフィックデザイン会社で 3 ヶ月のインターンシップに参加することにしました。スティーブが飛行機の座席につくと、正統派ユダヤ人のヤコブが隣に座り、なぜ自分がイエスを信じないのか、という理由を話してくれました。そして、長いフライトの後、ヤコブはスティーブを安息日の食事に招待してエルサレムにいる彼の家族に会わせてくれることになりました。

スティーブは彼の伝道チームと一緒に毎日の祈りと聖書の学びのために会い、そこでヤコブと出会ったことを話しました。すると、彼のチームは正統派ユダヤ人の生活や安息日の祝い方、また、彼らがイエスは自分たちのために来たとは信じていないことを説明し、スティーブがヤコブと会うための準備を手伝ってくれました。スティーブの訪問は好印象で、ヤコブはスティーブがイスラエルにいる間に再び家に招待しました。「もしかすると、彼らは私を改宗させようとしているのかもしれない」とスティーブは思いましたが、その後も訪問を続けて学び、尊敬すべきゲストであることを心掛けていました。帰国前の最後の訪問の日、ヤコブの家族が「なぜイエスを信じているのですか？」と尋ねて来たので、スティーブはメシアの預言について、また自分自身と神様との個人的な体験談について話すことができました。会話は朝方まで続き、スティーブが次にイスラエルに来るときは、必ず話の続きをしたいと言いました。彼らは、

こんなに強い印象を与える本物のクリスチャンに出会ったことがなかった、と言ったのです。

3. 答えがわかりません

問題：ユダヤ人の友人と信仰を分かち合おうとしたことがありますが、彼は反論して、イザヤ書 53 章はイエスではなく神の苦難のしもべとしてのイスラエルを指しており、イザヤ書 7 章 14 節の処女降誕の預言はヘブライ語の誤訳だと言ったので、私は答えられませんでした。それに、ユダヤ人は旧約聖書の翻訳や解釈の仕方が違うと聞いているので、イエスがメシア預言をどのように成就したかを示せるほど、私はヘブライ語訳には精通していません。別のユダヤ人の友人からは「イエスは地上に平和をもたらさなかったのに、どうしてメシアになれるのか」とも言われてしまいました。私は護教論が好きなのですが、このような質問にはどう答えたら良いのかわかりません。また、私は無神論者と議論するのも好きなのですが、ユダヤ人の多くはすでに神を信じているようです。そして、私が自分の信念を語る時、友人たちは、私が質問の答えを持っているかどうかだけでなく、私の誠実さや私の信仰が本物であるかどうかを見ていると気づき、気持ちが重くなっています。

応答：クリスチャンが信仰を伝えようとしたことで、ユダヤ人たちは二千年間も偏見や迫害を受けてきたので、一部のユダヤ人が、イエスを信じない多くの論拠を持っていることや「イエスは私たちのために来た方ではない」という前提に立っていることは驚くことではありません。しかし、それらの論拠はユダヤ人がイエスを信じない最大の理由ではありません。多くのユダヤ人は、実践的な方法でイエスの愛を示し、彼らの知的な反論のいくつかに答えることができるイエスの本当の弟子に会ったことがないのです。福音伝道のための友好関係を築き、難しい質問に答える方法を学ぶには時間がかかるのです。

シナリオ：ブラッドは学内の弁証論クラブで新星として活躍していました。彼はソーシャルメディアを使って、学内のあらゆる宗教的な人々や非宗教的な背景を持つ多くの人々と接触しながら自分の信仰を分かち合っていました。ブラッドは融和的というよりは議論好きな性格だったので、彼がユダヤ人学生に「嫌がらせ」をしていると聞いた地元のラビは、ブラッドの牧師であるジョー牧師に連絡を取り、牧師を同席した面会を求めました。そこで、ジョー牧師は地域内の良好な関係を重視して、自分のオフィスに彼らを招きました。

「あなたは自分が引き起こしている不快感をわかっていますか」とラビは話し始めました。「学内のユダヤ人学生は、すでに BDS を提唱する反イスラエル団体の圧力を感じています。そんな時に、あなた方クリスチャンはユダヤ人学生たちにイエスを信じなければ地獄に落ちると言っているのです。そろそろ暴言を慎んで、みんながお互いに仲良くすることを学んだらどうでしょうか？」ブラッドは、そういう言い方をされたことが無かったので、何と言ったら良いのかわかりませんでした。すると、ジョー牧師が彼を助けて言いました。「ラビ、私たちが何か問題を起こしたのなら、申し訳ありません。私たちが不快な思いをさせるのは本意ではありませんし、ご心配いただきありがとうございます。私たちはユダヤ人を愛していて、この困難な時期にイスラエルに寄り添いたいと願っています。しかし、私たちは神を愛し、すべての人と信仰を分かち合いたいのです」。ラビはこれに対し、「ぜひとも出会うすべての人とあなたの信仰を分かち合ってください。しかし、二千年にわたる霊的背景による大虐殺の後、イエスを信じるのが、ユダヤ人にとっていかに不適切であるかを理解する必要があります。あなたは、ヒトラーが始めた仕事を終わらせようとしているのです」。ジョー牧師もブラッドも、ラビの返答に痛みと怒りを覚えました。結局、この会議は上手くいかず、今後のフォローアップミーティングも予定されませんでした。しかし、ブラッドにとって、この出来事は深い学びになりました。彼は自分が遭遇した困難で辛い問題を避けたいという誘惑に駆られましたが、これは自分がイエスの弟子として、また伝道者として成熟するための、主の指示かもしれないと感じました。彼はユダヤの歴史を学び始め、さらにユダヤ教のミニストリーで訓練を積みました。そして現在、彼はキャンパスで福音伝道のための友好関係を築くことを基にしたミニストリーを率っています。この経験により、彼は愛と理解と共感をもって信仰を伝える適任者になったのです。

4. 反ユダヤ主義になりたくない

問題：今日のユダヤ人への伝道は反ユダヤ主義と見なされています。「反ユダヤ主義とは、ユダヤ人に対するある種の認識であり、ユダヤ人に対する憎悪として表れる場合があります。言葉や行為として表現される反ユダヤ主義は、ユダヤ人または非ユダヤ人の個人および団体の資産、ユダヤ人のコミュニティ機関および宗教施設に向けられます[86]」。イエスがパリサイ人を非難した箇所（マタイ 23:1-29）や、ユダヤ人の指導者たちに彼らは「悪魔の子」とであると告げた箇所（ヨハネ 8:39-47）などの新約聖書の箇所が、教会のユダヤ人に対する迫害の原因になったと考える人々もいます。中世には、ユダヤ人が「キリスト殺し」であり、イエスを拒絶したことで罰せられるべきだと考えられていました。

応答：新約聖書は、イスラエルが神に立ち返ることを期待して、契約の義務を守れなかったことを強く非難した旧約聖書の預言者たちと同様に、反ユダヤ人でも反ユダヤ主義的でもありません。イエスがパリサイ人や他のユダヤ人グループと論争した時、強く声を上げたのは、内輪の「家族論争」であり、決して反ユダヤ的な発言ではありませんでした。その後、ヨハネス・クリュソストモスやマルティン・ルターなど、（異邦人の）クリスチャンはユダヤ人に対する恥ずべき扱いを正当化するために、この箇所を利用したため、ユダヤ人への迫害や強制改宗、そして虐殺につながりました。このことは、すべてのクリスチャンが自覚して実践的な愛を示すことによって償うべきものです。そのための最善の方法は、イエスが本当にすべての人々の罪のために死んで、私たちを神と互いに和解させるメシアであるという「良い知らせ」を伝えることなのです。

シナリオ：セレナは大学のヒレルグループからイスラエルに対するボイコット、投資停止、制裁（BDS）に対抗するユダヤ人学生のデモ行進に参加するように誘われました。彼女は社会正義の擁護者であり、双方の意見を聞きたいと思ったのでアラブ人やユダヤ人の友人と一緒にこの問題について議論しました。学内のキリスト教グループのリーダーであるセレナはすべての議論に精通し、最新の情報を得たいと考えていました。また、彼女の出身教会ではイスラエルとユダヤ人を愛し、祈ることをいつも教えられていたことや、国際関係について勉強していたこともあり、自分が直面する疑問について実際に体験をしたかったのです。

セレナはデモ行進に参加してユダヤ人の友人たちに感謝され、地元にあるヒレルの会合でも歓迎されたことに驚きました。そこで、彼女がイエスへの信仰を話すと、彼らは「あなたはそれでいいけど、私たちが説得しようとしなくてください。私たちはクリスチャンやすべての信仰を尊重するように教えられています。——それらはすべて神への平等な道なのです——けれども、私たちにはキリスト教が危険に見えます。それは、ユダヤ人がキリストを殺し、神がユダヤ人を捨てたと教え、ユダヤ人がキリスト教に改宗するとユダヤ人でなくなると教えてきたからです」と言いました。

セレナは今までそんなことを聞いたことがなかったので、時間を掛けて話し合い、何日も勉強しながら、新しいユダヤ人の友達が考えていることを理解し、共感するようになりました。しかし、「反ユダヤ的」な信仰を持っているかどうかについて熟考するには、もう少し時間がかかりました。イエスの教えと生涯を学べば学ぶほど、彼女は福音がユダヤ的なものであり、自分やクリスチャンの友人たちがいかにそのことを強調していないかに気づいたのです。そこで、彼女はイエスの社会的な教えと正義の呼びかけについて新しい方法で考え始めました。彼女がクリスチャンの聖書研究会で教えることが、ユダヤ人に攻撃的で不快な内容ではなく、彼らも同意できるものとなるように、ユダヤ人の友人に協力を依頼しました。何人かは彼女の聖書研究会の話合いに参加し、さらに数人が続けて参加しています。

5. ユダヤ教徒とクリスチャンの関係に有害

問題：ユダヤ人伝道は、ユダヤ人の隣人との良好な関係のためにはあまり良いことではありません。私たちが異なる宗教に関するフォーラムの討論会にユダヤ人クリスチャンを招待しようとしたところ、地元

のシナゴグは参加を拒否しました。彼らはフードバンクやホームレスのためのナイトシェルター、治療センターといった人道的なプロジェクトでは一緒にやってほしいが、信仰については議論したくないというのです。多くのユダヤ人指導者はユダヤ人ビリーバー（メシアニック・ジュー）を理解せず、彼らからシナゴグのメンバーを「守る」ために、私たちが伝道をやめて、社会活動に関してだけ協力するやり方を探すように求めています。

応答：悲しいことに、クリスチャンたちは多くの場合、ユダヤ人の隣人に対する好意、愛、関心を持って信仰を伝えて来ませんでした。しかし、伝道は愛を動機とするのであり、つまり神と隣人への愛に突き動かされるものです。そして、私たちの証の実は他の人々が私たちの中に神を見て、弟子となることです。多くのユダヤ人はイエスに見られるような謙虚さ、誠実さ、率直さを示すクリスチャンの友人を持ったことがありません。私たちは疑惑と不信という負の遺産を抱えながらも、実践的な愛を示し、良き隣人関係を築く必要があります。

シナリオ：ギュンターが住むドイツではユダヤ人とクリスチャンの歴史的な関係は、600万人のユダヤ人が強制収容所で殺害されたホロコーストの時に最低まで冷え込みました。彼の家族はユダヤ人がナチスから身を隠して逃げるのを手伝い、彼もユダヤ人に大きな愛と尊敬の気持ちを持って育ちました。彼の通う教会がイスラエルの町と提携してホロコースト生存者のための老人ホームを建設し、養護しているため、彼は何度かイスラエルを訪れていました。ギュンターは故郷のドルトムントで信仰を伝えることが大好きで、伝道チームでも活躍していますが、イスラエルで出会うユダヤ人には、彼の信仰について話すことが良い事だとは思いませんでした。それは、彼には罪悪感があり、ユダヤ人への愛を説教ではなく、現実的な方法で示したいと思っていたからです。

ギュンターはイスラエルにいる時、定期的にドルトムント出身のホロコースト生存者である年配のヤコブを訪ねて彼の話を聞き、彼の子供やお孫さんたちに会いに行きます。彼はそこで自分の信仰について何を話せば良いのかわからないと思っていますが、自分にとってイエスがどういう存在なのかを話す機会を待ち望んでいます。あなたなら、彼にどのようなアドバイスをしますか？

6. 伝道しないようにと言われている

問題：私たちの教会はイスラエル国家を支持し、財政や政治的な支援で彼らを祝福したいと考えています。私たちは毎日、神の民のために祈っていますが、伝道はしないと約束しました。神が彼らをイスラエルの地に連れ戻し、彼ら全員がイエスを知るようにされると知っているのです、神に委ねればよいのです。

応答：ユダヤ民族への愛や、現代イスラエル国家への支持を重視するあまり、イエスの宣教命令という最重要課題を見過ごしてはなりません。私たちは福音をすべての人に伝え、すべての国の人々を弟子としないわけにはいかないのです。イエスの再臨の預言にユダヤ人がどのように関わるかについては、クリスチャンの中でも見解が異なりますが、福音を宣べ伝えることの必要性については誰もが同意するはずです。「信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。また、聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか」（ローマ 10:14 新改訳 2017）。

使徒パウロは宣教旅行で、まずユダヤ人に彼の信仰を伝えることを優先させましたが、私たちもその例に倣うことができます。ユダヤ人を政治的に支援したいと考えるクリスチャンもいれば、パレスチナを支持するクリスチャンもいます。この長期にわたる暴力的で難解な紛争については様々な見解がありますが、私たちは現代のイスラエルとパレスチナの紛争をどのように考え、どのように解決するかという第二義的な問題ではなく、大宣教命令を優先して、それに焦点を当てる必要があります。

シナリオ：ブラジルに住むフェリシアは「聖霊の地平線」というペンテコステ派の教会に通っています。

この教会はユダヤ人をととても愛していて、イスラエルとの連帯会議を主催し、イスラエル製品が紹介されたり、イスラエルへの投資が奨励されたりしています。彼女はローマカトリックの出身で、彼女の家族は数百年前にキリスト教に改宗してブラジルに定住したユダヤ人でコンベルソと呼ばれる人々の子孫だという噂があります。そこでは、ユダヤ教の習慣に倣って安息日や食物の掟を守り、ユダヤ教に改宗してイスラエルに移住しようと考えている人もいます。フェリシアはイエスを愛し、宣教師になりたいと思っていますが、そのことがユダヤ人に不快感を与えるかもしれないという理由から、教会では彼女が伝道に携わることを望まないのでは困っています。彼女はしたら良いのでしょうか？

7. 効率が良くない、費用が掛かる

問題：一部の教会は、反応のある分野を対象に宣教戦略を決めるので、反応が少ないと予想される分野への資金や人材の投下には消極的です。地球の全人口は 78 億人で、まだクリスチャンでない人は 40 億人もいるというのに、そのうちユダヤ人は 1600 万人で、1%より少ない少なく、そのうちでイエスの弟子は 1%以下の 15 万人だとされます。(ユダヤ人伝道をするよりも) 有効な、教会資源の活用方法があるのではないのでしょうか？

応答：私たちは、すべての民族に福音を伝えるよう召されています。特に、隠された、未宣教の、宣教に抵抗する人々に伝える必要があります。結果(の数字)だけで成果を測るのではなく、大宣教命令への忠実によって判断すべきです。ユダヤ人と福音を分かち合う教会は、すべての民族への宣教においても大きな祝福を受けています。

シナリオ：東南アジアにある 25 万人が集う大教会「諸国宣教祈りの教会」で、JK は宣教のために徹夜の祈りをするグループを率いています。教会の宣教計画は今後の 5 年間で 1,000 人の宣教師を送り出し、20 年間で大宣教命令を完了させるというものでした。JK の祈りのグループの計画は、特定の宣教の取組のために一晩に 1,000 人を集めて祈り、宣教派遣委員会が教会から送り出す候補者を特定するのを助けることです。ある時、教会で主力のメンバーのベティ・リムという若い学生が彼のところに要望を持って来ました。彼女はユダヤ人への宣教師になることを検討して欲しかったのですが、訓練と派遣の予算は中国、アフリカ、南米といった最も反応の良い 6 つの宣教地に限られていました。

JK は祈禱会でユダヤ人への宣教について 7 日間の祈りと断食をするように頼み、その後にベティがこの特別な働きに召されるかどうかを決定することにしました。7 日間が終わったとき、祈禱グループのリーダーの一人がビジョンを見ました。「この畑からは実がなりません。主の時はまだ来ていないので、種まきと刈り入れの時期とタイミングを見極める必要があります。今は、国々が収穫の場であり、イスラエルの人々はまだ福音を受け取る準備ができていないのです」。ベティは神がユダヤ人に福音を伝えるように自分を呼んでいて、ユダヤ人への宣教を課題にするならば教会は祝福されると確信していたので困惑してしまいました。あなたは彼女にどうアドバイスしますか？

8. イエスが帰って来た時に、彼らは皆信じるでしょう

問題：長年の偏見と反ユダヤ主義の結果、ユダヤ人はイエスを受入れなくなり、受け入れた人は背教者や裏切り者として扱われるようになっていきます。多くのユダヤ人は、「イエスはクリスチャンのもので、私たちには私たちの宗教がある」と言うのですから、神が彼らの心を変えて下さるまで待つべきです。ほとんどのユダヤ人は、イエスが再臨されるまでイエスを信じないし、信じたくもないし、たぶん信じないのですから、再臨を待つべきではありませんか？ 結局、ユダヤ人は今まで 2 千年も福音と縁遠かったのですから。

応答：今日、初代教会以来か、それにも増して多くのユダヤ人がイエスの弟子になっています。イエスの弟子となるユダヤ人は常に存在していました。ユダヤ人でありながらキリストを信じることは、特にユ

ダヤ人社会とクリスチャン社会が対立していた時代には、困難なことではありましたが、それでも多くの祝福をもたらしました。ユダヤ人のイエスの弟子たちは、教会とイスラエルとの間の「ミッシング・リンク（失われた環）」なのです。

聖書は、すべての人が膝を屈め、すべての舌がイエスは主であると告白するキリストの再臨の待ち望んでいます（ピリピ 2：10-11）。パウロはそれを「すべてのイスラエル人が救われる」日（ローマ 11:26）と結びつけているので、神がユダヤ人を拒絶していないことを確信することができます（ローマ 11:1）。私たちの使命は、今日、ユダヤ人から始めて「あらゆる民族の人々を弟子とする」ことです。ユダヤ人も他の人々と同じようにイエスを信じる必要があります。なぜなら、それ以外に救いの道はないからです（使徒 4：12）。

シナリオ：ツンデはナイジェリアのイバダンにある大きな教会の若い牧師です。彼はローマ書から説教し、その中でローマ書 9-11 章を扱っていましたが、ローマ 11:26「それで、すべてのイスラエル人は救われます」にたどり着きました。彼は、神がユダヤ人を選び続けておられることの奥義についてじっくりと考えましたが、いくつかの注解書を読んだ後に混乱しました。これは、ユダヤ人がすでに救われているという意味なのだろうか？それとも、「神のイスラエル」はあらゆる国の信じる人々からなるということなのだろうか？なぜパウロはそのことを明確にしなかったのか、なぜ多くのクリスチャンがこの箇所の解釈で意見が分かれたのか？

熱心なランナーだったツンデは、ある日、石油会社から派遣されているイスラエル人のコンピュータープログラマー、アーロンとジョギングで一緒になりました。10 マイルほど走ったところで、彼はアーロンがユダヤ人であることについて質問しました。アーロンは世俗的に育ちましたが、毎年ユダヤ教の新年礼拝とショファー（雄羊の角笛）の音を聴くために、両親に連れられてシナゴグに行っていました。ツンデは今までユダヤ人に会ったことがありませんでしたが、この若いイスラエル人は自分が想像していたユダヤ人のようではないと思いました。旧約聖書の預言者のような服装でもなく、そのような生活をしているようにも見えませんでした。アーロンは学校で新約聖書を読んだことがあり、イエスは良い教師だと思っていました。神であることは信じていませんでした。この会話を続けるために、あなたはツンデにどのようにアドバイスをしますか？

9. 彼らはモーセの律法を守ることによって救われます

問題：ユダヤ人の人々は自分たちの宗教を持っています——それで十分ではないでしょうか？ 彼らの契約は、救いを保証していないのでしょうか？ あるクリスチャンは、ユダヤ人が神様に近づく方法はトーラー（ユダヤ教の律法）を守ることであり、イエスは諸国民のためのものであると教えています。神とイスラエルとの契約はまだ続いており、それが彼らの選択と救いを保証するものです。

応答：神がイスラエルを選んだことは事実ですが、そのことによって救いが保証されるわけではありません。イエスはイスラエルに対する救いの約束と預言を成就するメシアだからです。ある人は、ユダヤ人は律法を守ることによって神に近づく独自の道を持っていると示唆しています。これは「二契約神学」と呼ばれますが、神の律法を守ることによって人が義とされるという誤解に基づいています。それは多元的な救済観、つまり律法の成就であり人となられた神の子キリストの独自性を軽視することにつながります。そして、メシア・イエスを知る必要のあるユダヤ人への伝道に、人々を無関心にしてしまうのです。

クリスチャンは傲慢な態度でそれを主張すべきではありませんが、それでも、謙虚さと愛をもって、この「良き知らせ」をすべての人、特にユダヤ人に伝えなければなりません。イエスは、十字架上の死と復活によって、私たちに罪の赦しと神との平和を与えて下さいました。それは誰もが必要とするもので、イエスだけが与えることができるものです。救いは、イエスが十字架上で私たちのために成し遂げてくださったこと、その復活の力を信じる信仰のみによるからです。イエスは、すべての人のための唯一の救いの道

であり、人となられた神の子です。ユダヤ人であるイエスの弟子たちは、キリストの独自性と、ユダヤ人の受け継いだ豊かな遺産が、イエスへの信仰によって完成されることを示す証人なのです。

シナリオ：ロンは聖書を信じる教会で育ちました。そこでは毎月第 2 日曜日にキリストの再臨についてのメッセージがあり、ウェイン牧師は将来のユダヤ人の回復についての説教をしていましたが、今日のユダヤ人にイエスを伝えることについては決して話しませんでした。ロンはすべての人がイエスを信じる必要があると教えられていましたが、ユダヤ人は特例であって、時が来れば神が取り扱って下さると考えていました。彼はポーランドを訪れ、アウシュビッツの強制収容所を見学した時、ユダヤ人の苦しみに気が付き、深い感動を覚えました。ポーランド出身であった彼は 600 万人のユダヤ人が大量に殺されたホロコーストに自分の家族が関わっていたかもしれないという罪悪感を抱き始め、神様に自分にできることを教えてほしいと願い求めました。

翌日、ロンは大学で一緒にサッカーをプレイしたことでマイクと出会い、彼がポーランド系ユダヤ人であることが分かりました。そして、マイクはロンが最近ポーランドを訪れたことを聞いて興味を持ちました。アウシュビッツ訪問の話になった時、ロンは何と答えていいかわからなかったのですが、マイクは彼を促して「あなたは私の先祖が地獄に落ちると思いますか？あなたの家族が彼らをガス室に連れて行ったのは、イエスを信じなかったからですよね。」と言いました。ロンはどう答えていいかわからず、牧師に話してからまた連絡すると言いました。

翌週、サッカーの練習の後に二人はおしゃべりをしました。「あのね、君たちの仲間にひどいことが行われたのは知っているし、このことを行った人たちが自分たちをクリスチャンと呼んだのは本当に残念だよ」。ロンは恥ずかしそうに、ためらいながら言いました。「でも、僕が愛するイエスは自分の名前で行われたことに決して同意をしなかっただろうし、彼は自分の仲間と共に逮捕され、追放されて、死刑になったと思う」。マイクは本物のクリスチャンとこのような会話をしたことがなかったので、クリスチャンの本当の気持ちを聞いたことがありませんでした。その後、ロンとマイクは良い友情を保ち、たくさんの会話を交わし続けています。物語は今も続いています…。

10. 結論： 答えよりも質問の方が多い？

聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥——孔子の言葉

上記の課題も含めて、クリスチャンは謙遜と忍耐と鍛錬によって、イスラエルのメシアへの信仰をユダヤ人と分かち合う必要性があるのです。私たちはイエスの弟子として、感謝、祈り、希望をもって、ユダヤ人に福音を伝えるための課題を克服したいと思います。伝道とは、神の物語と私たちの物語、そして隣人の物語を一つにする旅であり、それによってお互いが豊かになるのです。疑問が残ったり、乗り越えなければならない課題はありますが、ユダヤ人たちに信仰を伝え始めた人たちは、その信仰と理解、イエスへの愛、同胞への愛において成長することでしょう。「この方はご自分のところに來られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与え下さった」（ヨハネ 1:11-12 新改訳 2017）。

2023 年 3 月 29 日 （田中身子和子 翻訳）

第5章：ユダヤ人伝道における戦略と実践

－スーザン・パールマンとアンナ・ベス・ハヴナー－

[英語本文へのリンク](#)

1～4章では、歴史、ユダヤ人の多様性、神学的基礎、そして反対論について学びました。本章では、これらの知識をもとに、実際にユダヤ人に働きかけを行い、福音を伝える具体的な方法について検討したいと思います。以下は、実際に実を結んでいる現在のユダヤ人伝道の取り組みの紹介です。以下は私たちだけでなく、広くLCJEのネットワークから集めた報告です。あなたがこの分野ですでに宣教に関わっているにしても、また、それ以外のクリスチャンで、この分野での大宣教命令の適用について学ぼうとしているにしても、これらの報告が役立つことを願っております。また、以下の取り組みの全てが、多くのクリスチャンからの祈りと財政的支援、および奉仕を必要としていることを覚えていただければと思います。

古典的な戦略

近年採用されている革新的で時代に合った戦略のいくつかを紹介する前に、ユダヤ人伝道のために今も効果的であることが証明されている従来の文書や手法のいくつかに触れておく必要があります。伝道文書の配布と、ユダヤ人との定期的な一対一の訪問、また聖書の体系的な学びは、ほとんどのユダヤ人伝道団体で今も行われています。聖書のどの本が最も効果的であるかについてのコンセンサスはありませんが、福音書の記述を通してイエシュアの生涯を研究することや、旧約聖書でイスラエルに対する神の計画を学ぶなどの方法が、よく使われます。さらに、宣教センター、家庭、またはオンラインで開催される毎週および毎月の聖書研究も定番の手法です。家庭での聖書研究学に関する最近の潮流は、求道者を金曜夜の安息日の夕食に招き、彼らが安息日を体験しながら、聖書の解き明かしを聞いたり、毎週の聖書の朗読箇所について話したりすることです。安息日は人間関係を深める機会になるため、かなり有望な成果が出ています。

護教論

護教論は、ユダヤ人伝道訓練の中心的なものです。ミカエル・ブラウン、マイケル・ライデルニックらの著作、およびこの報告の最後に掲載した参考文献によって助けられてきました。また、ポッドキャスト、ブログ、ライブ・チャットによるインタラクティブなコミュニケーションなどのオンライン・コンテンツも増え続けています。以下に、特筆すべき優れたアプローチをご紹介します。

優れた護教論者でありチョーズン・ピープル・アンサーズというサイトの運営責任者であるブライアン・クロフォードは以下のように述べています。

チョーズン・ピープル・ミニストリーズの護教論部門であるチョーズン・ピープル・アンサーズというウェブサイト[87]は、イエシュアがメシアであることをユダヤ人に説明し、説得を目指すものです（使徒行伝 17-18）。ユダヤ人はイエシュアへの信仰について特有の疑問や異議を唱えることが多いですが、信仰者は自分たちの持つ希望についてきちんと弁明するようにと、聖書（1ペテロ 3:15）は教えています[88]。私たちは認識論的アプローチ（人が知識を得る方法を研究する学問）を採用し、主流（世俗的）のユダヤ人と、伝統的（宗教的）なユダヤ人に分けて対応を行っています。私たちの活動は主にオンラインに集中しており、専任のデジタル宣教スタッフが自分のコンピューターから手紙を書いたり返信したりしています。ユダヤ人たちは、インターネットを通じて信仰の問題について話し合うことを好んでいることがわかりました。

護教論に力を入れているミニストリーとしては、アリエル・ミニストリーズやジューズ・フォー・ジーザスがあります。

聖書の翻訳

国際ユダヤ人伝道団（International Mission to the Jewish People：元の名前 CWI）の現場責任者であるデイビッド・サドクは、聖書の翻訳を用いた伝道について、以下のように述べています。

聖書には、神の言葉が無駄になることはなく、必ず神の目的を達成するという約束があります（イザヤ 55:10-11）。イスラエルにおけるハゲフェン出版の戦略は、理解できる形にして、手に入りやすくする、という2つの活動を同時に行うことです。何年か前に、私たちは旧約聖書を現代ヘブライ語に翻訳しました。なぜなら、旧約聖書の原文（マソラ本文）を平均的なイスラエル人が読んでも、あまりよく理解できないからです。私たちは翻訳を終えた後、印刷して配布し、近年は無料アプリでデジタル化しています。まもなく、朗読音声でも利用できるようにする予定です。[89]

聖書の配布

Israël en de Bijbel（オランダの宣教団体）の責任者であるクリスチャン・スタイアーは、ユダヤ人に伝道において、新約聖書にふれることの重要性を語ります。

「そして人生で初めて、私は新約聖書を読み始めました…。ほとんどすべてのユダヤ人の証には、このような瞬間があり、それはしばしば個人的な探求の重要な段階となっています。直接会ってじっくり話すことも重要ですが、聖書は依然としてユダヤ人に到達するための最重要の手段です。いつでも、どのような状況でも、神は御言葉を通して直接語られます。私たちの会話が途切れたり失敗したりしても、神の言葉は誰かの心に届くのです。聖書の言葉は神の「伝道者」です。本棚にいて誰かが手に入るのをじっと待っています。神の言葉は常に準備ができており、救いのメッセージをもたらす準備ができています。さらに、タナハ（旧約聖書）や新約聖書の美しい二ヶ国語対訳版は、贈り物としても喜んで受け取ってもらえるのです[90]。

地域に合った戦略

地域に合った戦略を使うのは、多くのディアスポラ・ユダヤ人のコミュニティが現地の文脈の中で関係を持続けているためです。特定の地域に住むユダヤ人のグループに対するアプローチのいくつかの例をご紹介します。

国外にいるイスラエル人

ジューズ・フォー・ジーザスのボリス・スクヴォルツォフ宣教師は、英国のユダヤ人コミュニティでの経験について次のように語っています。

妻と私は、COVID-19が発生する直前にロンドンに引っ越しました。私たちはロンドンでイスラエル人に伝道する新しいチームを立ち上げました。コロナ感染の状況に応じ、私たちは主に祈り、調査し、少しずつイスラエル人に会い、コミュニティを観察して学びました。私たちの今の目標は、私たちに心を開き、私たちの信仰を受け入れてくれる人々と友情を築き、関係を築くことです。私たちはボランティア活動をしたり、食事会を主催したり、スポーツ・グループに参加したり、一緒に音楽を演奏したりしています。こうした活動を通じ、自然に福音に関する会話に入り、深めて行けるのです。私たちは、イスラエルとユダヤ人のコミュニティの一員となり、スピリチュアリティと信仰についてタブーのないオープンな議論ができることを目指しています。

イスラエルのロシア系移民

ジューズ・フォー・ジーザスのイスラエル責任者であるイーライ・バーンバウムは、イスラエルでの彼の働きについて次のように述べています。

私たちは、イスラエルへの移民者が無料の日帰りツアーを通じてヘブライ語とイスラエルの土地について学ぶことができる機会を提供しています。聖書に登場する場所では、福音を分かち合うことができます。一日の締めくくりとして、食事、証し、そして参加者がイエスについて考える機会を設けます。彼らは私たちがイエスを信じていることを知りつつ、ツアーに申し込んで来るのです。

また私たちは、ヘブライ語のレッスンや人間関係を通じて、イスラエルに来たロシア移民に奉仕しています。ヘブライ語の教師がいるか、ヘブライ語教室を開講している地元のコングリゲーションと協力しています。たとえば、2019年11月にイスラエルに移住したマイケルは、COVID-19のためヘブライ語を勉強できなかったため、熱心に私たちのクラスに参加しました。クラスの生徒は安息日礼拝にも招待しています。マイケルは以前は宗教に興味がなかったのですが、今では集会に出席しています。最近の日帰りツアーで、スタッフのヴァレリーは彼に聖書を詳しく教えました。

特別な社会集団

私たちはまた、ユダヤ人共同体の中の特別な集団に対する宣教戦略も持っています。ハレディ（超正統派）ユダヤ人、ホロコースト生存者、そしてホロコースト生存者の子供や孫などです。

ハレディ（超正統派）コミュニティ

ライフ・イン・メサイアという宣教団体の指導者であるレヴィ・ハゼンは、超正統派ユダヤ人との人間関係を通じた伝道に関して、次のように考え方を説明しています。

私がハレディ（超正統派）に宣教する方法について、具体的な詳細を述べることはできませんが、戦略の基本的な構成要素は5段階です。1)彼らについて学ぶ、2)接近（親密な接触）を試みる、3)自分が誰かを明らかにする、4)彼らと話す、5)福音について話せる連絡方法を確保する。

第一に、私たちは部外者であり、部外者であり続けることを確認すべきです。それでも、彼らについてもっと学び、彼らの世界に親しみ、ラビ文献にも少し親しむことは重要です。それは会話に信頼性を与え（彼らは感銘を受けるでしょう）、いつでも福音を伝えるための連絡方法の確保を試みることができます。

場所を見つけ、機会を作るように努めてください（たとえば、誰かに車を乗せるなど）。最初は、定期的にある場所を「歩き回る」必要があるかもしれません。これは人間関係を用いた宣教方法なので、最初から自分が何者であるかを明確にすることが重要だと思います。自分のアイデンティティ（たとえば、キリスト教の聖書の師）を明確化すると、それは質問を促すので、福音を分かち合うきっかけになるでしょう。

*この分野で広範な活動を行ってきた他の宣教団体に、ジューズ・フォー・ジーザスや、チョーズン・ピープル・ミニストリーズなどがあります。

超正統派の女性

ジューズ・フォー・ジーザスの宣教師のローラ・バロンは、超正統派コミュニティの中の特定の層を宣教対象としていますが、彼女のチームのアプローチについて次のように説明しています。

超正統派の女性たちの社会は一般社会から隔絶された世界に生きていますが、私たちのチームは彼女たちの世界を研究し、伝道を試みてきました。私たちの活動は、一貫した戦略的な祈りと、彼女たちの状況を変えるための交流を中心としたものです。私たちの戦略は「愛して奉仕する」ことです。超正統派のコミュニティを脱会した女性と、脱会したいが道が見つからない女性は、異なるニーズを持っています。コミュニティの中にいながら、疑問をかかえていたり、表面的には周囲に合わせる二重生活を送ったりしている人たちがいます。

私がこれを書いている間も、私たちは最近コミュニティを離れた、ある若い女性をサポートする極秘プロジェクトの案を作成しています。私たちは彼女をある信徒とペアにしました。その信徒は、彼女が世俗社会でうまく生き残るための移行期間を通して彼女を指導し、サポートしています。私たちのチームは、教会からの協力、他のユダヤ人伝道団体とのパートナーシップ、カウンセリングの専門的なサポートに支えられています。私たちは、この新しい分野での仕事にもっと多くの人々や必要なものの集め、さらに多くの人々を集める準備をしているところです[91]。

ユダヤ人学生への伝道

ジューズ・フォー・ジーザスのニューヨーク支部責任者は、ユダヤ人学生の伝道の独特の性質について語っています。

ユダヤ人学生に福音を伝えることは、メシアニックまたはキリスト教組織の唯一の目的ではありませんが、ユダヤ人学生に福音を伝えることは、将来の指導者、思想家、専門家、そして最終的には将来の世代に福音を伝えることです。ジューズ・フォー・ジーザスは、ユダヤ人の学生に宣教するために、主要なキャンパスの近くで活動を行っています。ロサンゼルス市の「Upside Down cafe」は、UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）の学生を対象に活動しています。ニューヨーク市の西8番街の施設は、カフェやコミュニティ構築活動を通じてニューヨーク大学の学生への宣教を行っています。

青少年は高等教育を受けている間に多くの新しいアイデアを取り入れます。青少年が信仰的な伝統を捨てるという側面を強調した調査報告は多いですが、それはたいてい信仰的な家庭の出身者を対象にした調査であり、大学在学中に信仰を発見した人は対象にしていないのです。

ビンガムトンにあるニューヨーク州立大学では、キリスト者学生会（Inter Varsity）を通じて、ある若いユダヤ人女性が2018年にイエスを信じるようになり、彼女は弟子となりました。彼女は2019年の夏に、ジューズ・フォー・ジーザスのニューヨーク支部でインターンシップ訓練を受けました。そして彼女は2019年に大学4年生としてビンガムトンに戻り、キリスト者学生会の集会で他のユダヤ人学生たちを対象にした聖書研究を指導する役割を果たしました。

EveryCampus は、大学生に伝道する宣教団体のパートナーシップであり、各キャンパスについて祈りの動きから始め、各大学に福音運動が定着することを目指して活動しています。彼らの発行する資料の中には、ユダヤ人学生のための祈りのガイドも含まれています[92]。

季節的な宣教戦略

いくつかの宣教戦略のアプローチは、季節に関係しています。ほとんどのユダヤ人伝道団体は、現地のメシアニック・Congregationとのパートナーシップを通じて、または独自のサービスを通じて、秋の一連の祭（ロシュ・ハシャナーとヨム・キブールなど）、ハヌカの集会、家庭または大きな施設で行われる過越の食事、ホロコースト追悼日（ヨム・ハショア）のイベント、さらにクリスマス伝道などを行っ

ています。たとえば、エルサレムのクライスト・チャーチでは、クリスマス飾りを見に来るイスラエル人が多くいるため、求道者に福音を伝える良い機会になっています。

ホリデーバスケット（祭の食料配布）

Light of the Messiah Ministries の創設者で代表者であるミュレー・ティレスは、祭の時期の特別な伝道について次のように説明しています。

ロシュ・ハシャナーやその他のユダヤ教の祭の時に、クリスチャンがユダヤ人の友人に贈るための、祭にふさわしい、きれいなギフト・バスケットを 25 年以上にわたって作ってきました。特にユダヤ人の人口が少ない地域では、非ユダヤ人がユダヤ人の友人の祭を認識することには大きな意味があります。クリスチャンが友人に自分でバスケットを手渡すか、あるいは私たちがバスケットを配達してユダヤ人と接触する機会を作ります。この活動により福音宣教の多くの扉が開かれました。クリスチャンがユダヤ人の友人の文化的文脈に合わせて愛を示すことによって、橋が架けられ、心の武装が解除され、霊的な会話をする道が開かれます。この活動は、アルゼンチン、フランス、オーストラリア、および世界中の他の国々でも実施され、成功しています。[93]

二重のアイデンティティ

二重のアイデンティティを持つユダヤ人たちへの伝道においては、特別な戦略を用いる必要があります。たとえば、片親が非ユダヤ人であるユダヤ人、LGBTQ+ のユダヤ人、異邦人のパートナーとすでに結婚しているか、結婚を考えている、または同棲しているユダヤ人などです。

LGBTQ+ のユダヤ人

ジューズ・フォー・ジーザスのドイツ支部長、アロン・レウインは、ベルリンでの彼らの活動について次のように語っています。

ベルリンに来るほとんどのイスラエル人は若く、リベラルで、世俗的で、テルアビブ地域から来ています。ベルリンでは、過去にも LGBTQ+ が多数集まることがありました。そして、過去数年間に私たちが福音を伝えたイスラエル人の多くは、その参加者だったのです。ですから、傷つきやすく、誤解されていると感じ、愛と受容を求めている LGBTQ+ の人々への理解を深めざるを得ませんでした。敬意と愛情を込めて、しかし妥協することなく福音について彼らと対話している私たちの様子を見て、一般のイスラエル人も感銘を受け、それが新たな実を結ぶこともありました。

ユダヤ人と異邦人のカップル

ジューズ・フォー・ジーザスのスタッフ育成・訓練部門の責任者であるトゥヴィヤ・ザレツキーは、ユダヤ人と異邦人のカップルに対する宣教の機会を作り出す戦略について、次のように語っています。

ユダヤ人と異邦人のカップルに福音を伝えるのは、ジューズ・フォー・ジーザスの世界的なユダヤ人伝道の戦略的な取り組みです。全米のユダヤ人人口調査によれば、1990 年以降のユダヤ人の他民族との結婚率は 52% に達しています。社会調査によると、このような結婚をした人の 75% は幻滅や不満を感じています。私たちの戦略は、イエスを通して霊的な調和を見つけるという希望をカップルに与えることです。（ヨハネ 14:6）[94]

私たちは、ソーシャル・メディア（SNS）を通じて関係を作っています。[95] カップルは、異文化間の理解を深めるための助言を受けるだけでなく、メシア・イエスにおいて相互に満足のいく精神的な一体性を求めるよう助言を受けます。神を知ることについての良い会話をするには、安全な関係を築くことが不可欠です（ヨハネ 17:3）。そのような働きを担うカウンセラーに必要なのは、人々の感情に対する感受性、異文化間のコミュニケーション・スキル、および適切な訓練です。[96]

他団体との連携などにも取り組んでいます。世界のいくつかのメシアニック・コングリゲーションは、ユダヤ人と異邦人の夫婦のミニストリーに力を集中させています。Jewish Voice Ministries International (JVMI) は最近、ユダヤ人と異邦人の夫婦に対する伝道に特化したコングリゲーション、Heritage-Los Angeles を立ち上げました。また、Church Ministry Among Jewish People-USA (CMJ/USA) は、北米の英国国教会と協力して、ユダヤ人と異邦人のカップルを教会に歓迎して受け入れるための取り組みを行っています。

デジタル宣教

デジタル宣教ほど近年に大変化を経験した分野は、伝道戦略の他の分野（ユダヤ人伝道以外でも）にはないでしょう。デジタル宣教は、ユダヤ人伝道を前進させるための戦略であり、同時に方法でもあります。コロナ以降、デジタル技術は私たちの想像以上に重要性が増しています。

伝道ポッドキャスト

アロン・レウインは次のように報告しています。

オーディオとビデオの両方で、ポッドキャストの人気は、ここ数年、さまざまな分野で高まっています。数年前から、パラシャ（トーラー／モーセ五書の毎週の朗読箇所）の伝道ポッドキャストを行っていましたが、最近ではクリスチャンがメシアニック運動について学ぶためのビデオのポッドキャストも開始しました。ポッドキャストは、さまざまなプラットフォームから発信可能で、予算に合わせて作成できて、必要に応じて深い内容も作成できます。ポッドキャスト[97]を連絡先に送信するだけで、彼らをより直接的に福音に引き込むことができるのです。

チャット・ミニストリー

ジューズ・フォー・ジーザスのインターネット宣教師であるエマニュエル・メバセルは、インターネットが未信者との接触や会話の安全な手段となることについて、次のように説明します。

ユダヤ人だと明かした上で、私たちの投稿にコメントしたり直接メッセージを送って来たりする人は誰でも、私たちと霊的対話を行っていると考えています。ユダヤ人が怒りのコメントをして、私たちがそれに適切で自身に満ちた対応をすると、相手が態度を和らげる場合、それは非常に有益です。その人だけでなく、公開の場でその対話を読む他の多くの人に効果的に証をすることができるからです。人々は、信仰上の疑問については、自分が知っている人に尋ねたがりません。私たちのウェブサイト[98]では、人工知能によるチャットシステムが最初に求道者に対応し、そこから訓練を受けたユダヤ人ビリーバーのボランティアや常勤スタッフにつながるようにしており、安心できる環境で質問に答え、福音を分かち合っています。これにより、24時間年中無休で、問い合わせへの即時対応が可能になっています。

ボストン出身で既婚の保守的なユダヤ人男性であるマシューは、匿名で質問をすることができました。おしゃべりを楽しんだ後、彼は私たちの宣教師の一人と定期的に会って、イエスについてもっと学ぶようになりました。

Cru（訳注：CCC、キャンパス・クルーセードが米国で使用する名称。クルーセードは十字軍という意味があり、ユダヤ人迫害の歴史を思わせるため改称した。）[99]や、Global Media Outreach[100] も、ボランティアの広範なネットワークを持ち、チャットを通じて大量の伝道ミニストリーを行っています。

ソーシャル・メディア（SNS）の使用

ジューズ・フォー・ジーザスのコミュニケーション部門責任者であるアリエル・ランデルは、SNSを通じて福音に関心を持つ可能性がある人々となつながら、伝道にどのように役立つかを説明します。

SNSは、街頭での奉仕活動や伝道イベントと同様に、霊的な会話を行うための有効な方法です。オンラインでも対面でも、私たちの使命は変わりません。それは、ユダヤ人がいる場所で福音を伝え、他のクリスチャンにも同じことをするよう促すことです。未信者と交流するためのSNSプラットフォームとして、私たちはFacebook と Instagram を主に用いています。

SNSは、誰もが安心して集い、オープンな議論を行い、私たちや他の人々と交流できる特化されたオンラインのコミュニティを提供します。SNSは、記事、メディア、投稿、広告、イベントの形で、またフォローアップを通じて、福音が正しく伝えられる機会を提供しています。SNSを使用して、他の組織、コミュニティ、インフルエンサーとの関係を構築することもできます。

デジタルコンテンツ

ユダヤ人伝道のためのデジタル・コンテンツを作成した先駆的な団体は、**One for Israel Ministries** です[101]。最先端の技術と訓練を受けたイスラエルのビリーバーのチームの助けにより、福音のメッセージは、ウェブサイト、ラジオ、ビデオ、ソーシャル・ネットワーキングを用いて、同団体のメディア・センターからイスラエル全土に向けて発信されています。**One for Israel Ministries** は、イスラエル人がインターネットで「イエシュア」を検索すれば、簡単に真理を発見できるようにしているのです。彼らは、イスラエル人がヘブライ語でイスラエルの文化に合った形でメッセージを見つけられるように活動しています。そして、関心を示した人々のために、**One for Israel** のチームは、意見や質問に対応することを通じて、人々を近くのビリーバーたちにつなげる活動を行っています。

放送

放送メディアは、大勢のユダヤ人に福音のメッセージを伝える優れた方法です。**Zola Levitt Live**、**Jewish Jewels**、**The Christian Jew Hour**、フィンランドの **IRRTV** などは、この道を切り開いてきました。

ラジオ

In the Line of Fire の司会者であるミカエル・ブラウンは、電波が福音を促進するのに役立つと考えています。

過去12年間、私は毎週、イスラエルとユダヤ人に焦点を当て、幅広いトピックをカバーするラジオのトーク番組を毎日放送してきました[102]。それはオンラインでも放送されています。活動が続ける中で、ゲイの改革派ラビからハシディズム派のラビまで、様々な常連の聴取者を獲得してきました。密かに私に手紙を書いて「放送を聞いている」と伝えて来た人もいました。質問[103]や議論を求める[104]人もいます。

彼らの新しい誕生を伝えるために電話をかけて来た人もいました[105]。ラジオは、周囲の人に知られることなく聴き、匿名でやり取りする道を人々に提供してきました。これは、多くの場合、ユダヤ人伝道に不可欠な鍵なのです。

テレビ

Jewish Voice Ministries International (JVMI) の運営責任者であるジョナサン・バーニスは、テレビが伝道の重要な媒体であることを次のように説明しています。

私たちは、キリスト教の信仰のユダヤ・ルーツとイスラエルの重要性を、クリスチャンの視聴者と共有することを目的としたテレビ番組を毎週制作し、クリスチャン・メディアに配信しています。私たちの番組では、イエシュアを信じたユダヤ人たちの証しを重点的に取り上げてきました。また、祭の意味と福音のユダヤ的な文脈も定期的に取り上げています。これらの番組はユダヤ人伝道のために制作されたわけではありませんが、メシアニック・ジュー共同体を紹介し、ユダヤ人伝道の必要性を強調することで、より広いキリスト教世界でのユダヤ人伝道の推進に間接的な影響を与えたと思います。さらに、私たちの放送により、多くの資金が集まり、過去30年間に何百もの他のユダヤ人伝道活動を支援することができました。私たちのプログラムは、何十万人ものクリスチャンの関心を引き起こし、ユダヤ人伝道活動を支援し、数百人がユダヤ人伝道の活動に関わるようになりました。

映画

Experience Israel プログラム責任者のジャスティン・クロンは次のように述べています。

よくできた信仰映画[106]は、物語を語り、関連情報を簡潔で楽しい方法で伝えることができ、人々にイエスと、彼の教え、さらには彼に従う人々についての見方を変えさせます。誰でも忙しい生活をしていますが、特に尊敬する人から「この映画は絶対見るべきだ」と言われれば、飛行機で移動中の時間や、家で暇のある時間にスマホなどで見てくれるかもしれません。そうすれば、映画について話し合う機会が生まれます。あなたの友人は、イエスと弟子たちが空想の世界に生きていたわけではない、という考えに一步近づくかもしれません。私もそうだったのです。

人道支援活動

世界中のユダヤ人コミュニティが自給自足の裕福なコミュニティと見なされていた時代がありましたが、現代のユダヤ人たちの中には、世界の他の民族と同様に、貧しく、疎外され、搾取されている人々がいるのです。

貧困者と麻薬中毒者への奉仕

ジューズ・フォー・ジーザスのテルアビブの宣教スタッフ、ヴァレリー・ボロトフは次のように報告しています。

週に2回、「メコミ」というフード・トラックで地域を回ります。それは、貧しい人々にすぐ見つけてもらえるような外見になっています。トラックは食料と水が満載されていますが、私たちの本当の目的はテルアビブの通りにいる人々に希望を与えることです。一部のチームメンバーはトラックに残りますが、他のメンバーは通りに出てホームレスと話をし、福音の霊の糧と食料の両方を提供します。この活動が、路上生活者にとって回復への一歩となるかもしれないのです。

サイモンはトラックで私たちのチームに会いましたが、イエスは彼のユダヤ教の信仰に反すると言いました。次に会ったとき、詩編22篇を読むと、彼は「ぼくを変えられるの神だけだ」と言いました。23日後に会った時、彼は施設（リハビリテーションセンター）に連れて行って欲しいと言いました。妻から見捨てられそうになった、というのです。そして彼はイエスを受け入れる祈りをしたのでした。

病院での活動

バーニスは、医学的・人道的活動がユダヤ人伝道の重要な部分になり得ると信じています。

私たちは、大規模な人道的および文化的イベントを利用して、福音を宣言し、メシアニック・ジューのコングリゲーションを設立しています。

私たちの診療所は、以前から東ヨーロッパと旧ソ連地区で続けていた活動から始まりました。そこでは、ユダヤ人の音楽とダンスの大規模なイベントを開催して、群衆を集め、福音を宣言していました。私たちはそのモデルを変化させ、短期間の医療と人道支援を通じて、エチオピアとジンバブエのユダヤ人コミュニティに宣教を行いました。これらの取り組みにとって最も重要な要素は、福音の招きに応じた人々に効果的なフォローアップを行うことです。次に、新しいユダヤ人信者で構成される新しいメシアニック・コングリゲーションを、彼らの通いやすい地域に設立します。それに加えて、現地付近、あるいはその国のキリスト教会との協力関係を作るようにしています。

東ヨーロッパと旧ソ連地区には、1990年代に私たちの努力によって設立され、今日まで続いている約30のコングリゲーションがあります。エチオピアとジンバブエには、1999年に最初の診療所を設置して以来、150以上のコングリゲーションが設立されています。

その他のアイデア

ユダヤ人伝道活動に関わる人々は、ユダヤ人に伝道するための新しい手法を常に模索してきました。今日、私たちは、喫茶店、アートギャラリー、ゲストハウス、さらには私たちの居間のソファなど、とにかく居心地の良い場所に人々を招くようにしています。

喫茶店

ジューズ・フォー・ジーザスのロサンゼルス支部長であるアイザック・ブリックナーは、「第三の空間」を作ることによって、ユダヤ人伝道を行う新たな方法について語ります。

「Upside Down cafe」を作る目的は、UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）の、信仰から最も遠いユダヤ人の大学生を巻き込むことでした。喫茶店やその他の「第三の空間」は、求道者たちの世界観に影響を与える有意義な会話ができる場所だと考えたのです[107]。

宣教師と深い霊的会話をするのを躊躇するユダヤ人も、ジューズ・フォー・ジーザスが粋な喫茶店やアートギャラリーを運営していて、フレンドリーなスタッフがいて、クールな演出がなされているのを見れば、宣教師を避けていた自分たちの態度を考え直します。[108]。2019年に開店して間もなく、私はダニエルという名の宗教的な大学院生と深く霊的な会話をしました。ダニエルは、ジューズ・フォー・ジーザスである私たちが喫茶店を運営する理由を特に知りたがっていました。それで私たちの考えが間違っていないと確認できたのです。

視覚芸術と舞台芸術

チョーゼン・ピープル・ミニストリーズの制作者であるエリザベータ・カーブは次のように考えています。

伝道における芸術の目標は、福音を見て経験するように人々を導くことです。ありがたいことに、ユダヤ人のミレニアル世代は、インスピレーションを得る何かを常に探しています。たとえば、次の2つの手法は、まだ十分に活用されていません。

1) ユダヤ人地区に、ユダヤ食事規定に適合した最新流行の喫茶店を設置し、ライブ・パフォーマンスやイベントができるステージと、子供用の遊び場を設けます。全てのユダヤ人が対象ですが、特にユダヤ人のミレニアル世代と正統派の両親を意識したものです。芸術的なパフォーマンスや、他宗教との交流イベントは、福音の物語を聞いて刺激を受けるための中立的な場となるのです。

2) 映画は今日における「説教壇」です。映画の物語は、無意識のうちに人々の心に多くの信念を与えます。映画を優れた方法で利用し、ユダヤ人ビリーバーやメシアの物語を、真実やフィクションの形

で伝えるべき時だと思います。たとえば、脚本を書いて発表したり、メシアニックの制作会社を設立したり、あるいは単に人々を結びつけることでもその一歩になるでしょう。

ゲストハウス

リーチ・イニシアチブ・インターナショナルの創設者であるスチュワート・ウィノグラードは、イスラエル人に伝道する方法について次のように語っています。

毎年、インドに旅行する 100 人以上のイスラエル人に様々な形で愛を示し、関係を築いています。これらのイスラエル人のほとんどは、何らかの形で福音を聞くのです。私たちが運営する「サンライズ・ハウス」のチームメンバーは、WhatsApp を介して、インドで接触した約 350 人のイスラエル人と定期的に連絡を取り合っています。私たちはイスラエルでインドの「同窓会」を行っています。私たちの活動を強化し、効果を高めるためには、イエシュアの福音を同世代の若者に届ける心を持った、より多くのイスラエル人スタッフが必要です。

ゲストハウスのミニストリーを通じてユダヤ人に福音を伝える世界各地の活動として、インドのゴアにある「ミカモカ・カフェ」、アルゼンチンとイスラエルにある「ザ・シェルター」。そしてニュージーランドを拠点とする HIT（ホスティング・イスラエリ・トラベラーズ）などがあります。

カウチサーフィン

（訳注：ホテル等宿泊施設ではなく自宅を旅行者に対して開放し、寝る場所を提供する宿泊形態）
イスラエル人は旅行好きであり、イスラエル国外を旅行する人、特に兵役後の時期に旅行する人は、霊的なものを探求する傾向があります。世界の様々な場所（特に観光地）に住むクリスチャンにとって、カウチサーフィンをするイスラエル人旅行者[109]を泊めることは、有意義な人間関係を作り、福音を伝える素晴らしい機会となります。

キャンプ・ミニストリー

「デヴァル・エメット・メシアニック・ジューイッシュ・アウトリーチ」の責任者であるカーク・グリーブは、彼らが運営する「キャンプ・ハデレク」について次のように述べています。

私たちの一部門であるハデレク・ユース[110]は、ユダヤ人コミュニティ全体の十代の若者や若い成人の精神的ニーズを満たすことを目指しており、メシアニック・ジューの若者がイエシュアへの信仰を育み、ユダヤ性を肯定的に受け止めるための霊的訓練を行っています。私たちのキャンプ・ハデレクのプログラムは、8 歳から 18 歳までのユダヤ人がメシア・イエシュアへの信仰を通じて神との個人的な関係を築き、自分自身のユダヤ人としてのアイデンティティに対する理解とコミットメントを強化し、救い主イエシュアを信じる自分たちと同年代のユダヤ人の友達を作るプログラムです。地元の若者に積極的な働きかけを行った結果、毎年、参加者の約 3 分の 1 は、未信者のユダヤ人の家庭から来ています。また、私たちのキャンプには、若いユダヤ人ビリーバーのスタッフもいますが、彼らはメシアニック・ジューのリーダーシップを育成する霊的指導プログラムに積極的に継続参加している若者たちです。

子供のミニストリー

「子供と青年」という活動の東海岸責任者で、キャンプ・ギルガル・イーストの責任者でもあるリベカ・ロード氏は次のように説明しています。

ユダヤ人の若者は弟子として特別な課題を抱えているのですが、両親が強い信仰者である場合は、信仰とユダヤ性の問題を解決できると考えがちです。しかし、若い人たちは、聖書の読み方を学び、イエスが誰であるかを理解し、ユダヤ人のアイデンティティを積極的に受け止めるためには、彼らの手

本となる信仰の先輩を必要としているのです。

ケツィアは最近大学を卒業したばかりで、両親はユダヤ人伝道団体で働く宣教師です。私たちは彼女の高校時代と大学時代を通して定期的に会ってきました。そして彼女は、神の言葉を愛するだけでなく、神の言葉に仕え、それを教えることを目指すようになったのです。

ユダヤ人伝道団体間の戦略的協力

パートナーシップは常にユダヤ人のミニストリーの目標でしたが、最近はそれが強く語られるようになりました。ユダヤ人伝道は非常に困難な仕事を伴う小さな分野であり、一緒に働く方法を見つけなければ見つけるほど、私たちは神を喜ばせ、その結果、私たちの努力が実を結びます。本章では強調していませんが、ユダヤ人伝道団体とメシアニック・コングリゲーションの協力も最近は進んでいます。「ファイヤーサイド・チャット」のようなグループは、メシアニック運動指導者と、ユダヤ人伝道団体の指導者が提携の方法について話し合う場を提供しています。

宣教スタッフの相互出向

出向とは、協力関係にある2つの宣教団体間で、地域に対する長期的な視点に立って宣教スタッフを別の組織に「貸し出す」ことを言います。

国際ユダヤ人伝道団（International Mission to the Jewish People）の活動責任者リチャード・ギブソンは、そのような協力関係が組織にとっていかに有益であったかを、次のように語っています。

国際ユダヤ人伝道団のスタッフを他の宣教団体に派遣したのは、イエスの御名を高めるという王国のビジョンに導かれたからでした。宣教師を地元の宣教団体や教会に配置すると、両方の組織にとってより効果的な福音宣教の成果を得ることができるため、相互に戦略的な利益があるのです。

テルアビブ、エルサレム、ブダペストのジューズ・フォー・ジーザスに宣教師を出向させた時には、すぐに効率的に仕事を始めることができました。また、ヤッフォでは、地元イスラエルのメシアニック・コングリゲーションであるホープ・オブ・イスラエルと協力して活動している宣教師がいます。国際ユダヤ人伝道団が適切なインフラを持っていない国に宣教師を派遣することで、支援者からの支援献金をより有効に用いることが可能になります。既存の管理インフラを使えば、一から始める必要はありません。

共同事業

ノルウェー・イスラエル伝道団の宣教師であるヴェガード・ソルトヴェイトは、伝道における共同事業がどんな影響を与えるかを、次のように語ります。

共同事業に関する私たちの戦略は、お互いを祝福し、お互いに恩恵を受けつつ、ユダヤ人伝道の戦略的で良い方法と一緒に見つけることです。その一例が、エルサレムのカスパリセンター[111]です。経験的に言って、協力団体はそれぞれ多様なスキル、独自性、および専門知識を持っています。ですからカスパリセンターでは、協力することで、より強力になり効果的になっています。これは、明確な相乗効果です。2020年、パートナー団体の一つがコロナのため約束された献金を出せなかった時、他のパートナーが支援して下さるという経験をしました。私たちは互いに支え合うだけでなく、さらに重要な共同プロジェクトであるカスパリセンターと一緒に支えることができたのです。

印刷物などの相互利用

テルアビブのジューズ・フォー・ジーザス宣教師マーヤン・ショシャニは、さまざまな伝道グループ間で印刷物や資料、機器などを共同利用できることの祝福について次のように説明しています。

イスラエルのジューズ・フォー・ジーザスがボランティアの訓練用に使っている印刷物の一部は、ホープ・フォー・ニューヨークから提供されたものです。ホープ・フォー・ニューヨークは、ニューヨーク市にある Redeemer Presbyterian 教会の支部であり、ボランティア向けの充実したトレーニング・カリキュラムを持っているのです。

この短い節には含まれていない多くの戦略がありますが、特に次の3つを強調したいと思います。それらは、私たちが支持するローザンヌ運動関連の重要な団体のいくつかが言及されているからです。

社会正義

デンマークのイスラエル伝道団の責任者であるアルネ・ペダーセンは、社会正義と伝道をどのように両立させることができるかについて、以下のように語ります。

私の戦略は、社会正義とクリエイション・ケア（訳注：神の創造物を適切に管理するという視点からの環境保護）の問題に積極的に関与することです。たとえば、人身売買、ジェンダーと民族性のための平等活動、和解、特にイスラエル人とパレスチナ人（ただし、他の民族間の和解も含む）です。

そのような戦略は、ユダヤ人伝道をより大きな働きとし、より大きなスケールの福音をユダヤ人に伝えるのに役立つと信じています。個人の頭の中で霊的な「模様替え」をするだけでなく、実際に私たちが住む社会と世界に具体的な違いをもたらす福音です。社会正義とクリエイション・ケアを社会に導入することは、復活をもたらすことです。その「復活事業」の中に神がおられるのです。

イスラエルとパレスチナでの和解活動では、こんな具体例がありました。ある兵士が、メシアニック・ジューのビリーバーとパレスチナ人クリスチャンのグループに砂漠で遭遇しました。兵士は「ありえない」と思ったので、彼はグループの人々に何が起きているのか、なぜ「敵」が友達のように見えるのかを尋ねました。そして彼は新約聖書を受け取って行きました。

会衆的アプローチ

ヘリテージ・ロサンゼルス共同主任牧師であるジェイソン・メナルシクは、彼らのCongregationがこのアプローチの例であると言います。

私たちは、アメリカのメシアニック・ジュー会衆のパラダイムを変える努力を始めています。私たちの目標は、若いユダヤ人の聴衆を巻き込み、成功した教会開拓モデルが使用した戦略を現代のユダヤ人の文脈に適用することです。その原型は、親密な環境で個人的なことまで話せる場を作り出し、真の人間関係を提供できる全人的なミニストリーになるように設計されています。その人間関係は、主との関係を育み、現代生活の中でユダヤ人の民族的伝統を生きることを有意義にするのです。

幅広いコミュニティの人々との出会いから安息日のテーブルでの体験まで、ミレニアル世代のユダヤ人が、たとえ親がユダヤ人でなくても親と関わるための新しい方法を開発したいと考えています。週末の礼拝もまた、70分から90分の形式で、メシアニック・ジューの生活のリズムと価値観を反映した、ダイナミックな礼拝と簡潔なメッセージを備えた質の高いものを目指しています。これは新しい取り組みであるため、この新しいパラダイムを試しているロサンゼルス西部の私たちのCongregationが、良い実例となることを願っています。

ミシガン州ウェスト・ブルームフィールドにあるシェマ・イスラエルのラビ・ローレン・ジェイコブズとラビ・グレン・ハリスは、彼らのCongregationの様子を以下のように語っています。

私たちのCongregationは、「非公式」ではありますが宣教団体でもあり、私たちの教えでは個人

的な伝道への呼びかけが強調されています。私たちのメンバーは、「Jesus Made Me Kosher」と書かれた揃いのTシャツを着て、地域のイベントに参加して存在を主張しています。たとえば、アート・フェスティバル、ウッドワード・ドリーム・クルーズ、デトロイトの感謝祭パレードなどです。近年では、トラクトの配布は減らし、人々との個人的な会話に力を入れています。

秋の祭に合わせて、地元のユダヤ人コミュニティに印刷物を郵送する方法も、宣教の試みとして行って来ましたが、比較的限られた結果しか得られていません。

地元のラジオ放送局に招かれて出演したことも何度かありました。しかし、礼拝に関する問い合わせや出席の数をもとに評価するなら、最大の影響力を発揮したのは、先端メディアであるウェブサイトやオンライン・ストリーミング、ソーシャルメディアであったことは疑いのない事実です。

事業を通じた宣教

ヤダイムの活動責任者であるアデン・フリードマンは、社会事業がジューズ・フォー・ジーザスのユダヤ人伝道の場になったことを、次のように明かしています。

ヤダイムは、南アフリカのジューズ・フォー・ジーザスの一部門として設立されました。それは、地元のユダヤ人コミュニティを向上させることを目的としたプロジェクトに関わる活動です。私たちは、多様な技術を持つチームを編成して、ユダヤ人コミュニティを支援し、彼らにイエシュアの愛を示しました。私たちはこの機会を利用して、人間関係を築き、同時に信仰を分かち合っています。

たとえば、地元のユダヤ人コミュニティの歴史や物語を紹介する料理本を制作し、彼らの物語を記録し、私たちの物語も紹介し、商業的に採算が取れる本を出版したこともあります。こうして集められた資金はユダヤ人コミュニティに還元されます。

戦略について最後に — 未来の希望

(もし主の来臨が遅れて) 次の40年間、宣教を続けているとすれば、どんなことが起こって欲しいかを関係者に聞いてみました。以下がその回答です。特定の順序や優先順位なしに、ただ列記していますが、あなたの宣教団体、コングリゲーション、あるいはローザンヌのネットワークが世界に福音を伝える際に、ヒントになる事柄があると思います。

ユダヤ人伝道が進むことを想像してください… フリードマンの夢。

私はメシヤニック・イエシバ（ユダヤ人の大学または神学校）が設立されるのを見たいと思っています。イエシバの学生が世界中から受けるのと同じ種類のプログラムを学生が受けるために。また、メシヤニック・ジューがユダヤ人であることを学び、受け入れることに同じ情熱を持っていることを示すのにも役立ちます。研修施設としてだけでなく、成長の場としても活用されることを想定しています。

ペダーセンは次のように想像します。

私が絶対に見たいと思っているのは、特にユダヤ人ビリーバーとパレスチナのクリスチャンとの間の和解へのより強いコミットメントです。聖書は、自分の創造物に手を差し伸べた神について語っています。よみがえられたメシヤにある兄弟姉妹を愛するよう召されているのではないのでしょうか。ユダヤ人伝道に携わるミニストリーは、この努力の最前線に立つべきです。

クロフォードは次のように考えます。

今日のユダヤ人伝道に欠けていると私が信じている主な分野が2つありますが、それが将来変わることを望んでいます。それは、インターネットを伝道媒体として使用する優れた点です（私の意見では、ユダヤ人伝道はオンラインで後れを取っています）。（メシヤニック運動は、プロテスタントの

正統派や歴史的なユダヤ教と対話する学術レベルの体系的な神学をまだ生み出していません)。

ルードは次のように考えます。

私は、子供や若者に奉仕しているユダヤ人のミニストリーの中で、より多くのパートナーシップと協力が見られることを望んでいます。

ウィノグラードは次のように述べます。

私は、メシアニック ジューの会衆の指導者がビジョンを伝え、メンバーを伝道と弟子作りの訓練にもっと投資することを望んでいます。また、会衆や教会がもっと多くの時間を費やし、ユダヤ人の救いのための祈りに集中することを望んでいます。そして最後に、より多くの教会がユダヤ人の救いのために神の心を受け入れ、人的資源と財政的資源の両方を、この戦略的で予言された終わりの時の人々の霊的回復にはるかに大きな方法で投資するなら、それは素晴らしいことです。

アイザック・ブリッカーの夢：

将来、ユダヤ人ビリーバーの世代が、ユダヤ人としてイエシュアに従うことの意味を深く考え、芸術や学問を通じて有意義な文化的成果物を創造するのを目の当たりにします。メインラインのユダヤ人コミュニティ。これには、思慮深い学問、神学的考察、運動主導の祈り、そして召命を通じて卓越した神に仕える能力のビジョンを描くユダヤ人ビリーバーの弟子化が必要です。

クロンは次のことを想定します。

イエス(または彼の追従者)の主張にほとんどまたはまったく関心を持たないユダヤ人の懐疑論者を、「彼らは私が思っていたほど愚かでも、狂っていても、奇妙でもない」と思わせる宣教ツールが必要です。ユダヤ人向けのほとんどの宣教は、ユダヤ人を「いいえ、興味がない」から「はい、イエスはメシアです」に性急に連れて行こうとしていると思うからです。

ランドルは次のように願います。

将来の私の夢は、ユダヤ人コミュニティ内の他の声とのオンライン・パートナーシップをさらに深めることです。私たちの希望は、ユダヤ人伝道活動の幅広い取り組みを通じて、イエスを信じるユダヤ人が、ソーシャルメディアでの開かれた対話や意見交換を妨げる汚名を着ないことです。

レウィンは次のように主張します。

ユダヤ人コミュニティのさまざまなメンバーと積極的に対話して、ユダヤ教とメシアユダヤ教の共通点を発見しようとするポッドキャスト。また、LGBTQ コミュニティのユダヤ人に積極的に関与し、手を差し伸べるための、考え抜かれた詳細な戦略的枠組みも見たいと思います。

ザレツキーは次のように述べます。

教会とメシアニック・Congregationsは、今日のグローバルな教会の意図的な表現として、異文化間のミニストリーにもっと焦点を当てることができます。異民族間の結婚と民族間の関係は、以前は単一文化的で単一民族だったコミュニティの様相を急速に変化させています。教会共同体は、リーダーシップを発揮し、キリストの体にある民族的に多様な共同体をモデル化することができます。

結論

上記の戦略とイニシアチブの紹介によって、皆さんが勇気づけられ、刺激を受けることを願っています。それらは、世界中のユダヤ人伝道で起こっていることすべてを決して網羅しているわけではありません。それでも、これらが、世界のあなたのコミュニティや地域でユダヤ人の福音化をもたらすのを助けるために、神から与えられた新しい戦略の推進力になることを願っています。あなたが伝道指導者、実践者、または教会の指導者や教師であるかどうかにかかわらず、効果的なユダヤ人伝道はあなた

の関与にとってより良いものになるでしょう。LCJEプラットフォームを通じて、私たちが行っていることを共有し続け、この「章」を継続的な生きた文書にしましょう。

2023 年 4 月 1 日 （石井田直二翻訳）

参考文献：さらに学びを深めるために

－ リッチ・ロビンソン博士

[英語本文へのリンク](#)

- ・ イスラエル、シオニズム、および置換神学 Israel, Zionism, and Supersessionism
- ・ ユダヤ人宣教団体と伝道活動 Jewish Missions and Evangelism
- ・ イエスのユダヤ性 Jesus
- ・ キリスト教神学と実践のユダヤ性 The Jewishness of Christian Theology and Practice
- ・ 護教論 Apologetics
- ・ メシアニック運動 The Messianic Jewish Movement
- ・ 聖書注解 Bible